

資料 1-1

令和 7 年 11 月 7 日

第 2 回男女共同参画推進会議・

女性活躍推進協議会

## ジェンダー平等に関する住民意識調査

中間のまとめ（速報）

（令和 7 年 9 月実施）

豊 島 区

## 目次

第1章 調査実施の概要.....	1
1 調査目的 .....	1
2 調査設計 .....	1
3 調査内容 .....	1
4 回収結果 .....	1
5 報告書の見方 .....	2
6 標本誤差 .....	2
第2章 調査回答者の属性 .....	3
第3章 調査結果の概要.....	9
第4章 調査結果.....	10
1 ジェンダー平等意識について.....	10
2 家庭生活について.....	21
3 子どもの教育について.....	24
4 就労について .....	28
5 あらゆる分野における女性の活躍推進について .....	38
6 人権について .....	40
7 メディア・リテラシーについて .....	50
8 多様な性自認・性的指向の人々について .....	54
9 困難な問題を抱える女性への支援について.....	57
10 豊島区における取組について.....	67
第5章 自由回答・「その他」の回答.....	75
第6章 調査票 .....	76

## 第1章 調査実施の概要

### 1 調査目的

区民の意識啓発の観点も含め、ジェンダー平等に関する意識調査を実施・分析し、社会変化に即応した「としま男女共同参画推進プラン」改定のための基礎資料とする。

### 2 調査設計

- (1) 調査対象 豊島区内在住の18歳以上の区民
- (2) 標本数 目標数：800人
- (3) 調査方法 インターネット調査（モニター調査）
- (4) 調査期間 令和7年8月29日（金）～9月8日（月）

### 3 調査内容

- (1) ジェンダー平等意識について
- (2) 家庭生活について
- (3) 子どもの教育について
- (4) 就労について
- (5) あらゆる分野における女性の活躍推進について
- (6) 人権について
- (7) メディア・リテラシーについて
- (8) 多様な性自認・性的指向の人々について
- (9) 困難な問題を抱える女性への支援について
- (10) 豊島区における取組について

### 4 回収結果

- (1) 有効回収数 815人

## 5 報告書の見方

- (1) 図表中のnとは、回答者総数（または該当質問での該当者数）のことである。
- (2) 集計は、小数点第2位を四捨五入している。したがって、数値の合計が100.0%にならない場合がある。
- (3) 回答の比率（%）は、その質問の回答者数を基数として算出した。したがって、複数回答の設問は全ての比率を合計すると100.0%を超える場合がある。また、5段階評価の質問等において、例えば『そう思う』（「そのとおりだと思う」「どちらかといえばそう思う」の合計）の回答の比率（%）と個々の回答の比率（%）を足しあげた値は、回答者数を基数として算出しているため、四捨五入の関係で一致しない場合がある。
- (4) 回答者数の「全体」には、属性（性別など）のその他や回答しないを含むため、男女別等の属性別の数を合計したものと「全体」の数値が一致しない場合がある。
- (5) 本報告書では、性別、年齢別など、比較分析を必要に応じて行っている。ただし、サンプル数が20未満と少ないものについては、集計結果を参考程度にとどめる必要があるため、本文中のグラフ・表に示しているが、基本的に分析の対象からは除いている。
- (6) 今回調査は、過年度調査と調査手法を変更したため、単純比較ができないが、一部の設問で令和2年度や平成27年度及び平成23年度実施の住民意識調査の結果を参考として掲載している。参考の各グラフには、今回調査との相違点を記載している。

## 6 標本誤差

今回調査は、調査対象となる母集団（豊島区全域に住む18歳以上の男女）から一部を抽出した標本（サンプル）の比率等から母集団の比率等を推測する、いわゆる「標本調査」を行っている。したがって、母集団に対する標本誤差が生じることがある。

標本誤差は次式で統計学的に得られ、①比率算出の基数（n）、②回答の比率（P）によって誤差幅が異なる。

$$\text{標準偏誤差} = \pm 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

例えば、回答者総数（815人）を100%とする比率について、ある質問の回答の比率が50%であった場合の標本の誤差を計算すると、

$$\pm 1.96 \sqrt{\frac{265,263 - 815}{265,263 - 1} \times \frac{50(100 - 50)}{815}} = 3.4$$

したがって、±3.4%が誤差の範囲となる。

つまり、回答者総数（815人）を100%とする比率で、ある質問の回答が50%のとき、豊島区民（満18歳以上）のこの質問に対する回答は、46.6%～53.4%の間にあると考える。

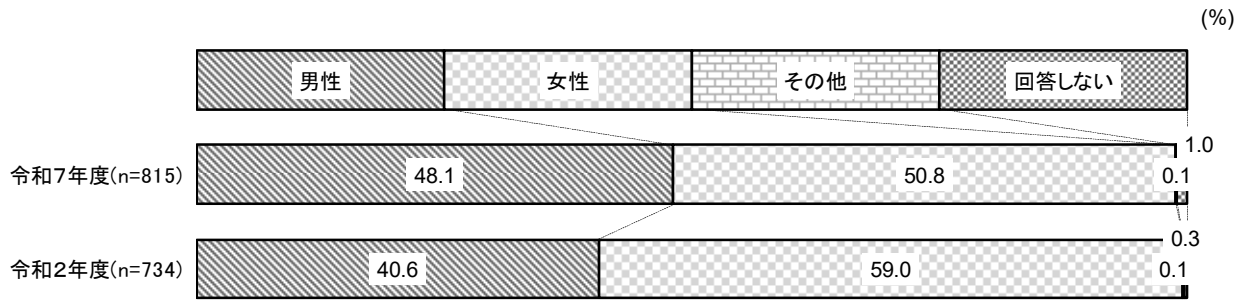
今回の調査結果の標本誤差は下記のようなになる。

	10%又は 90%程度	20%又は 80%程度	30%又は 70%程度	40%又は 60%程度	50%程度
414（女性）	±2.9	±3.9	±4.4	±4.7	±4.8
392（男性）	±3.0	±4.0	±4.5	±4.8	±4.9
815（全体）	±2.1	±2.7	±3.1	±3.4	±3.4

※この表の計算式の信頼度は95%

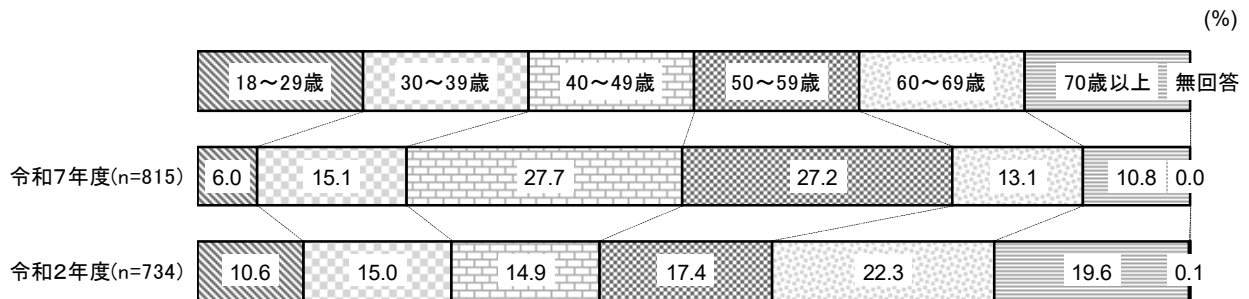
## 第2章 調査回答者の属性

### 【性別】



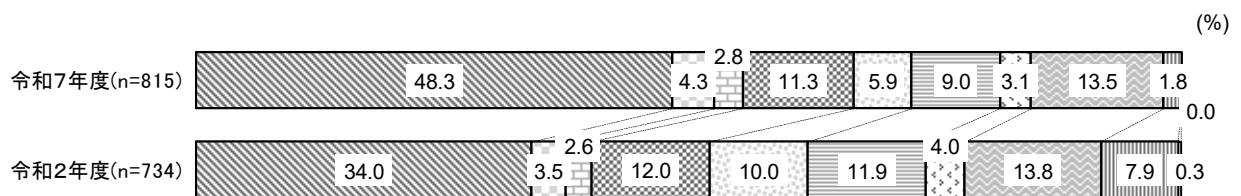
※「その他」：令和2年度は「女性、男性にあてはまらない」  
 「回答しない」：令和2年度は「無回答」

### 【年代】



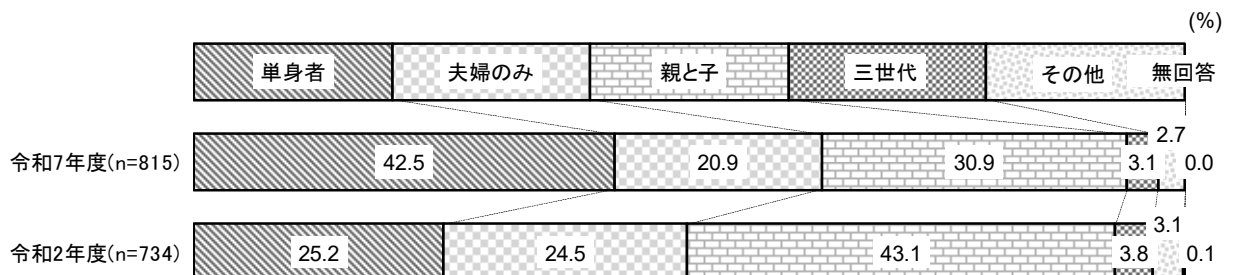
### 【職業】

□正社員 □契約社員 □派遣社員 □パート □自営業(家族従業員を含む) □専業主婦・主夫 □学生 □無職 □その他 □無回答



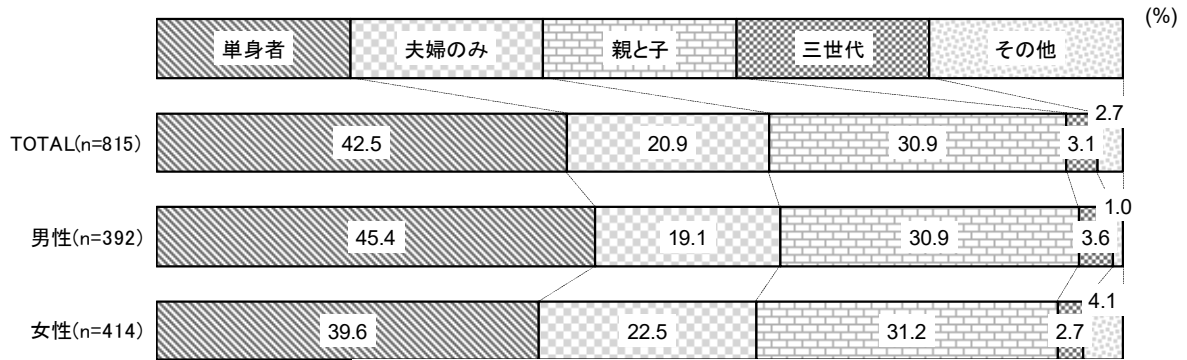
※「正社員」：令和2年度は「常勤の勤め人（管理職）」、「常勤の勤め人（一般）」  
 「その他」：令和2年度は「自由業・個人事業」、「家庭内労働・内職」、「その他」

### 【世帯構成】

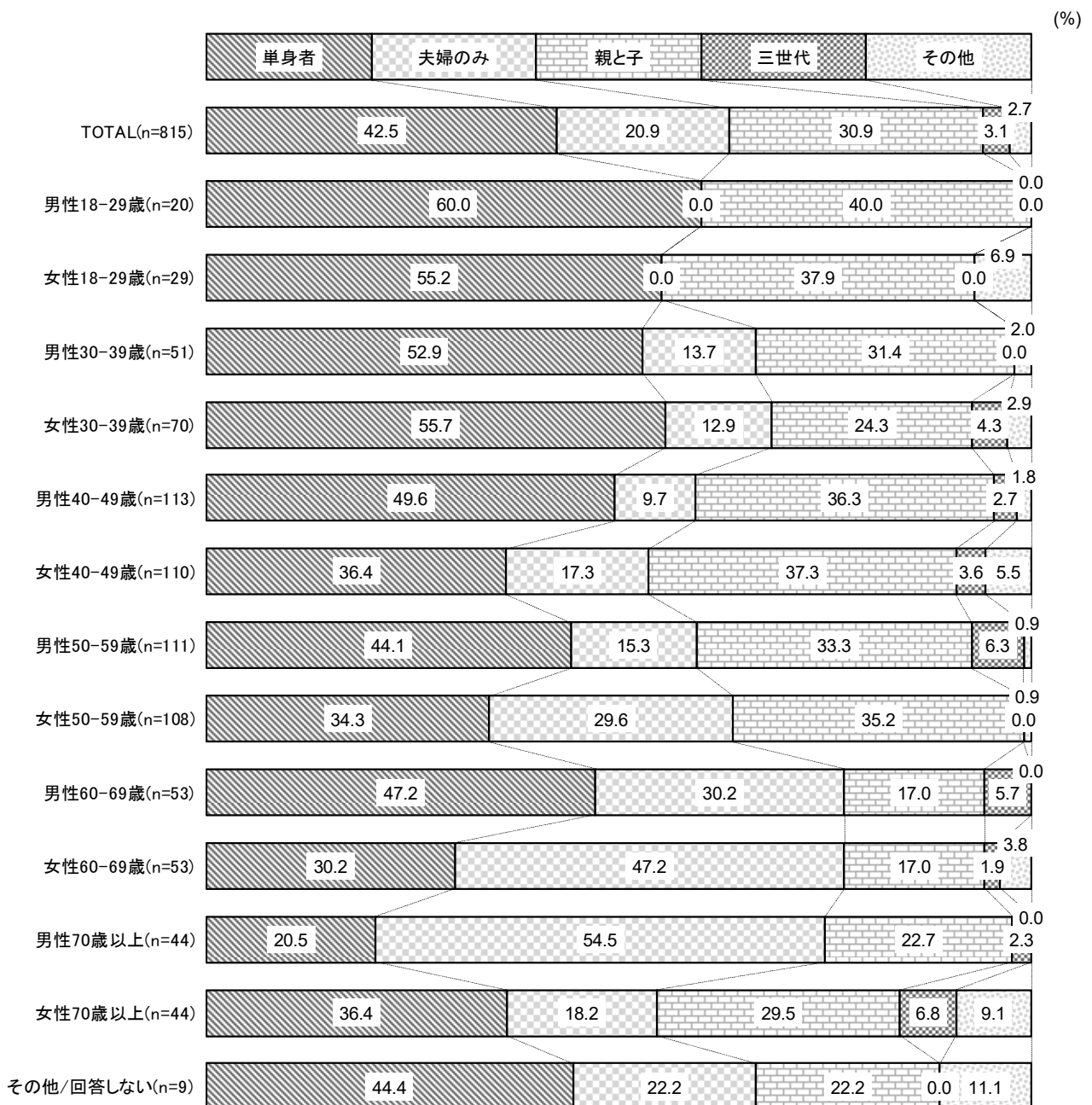


【世帯構成】詳細

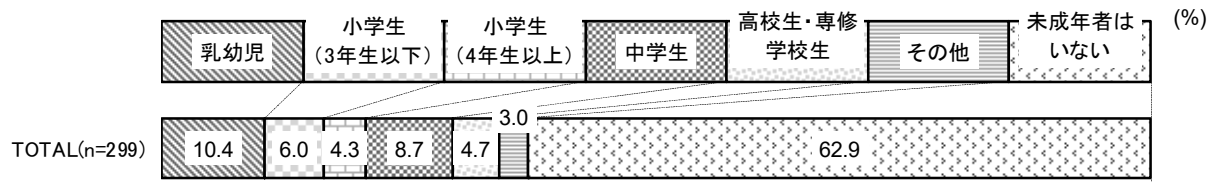
<性別>



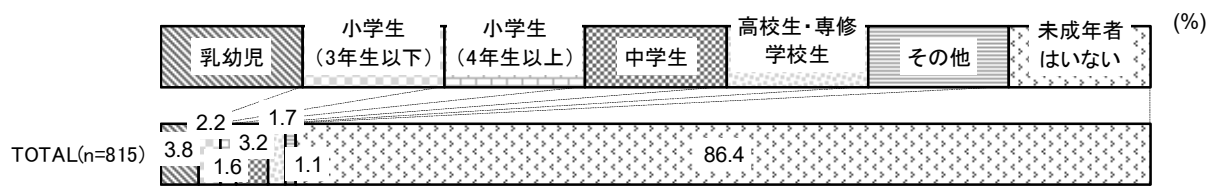
<性年代別>



【同居している一番下の未成年者の状況】  
世帯構成が「親と子」「三世代」「その他」と回答した方の比率



<参考>

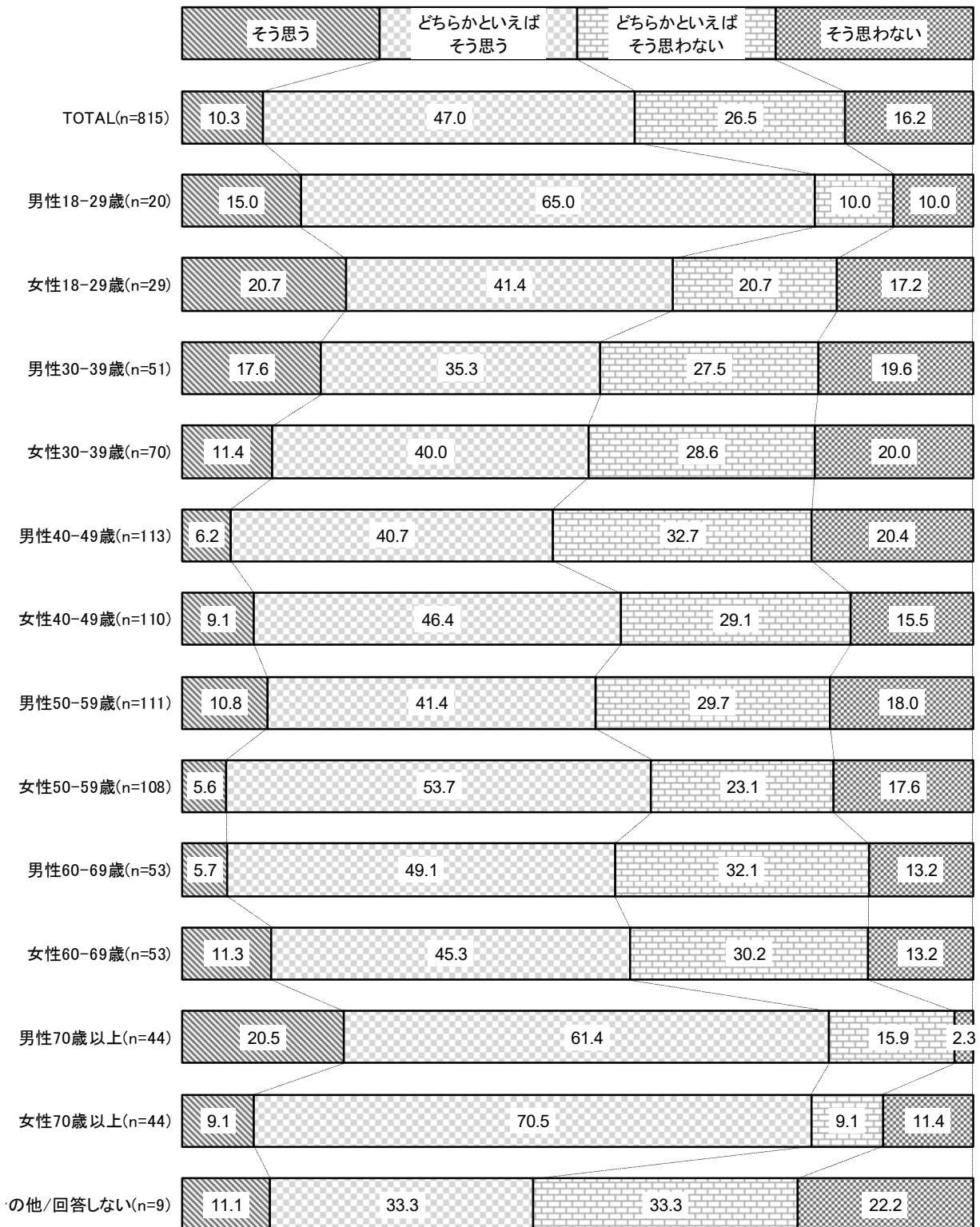


※令和7年度の全数(n=815)とした場合の比率

【自分自身に満足している】

<性年代別>

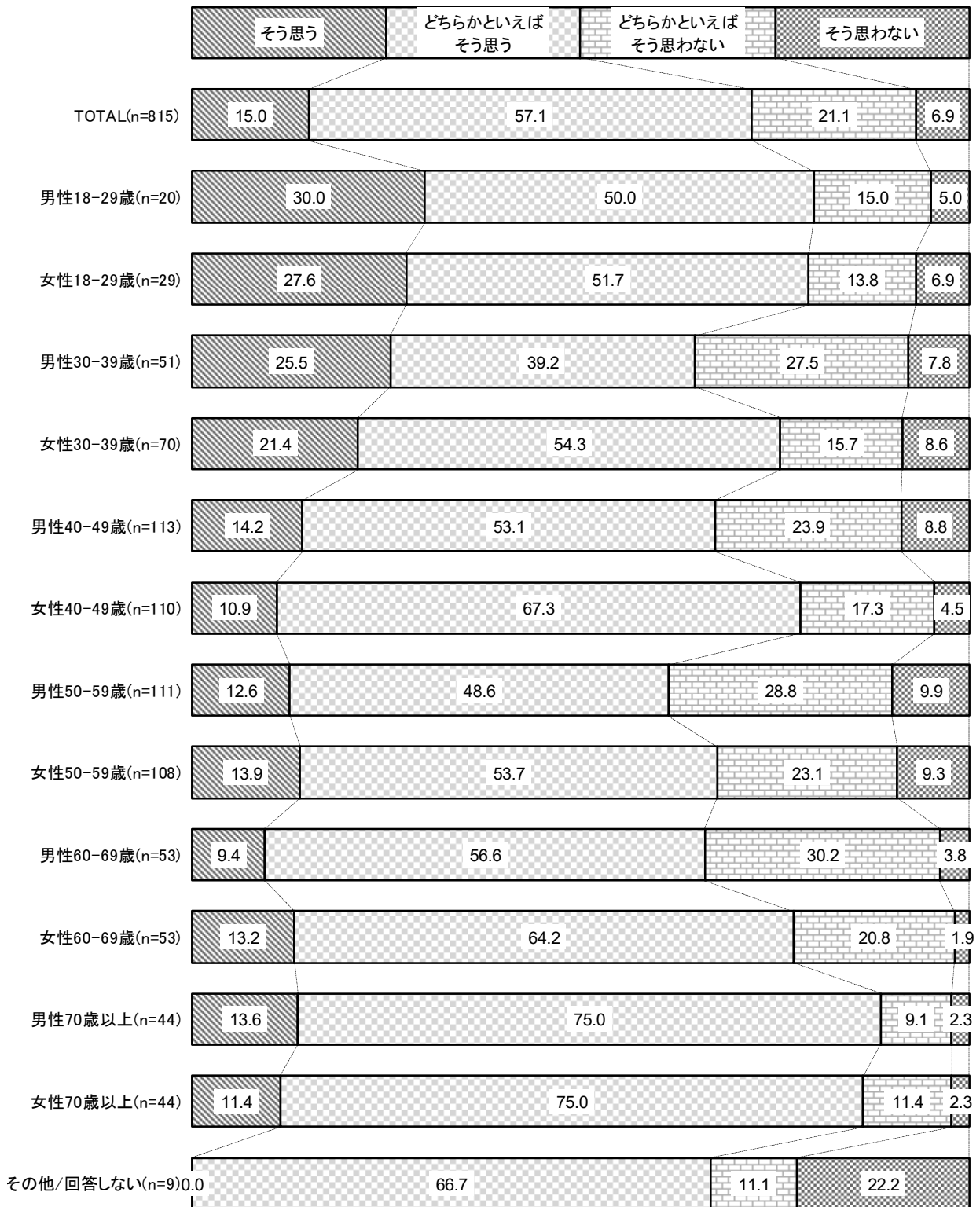
(%)



【自分には長所があると感じている】

<性年代別>

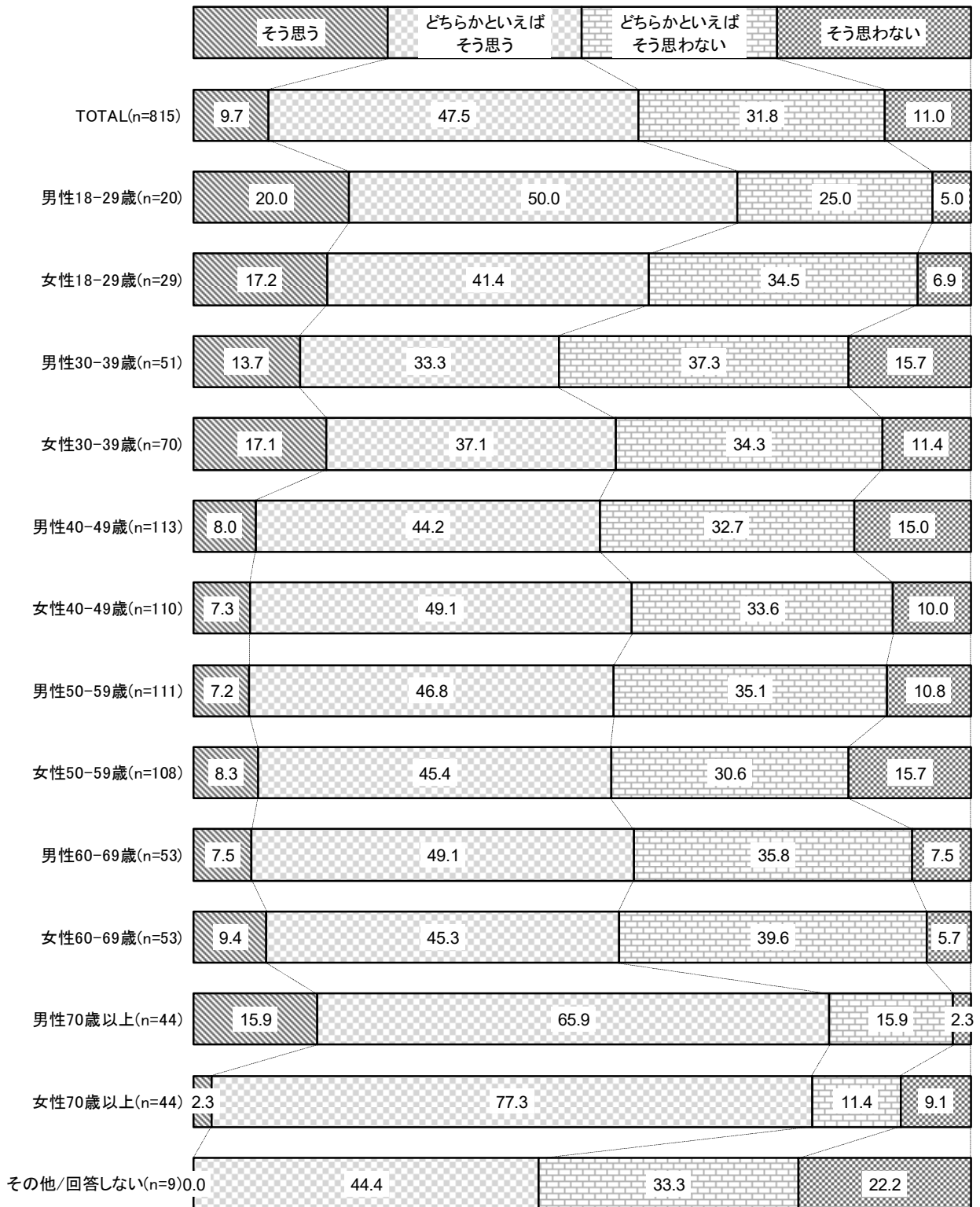
(%)



【今の自分が好きだ】

<性年代別>

(%)



### 第3章 調査結果の概要

【分析中のため、最終報告時に追加】

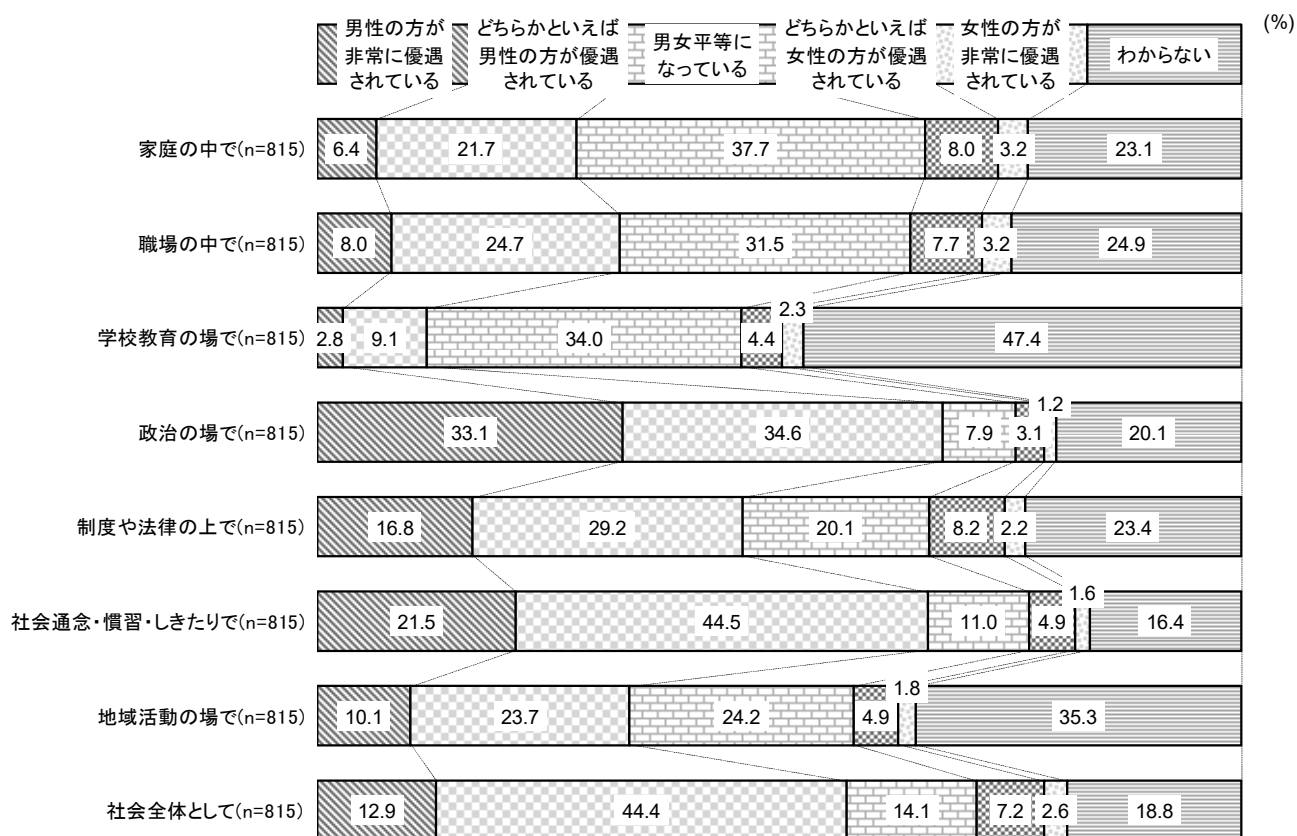
## 第4章 調査結果

### 1 ジェンダー平等意識について

問1 次の分野では、男女平等がどの程度実現されていると思いますか。それぞれ選んでください。  
(回答は1つずつ)

「男女平等になっている」で最も高いのが、「家庭の中で」が 37.7%、次いで「学校教育の場で」が 34.0%、「職場の中で」が 31.5%となっている。

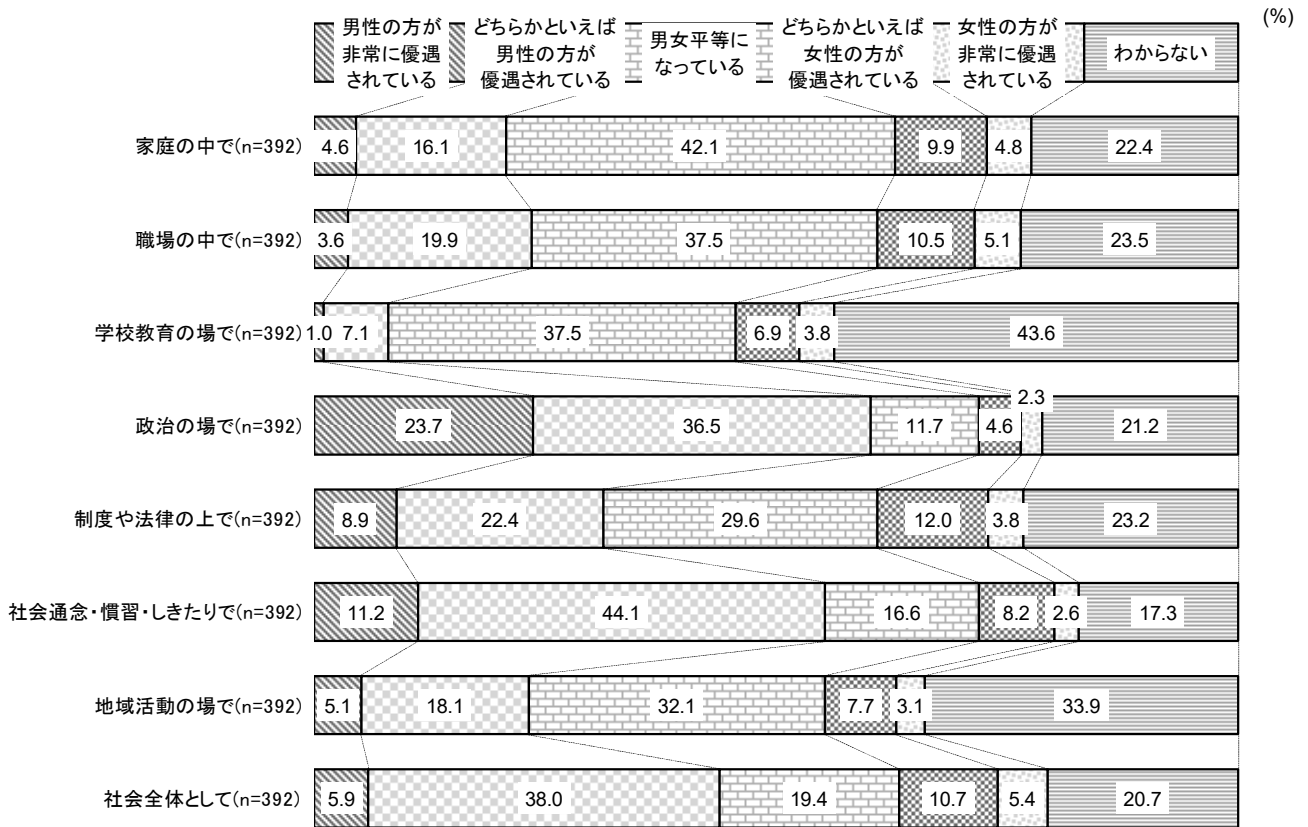
『男性の方が優遇されている』（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計）分野をみると、「政治の場で」が 67.7%、「社会通念・慣習・しきたりで」が 66.0%と他の分野に比べ高くなっている。



【性別】

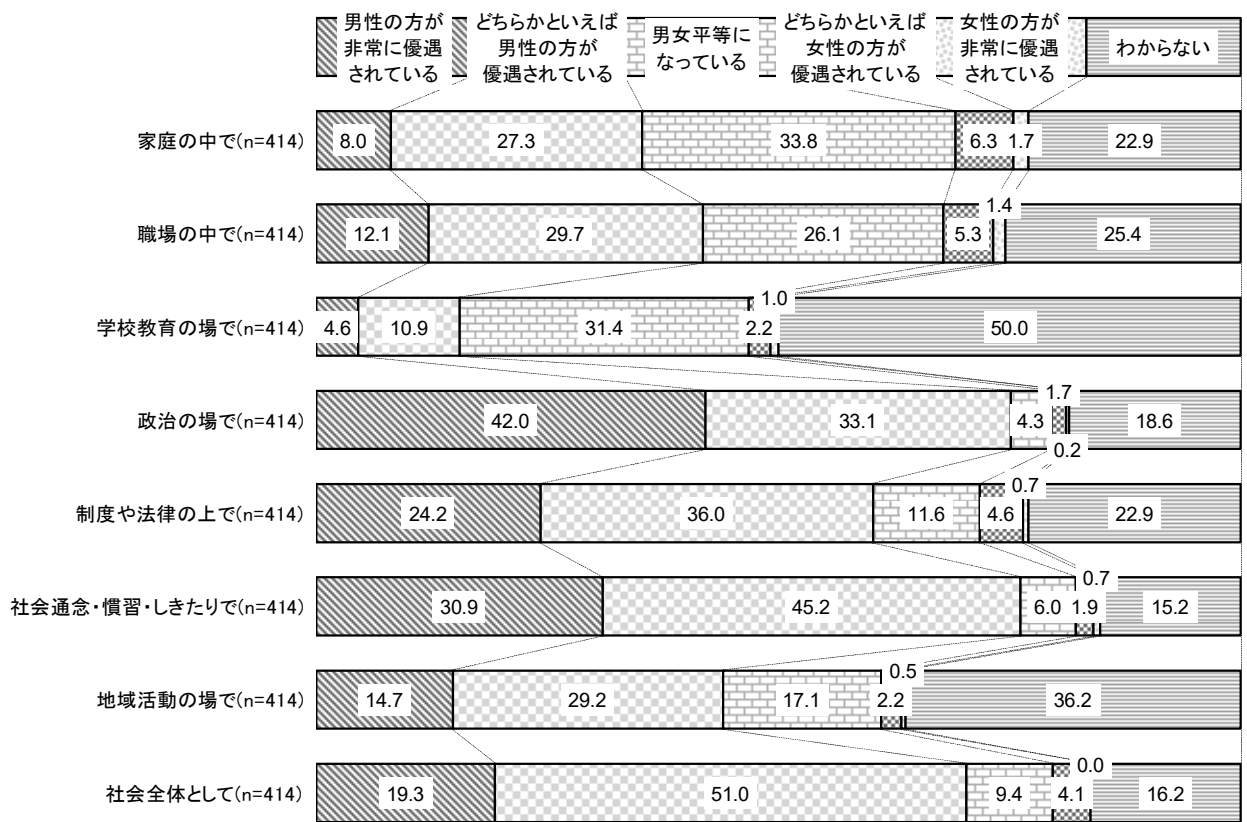
男女ともに、「男女平等になっている」で最も高いのは、「家庭の中で」で、それぞれ、42.1%、33.8%となっている。一方、最も低いのは「政治の場で」でそれぞれ、11.7%、4.3%となっている。

<男性>



<女性>

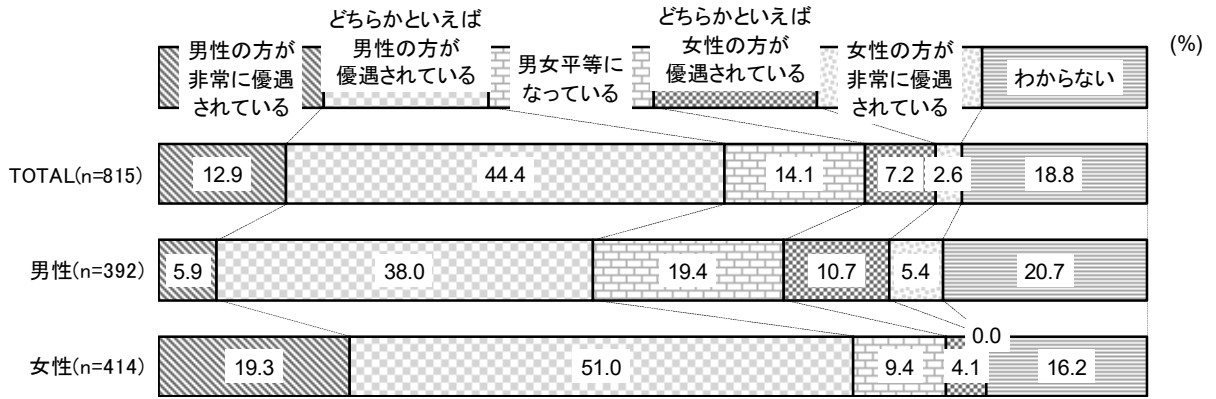
(%)



『社会全体として』

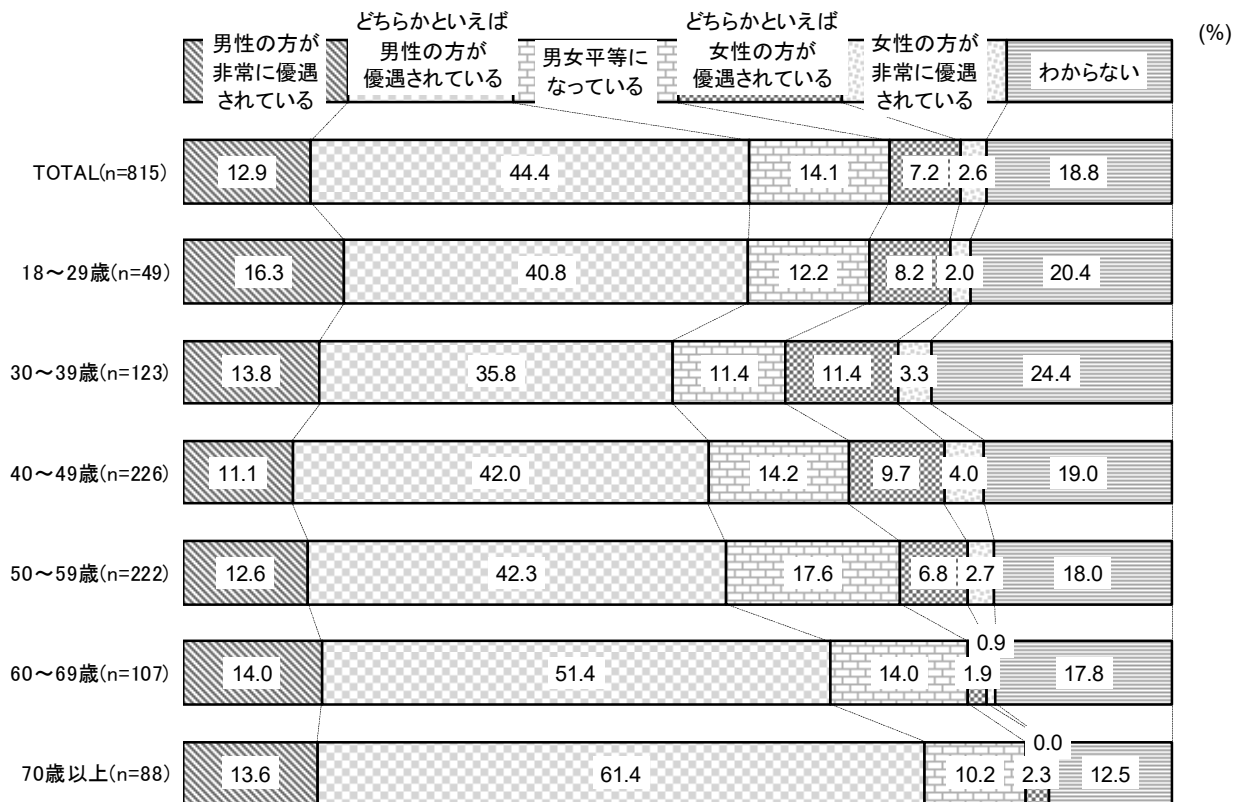
【性別】

社会全体として、「男女平等になっている」は、14.1%であり、男性19.4%に対し、女性9.4%と10ポイントの差がある。



【年代別】

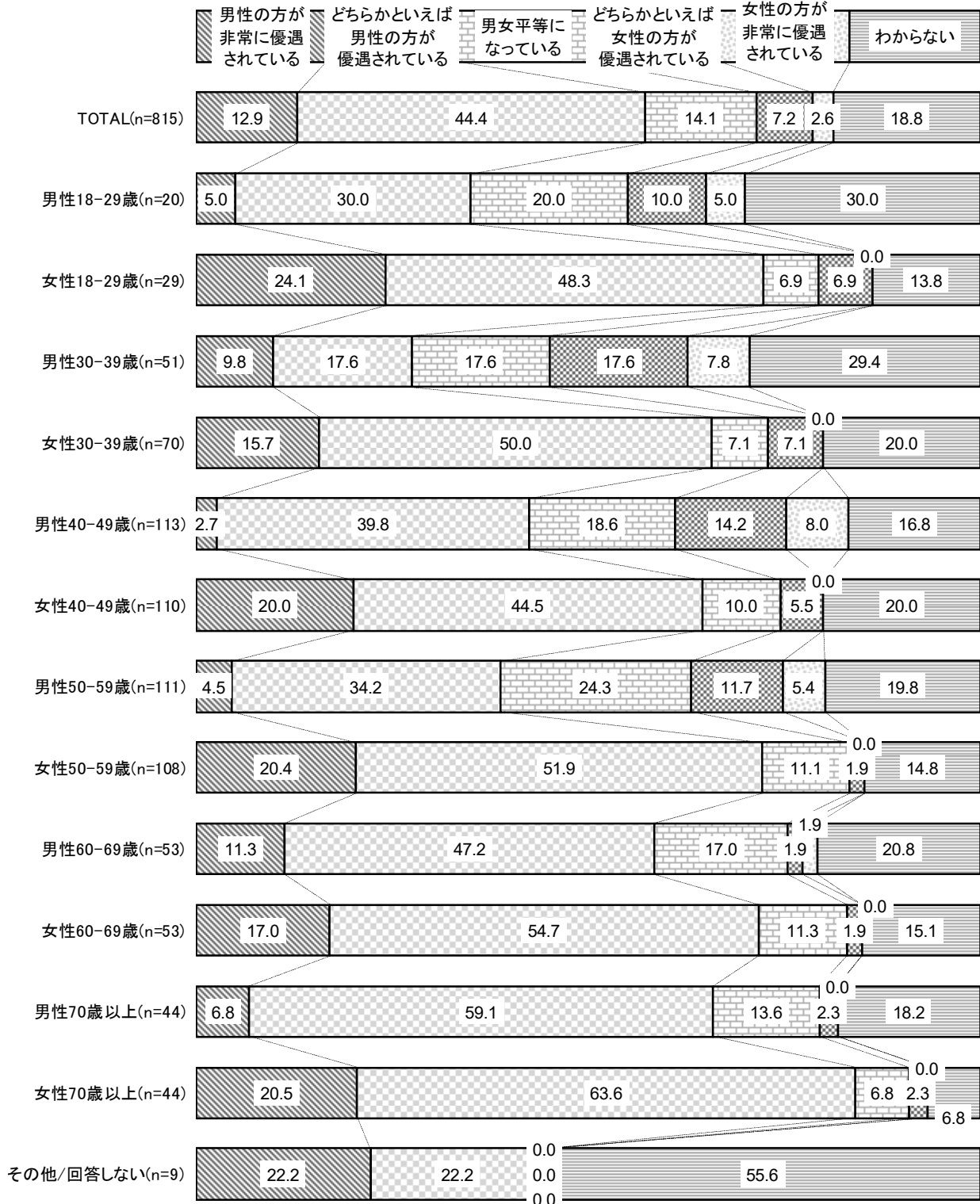
年代別でみると、「男女平等になっている」はどの年代も1割台となっている。



【性年代別】

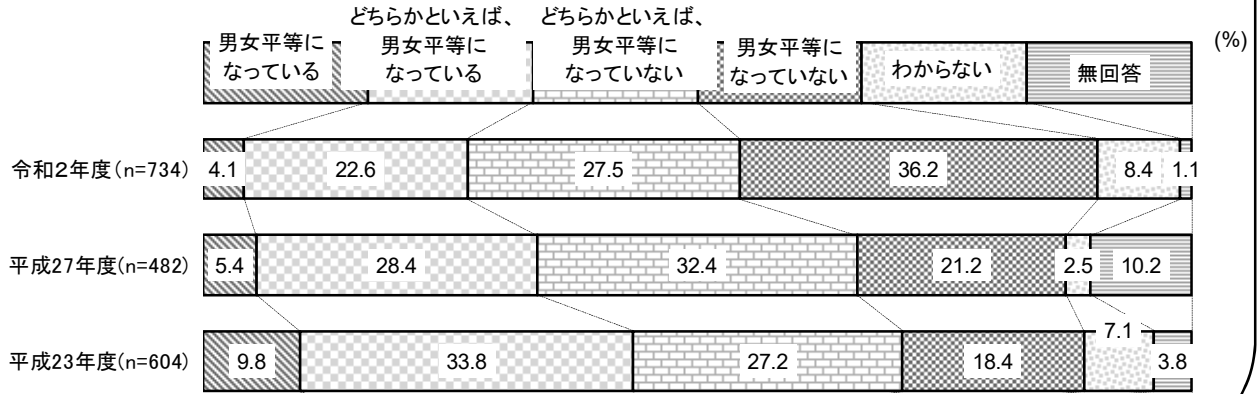
性年代別でみると、「男女平等になっている」は、男性50代で24.3%と他の性年代より高い。

(%)



【参考】

「あなたは、今の社会は男女平等になっていると思いますか。」



※今回調査との相違点：調査手法及び設問文・選択肢

問2 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはどのように思いますか。(回答は1つ)

「どちらともいえない」が34.0%と最も高く、次いで「まったくそう思わない」が27.5%、「どちらかといえばそう思わない」が22.1%となっている。

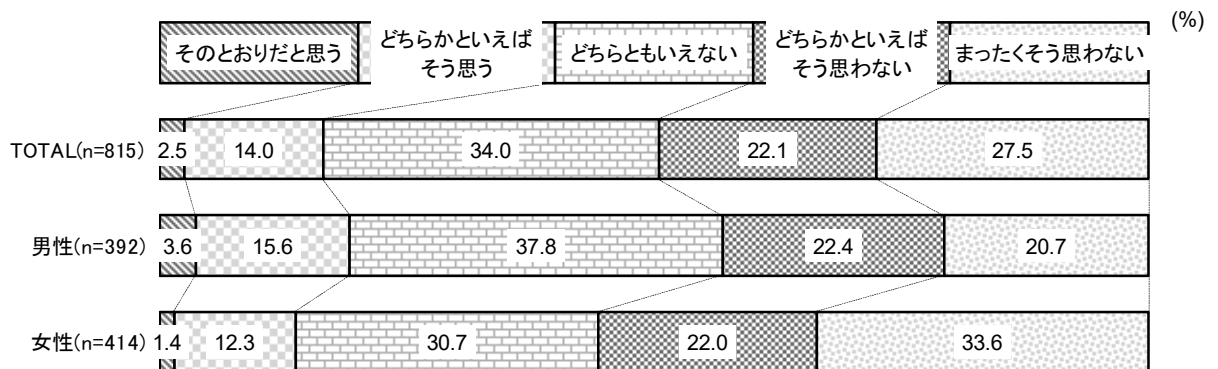
『そう思う』（「そのとおりだと思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）が16.4%（134人）、『そう思わない』（「どちらかといえばそう思わない」と「まったくそう思わない」の合計）が49.6%となっている。

※回答者数を基数として算出しているため、個々の回答の比率（%）を足しあげた値は、四捨五入の関係で一致しない場合がある。

【性別】

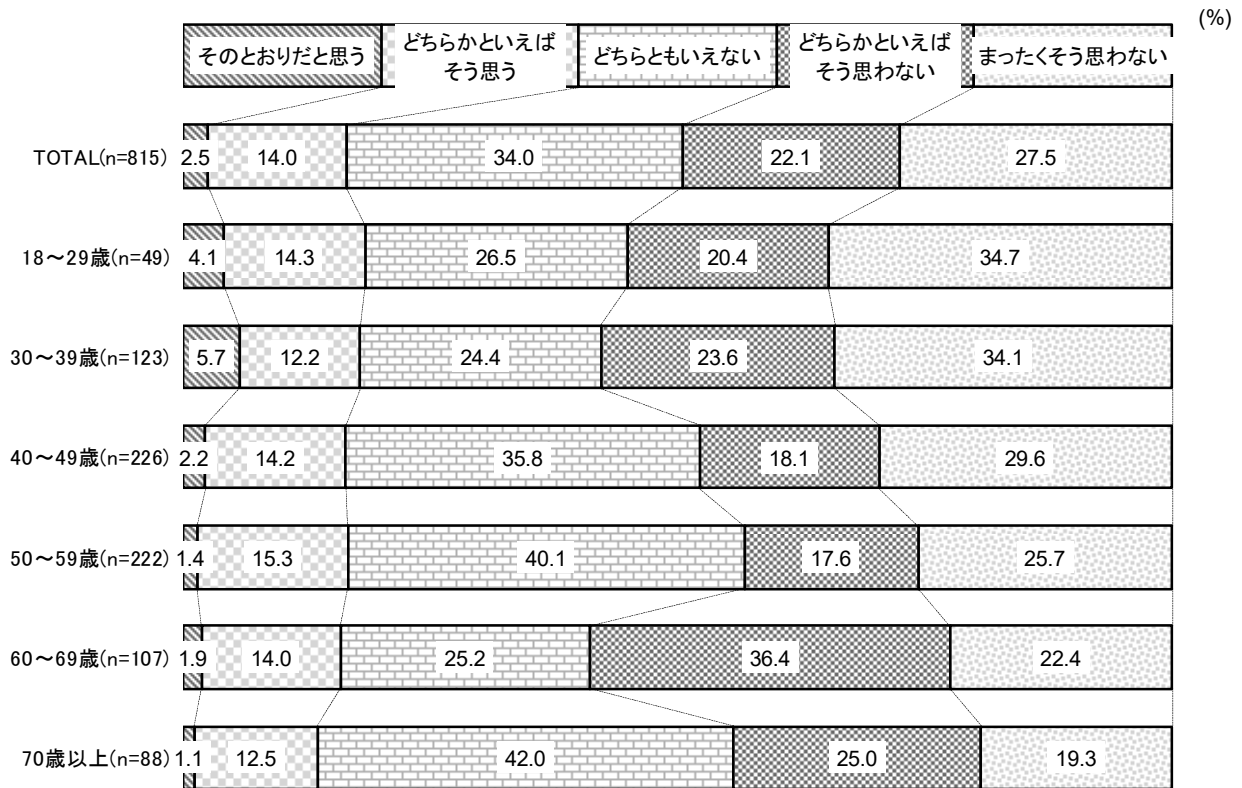
性別で見ると、男性では「どちらともいえない」が37.8%と最も高く、女性では「まったくそう思わない」が33.6%と最も高い。

女性は『そう思う』が13.8%（57人）、『そう思わない』が55.6%となっている。一方で、男性は『そう思う』が19.1%（75人）、『そう思わない』が43.1%となっており、男性より女性の方が『そう思わない』が10ポイント以上高い。



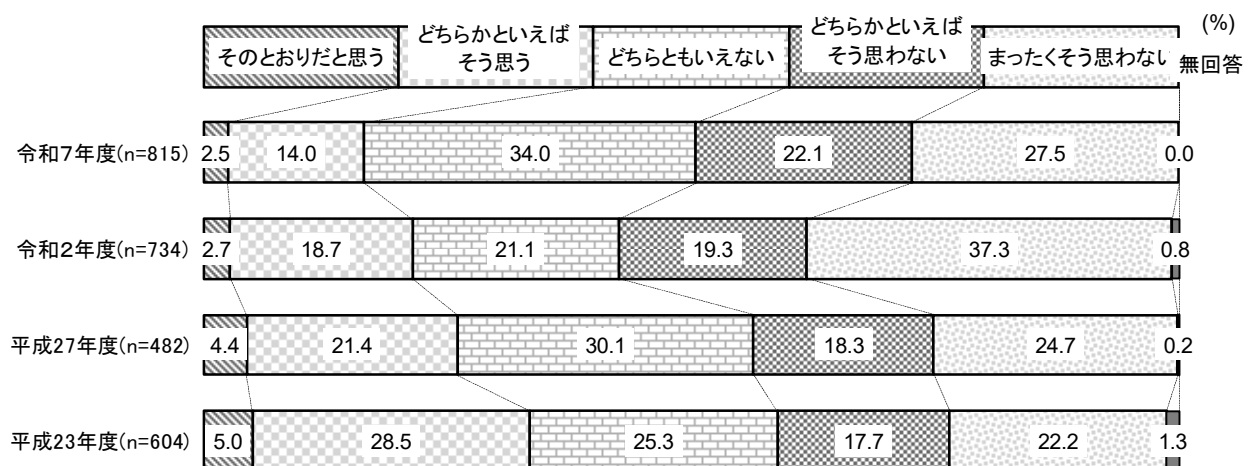
【年代別】

30代以下と60代では『そう思わない』が半数以上となっている。



【参考】

「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはどのように思いますか。



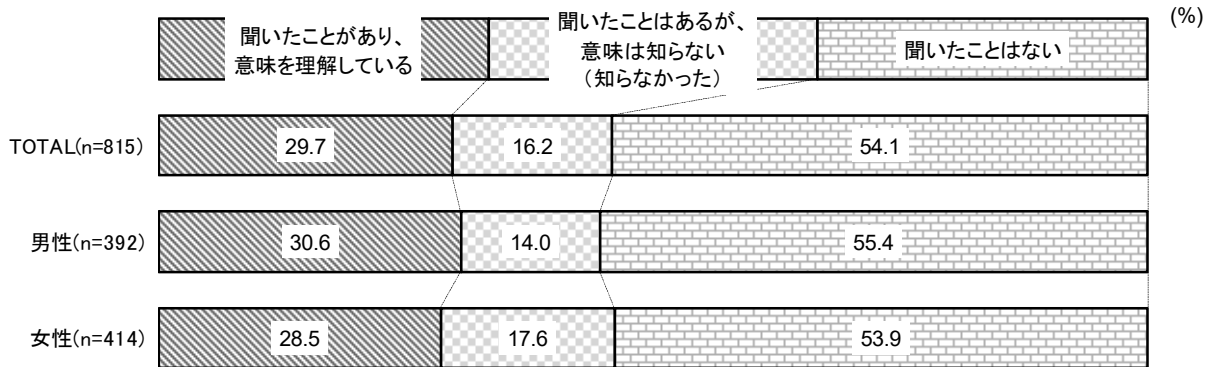
※今回調査との相違点：調査手法

問3 無意識の思い込み（アンコンシャスバイアス）という言葉を知っていますか。  
（回答は1つ）

無意識の思い込み（アンコンシャスバイアス）は「聞いたことはない」が54.1%と最も高い。  
「聞いたことがあり、意味を理解している」が29.7%、「聞いたことはあるが、意味は知らない（知らなかった）」が16.2%であり、認知度は45.9%である。

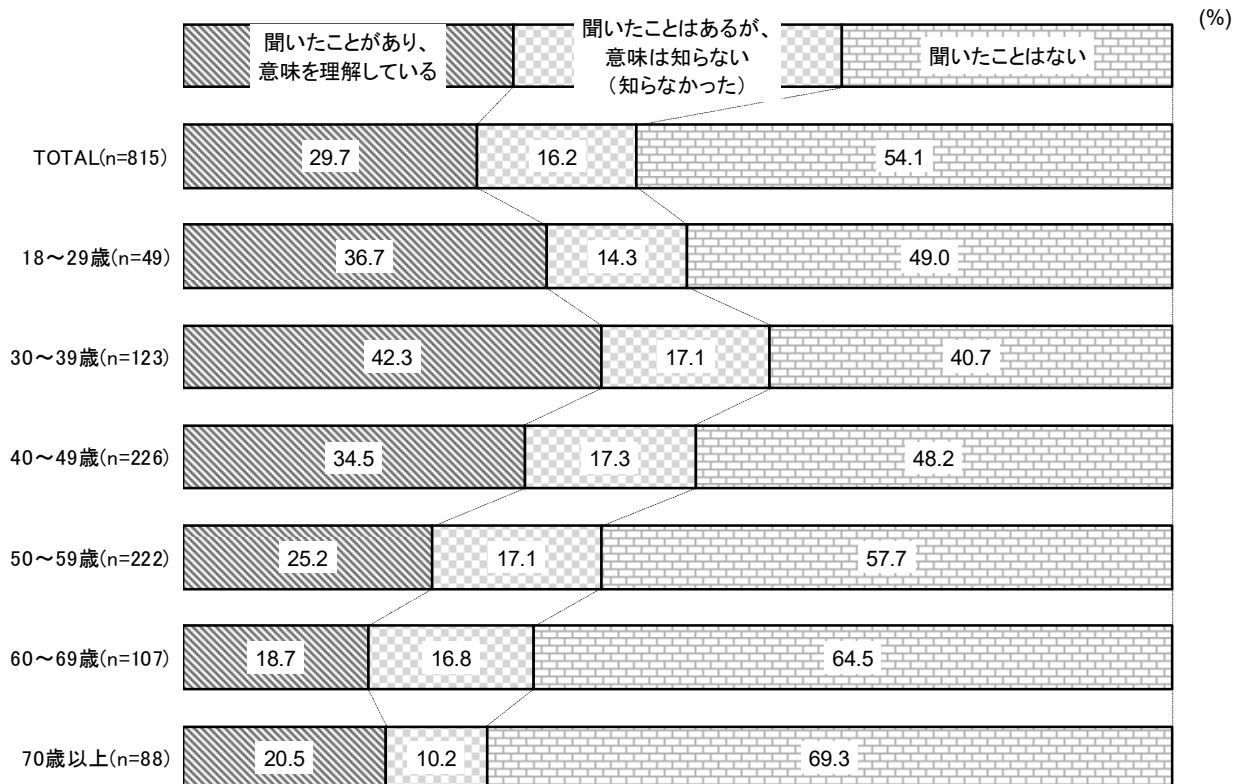
【性別】

性別で差はみられない。



【年代別】

「聞いたことがあり、意味を理解している」は、30代で最も高い。50代以上では「聞いたことはない」が半数以上となっている。

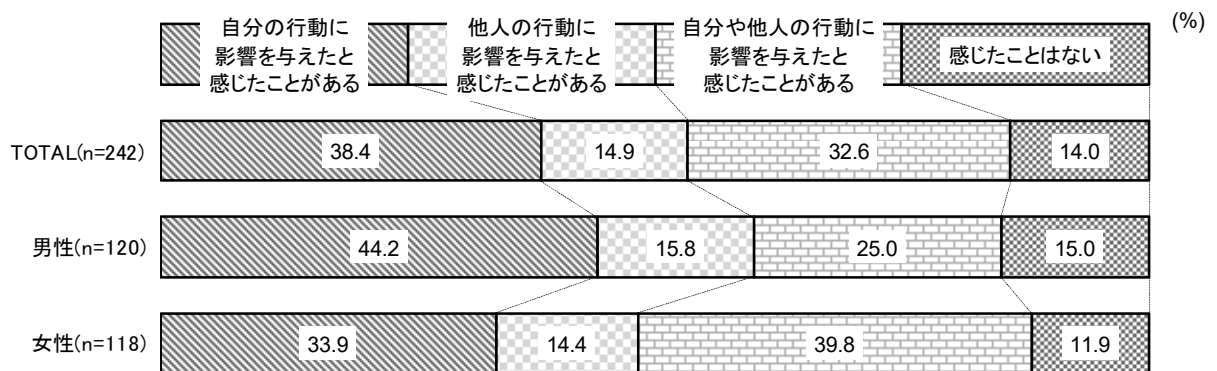


問3\_1 無意識の思い込み（アンコンシャスバイアス）が自分や他人の行動に影響を与えたと感じたことがありますか。（回答は1つ）

意味まで理解している人では、無意識の思い込み（アンコンシャスバイアス）が「自分の行動に影響を与えたと感じたことがある」が 38.4%と最も高く、次いで「自分や他人の行動に影響を与えたと感じたことがある」が 32.6%、「他人の行動に影響を与えたと感じたことがある」が 14.9%となっている。

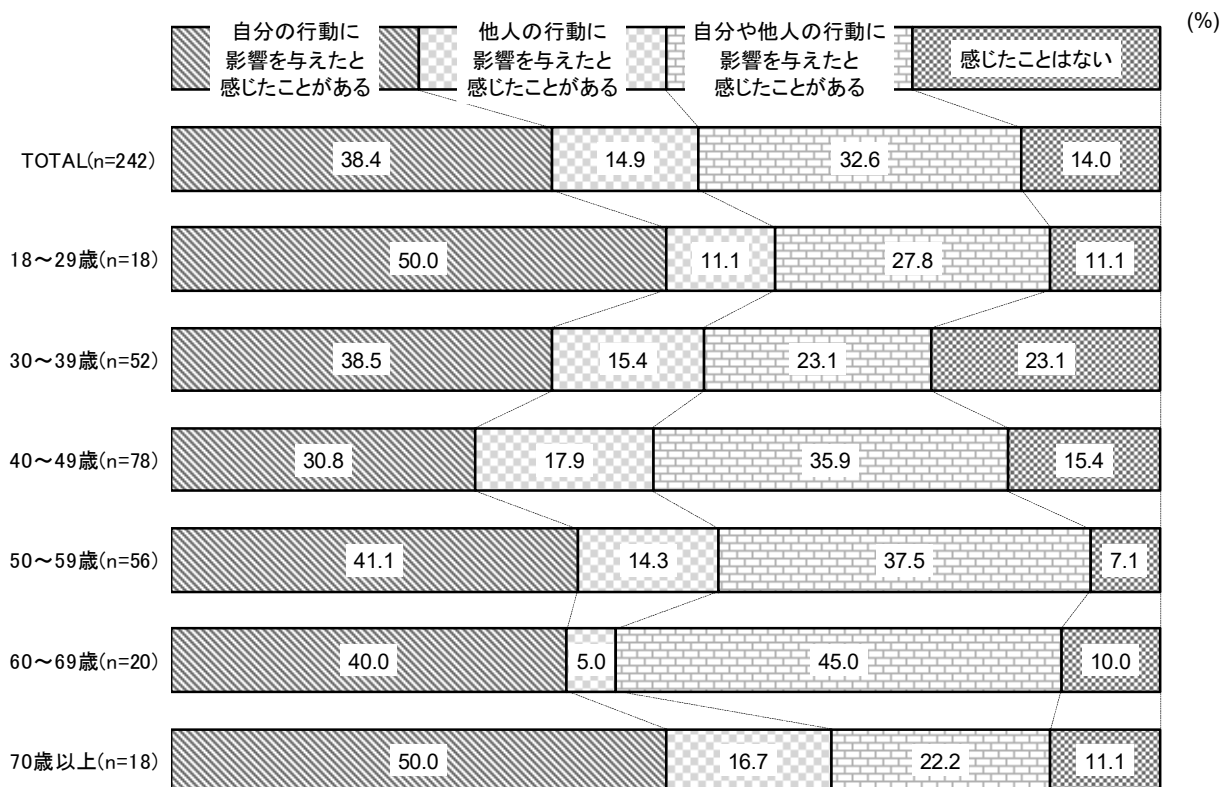
【性別】

女性では「自分や他人の行動に影響を与えたと感じたことがある」が最も高く、また、男性より高い。



【年代別】

30代で「感じたことはない」が他の年代より高い。

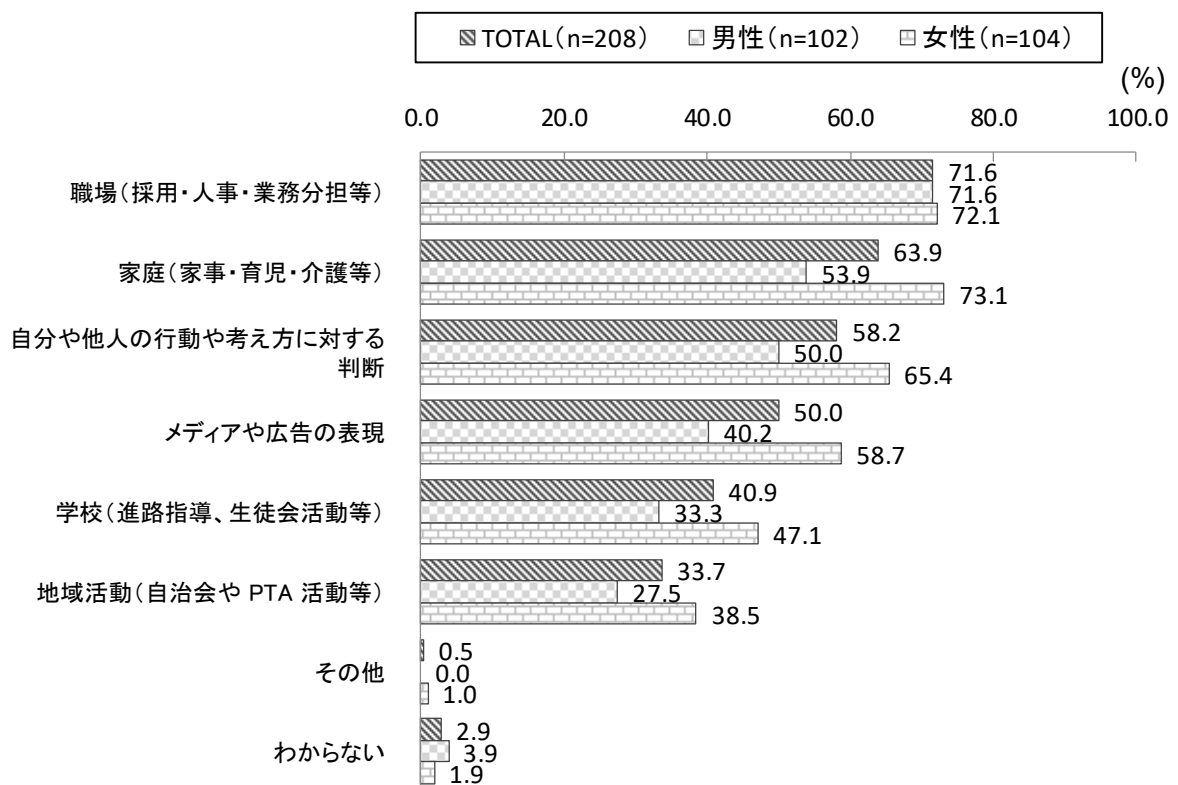


問3\_2 無意識の思い込み（アンコンシャスバイアス）はどのような環境・場面に影響を与えていると思いますか。（回答はいくつでも）

無意識の思い込み（アンコンシャスバイアス）が自分や他人の行動に影響を与えたと感じている人では、影響を与えていると思う環境・場面としては、「職場（採用・人事・業務分担等）」が最も高く、71.6%。次いで「家庭（家事・育児・介護等）」が63.9%、「自分や他人の行動や考え方に対する判断」が58.2%となっている。

【性別】

職場を除き、女性のほうが男性より10ポイント以上高い。特に「家庭」「メディアや広告の表現」で高い。



【年代別】

30～59歳において、「職場」が7割以上となっている。

n=	職場(採用・人事・業務分担等)	家庭(家事・育児・介護等)	自分や他人の行動や考え方に対する判断	メディアや広告の表現	学校(進路指導、生徒会活動等)	地域活動(自治会やPTA活動等)	その他	わからない	
TOTAL	208	71.6	63.9	58.2	50.0	40.9	33.7	0.5	2.9
18～29歳	16	68.8	50.0	56.3	56.3	75.0	37.5	0.0	6.3
30～39歳	40	70.0	62.5	60.0	52.5	37.5	32.5	0.0	7.5
40～49歳	66	78.8	62.1	50.0	47.0	37.9	30.3	1.5	1.5
50～59歳	52	75.0	67.3	63.5	55.8	40.4	32.7	0.0	1.9
60～69歳	18	55.6	77.8	66.7	38.9	38.9	33.3	0.0	0.0
70歳以上	16	56.3	62.5	62.5	43.8	31.3	50.0	0.0	0.0

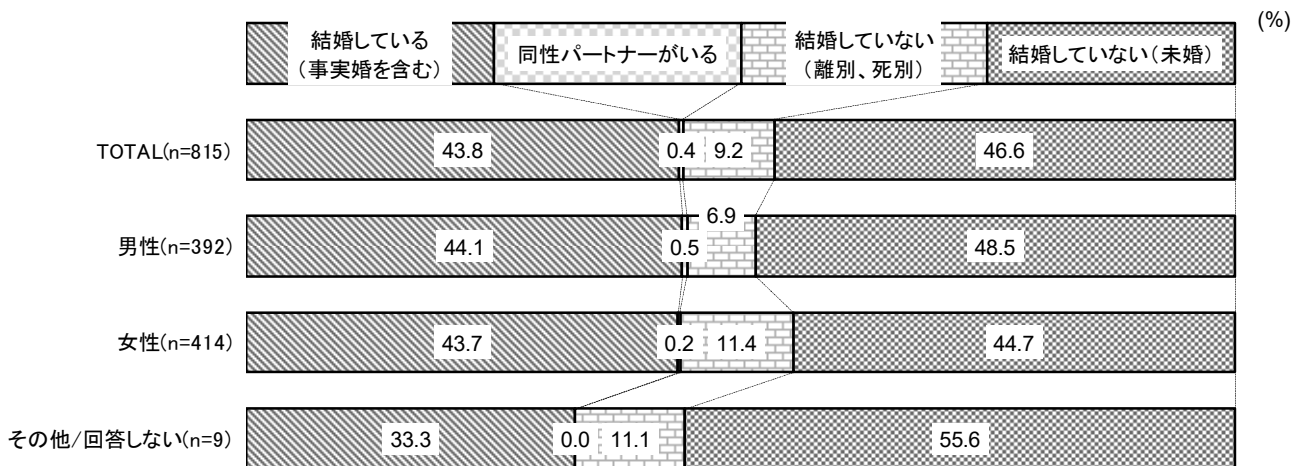
## 2 家庭生活について

### 問4 あなたはご結婚されていますか。(回答は1つ)

「結婚していない(未婚)」が46.6%と最も高く、次いで「結婚している(事実婚を含む)」が43.8%、「結婚していない(離別、死別)」が9.2%となっている。

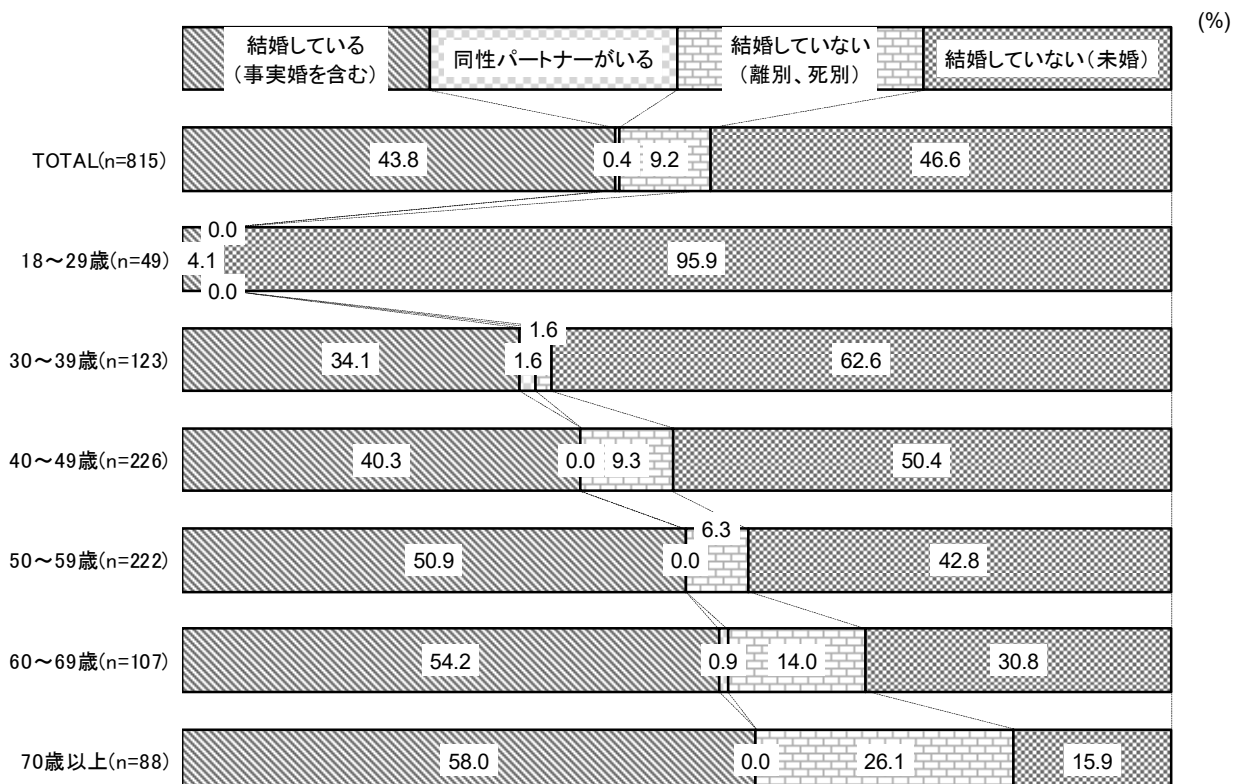
#### 【性別】

「結婚していない(離別、死別)」は男性より女性で高い。



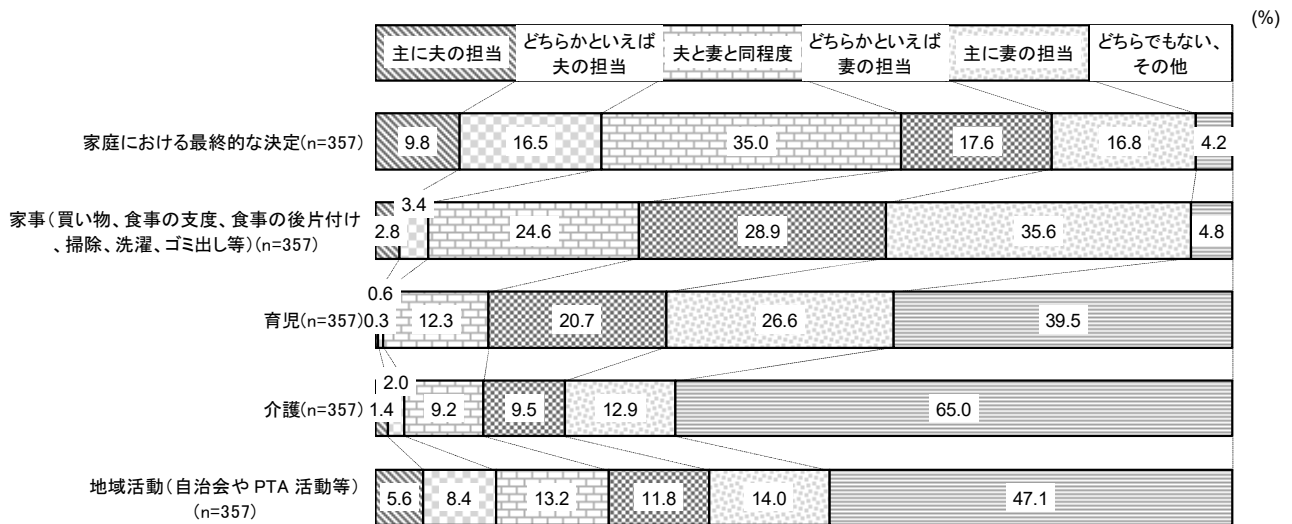
#### 【年代別】

50代以上では「結婚している(事実婚を含む)」が半数以上となっている。



問4\_1 現在、あなたは、家事などの分担はどのようにしていますか。次について、それぞれ選んでください。(回答は1つずつ)

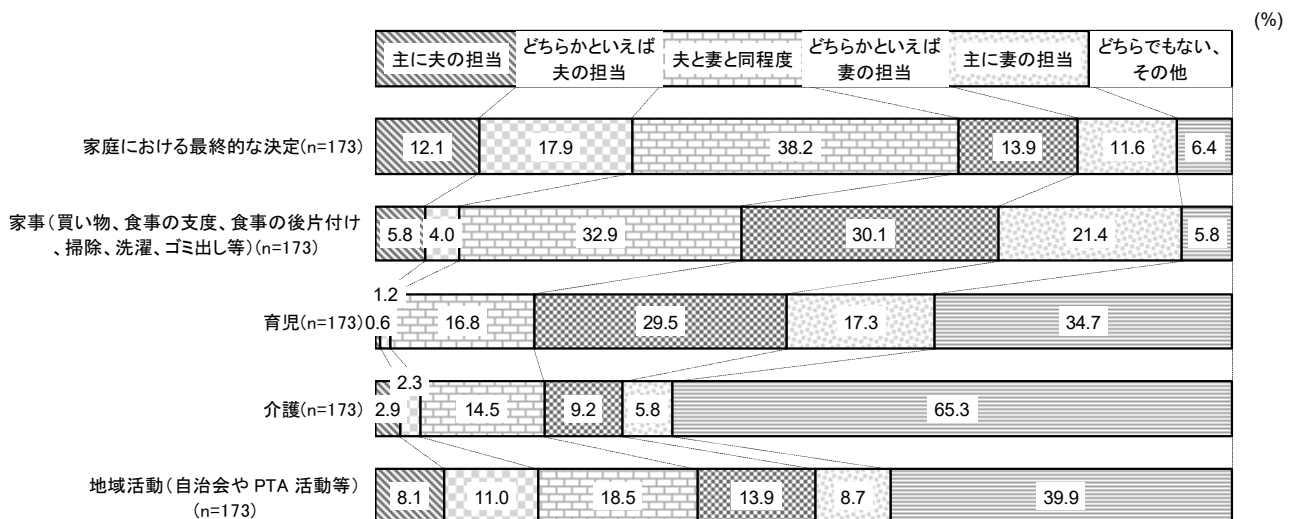
5項目のうち、「夫と妻と同程度」は、「家庭における最終的な決定」が35.0%と最も高い。  
 また、全て『妻の担当』（「どちらかといえば妻の担当」と「主に妻の担当」の合計）が高い。  
 「育児」では『夫の担当』が0.8%（3人）であるのに対し、『妻の担当』は47.3%となっている。  
 ※回答者数を基数として算出しているため、個々の回答の比率（%）を足しあげた値は、四捨五入の関係で一致しない場合がある。



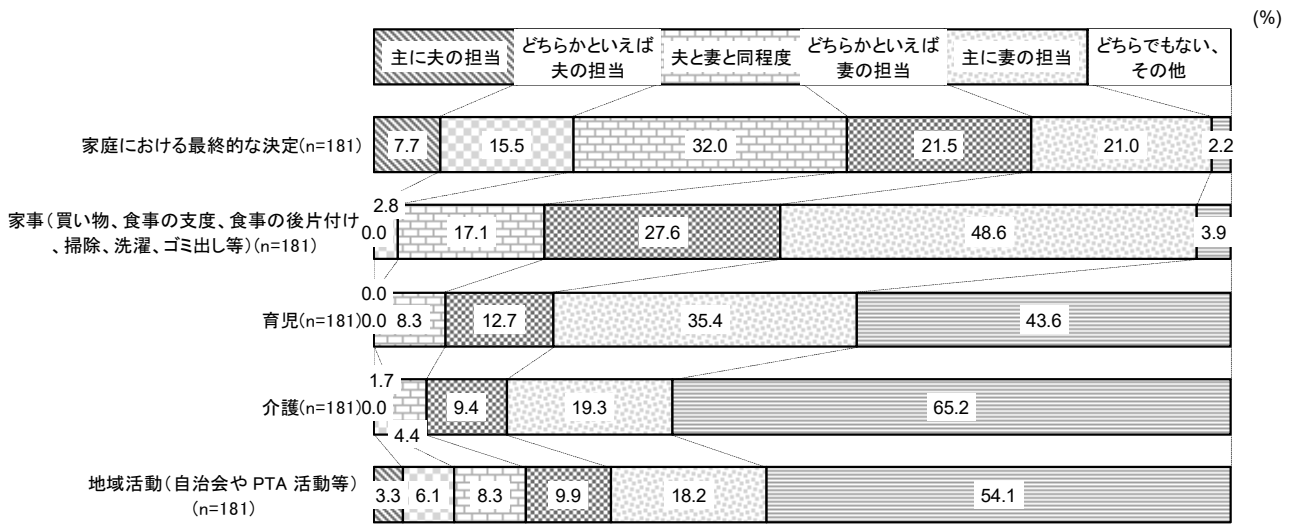
【性別】

『妻の担当』を分野で見ると、「家事」において、「夫と妻と同程度」は男性では32.9%に対し、女性では17.1%となっている。

<男性>



<女性>



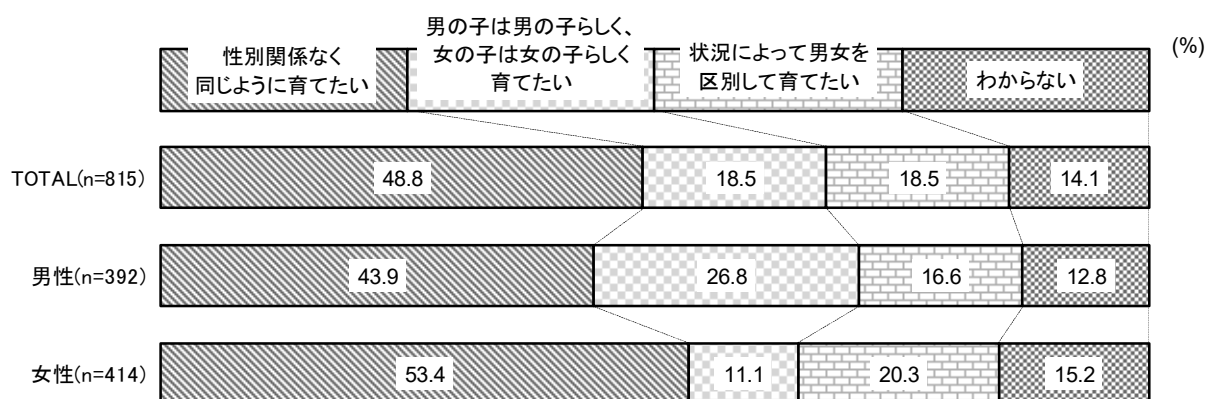
### 3 子どもの教育について

問5 あなたに男女両方のお子さんがいると仮定して、お答えください。あなたは、どのようにお子さんを育てたいですか。(回答は1つ)

「性別関係なく同じように育てたい」が48.8%と最も高く、次いで「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てたい」「状況によって男女を区別して育てたい」が同率で18.5%、「わからない」が14.1%となっている。

#### 【性別】

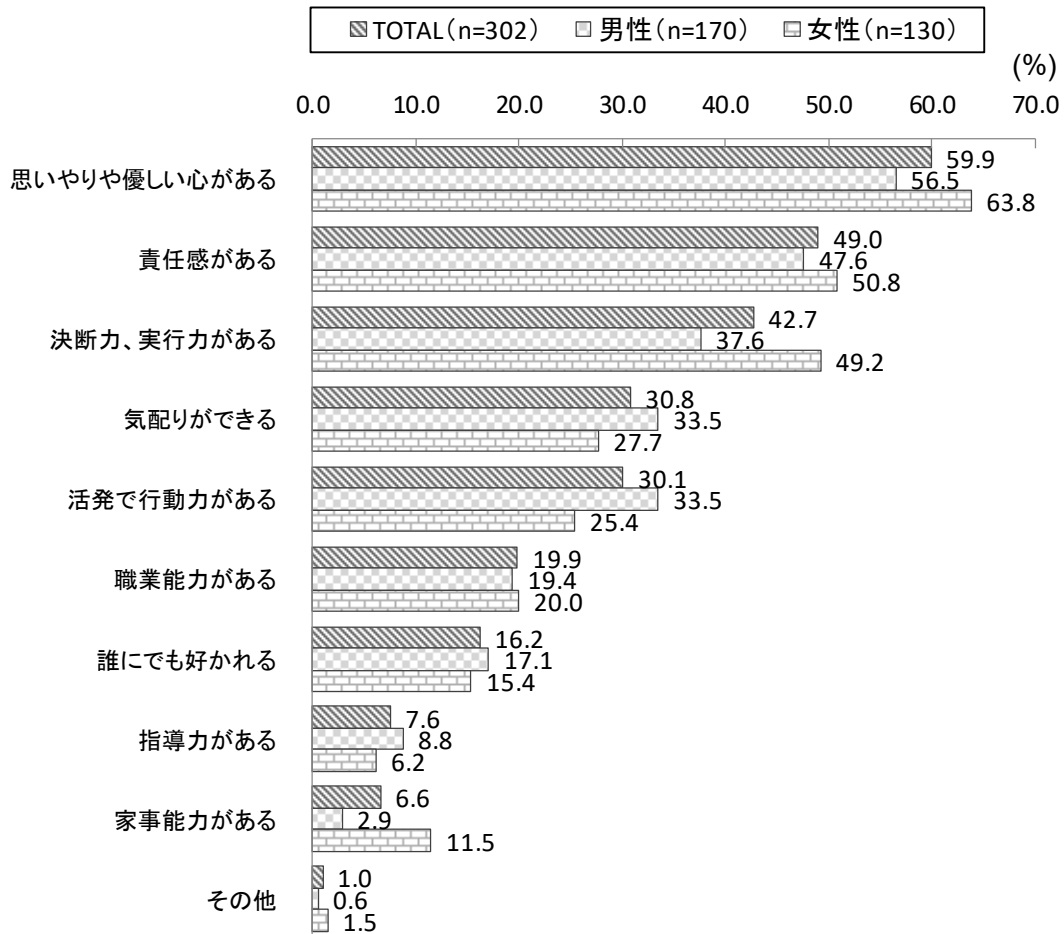
女性・男性ともに「性別関係なく同じように育てたい」が最も高く、次いで男性では「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てたい」、女性では「状況によって男女を区別して育てたい」となっている。



問5\_1 「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てたい」「状況によって男女を区別して育てたい」とお答えの方におたずねします。お子さんをどのように育てたいですか。男の子、女の子の場合それぞれについて、お答えください。(回答はそれぞれ3つまで)

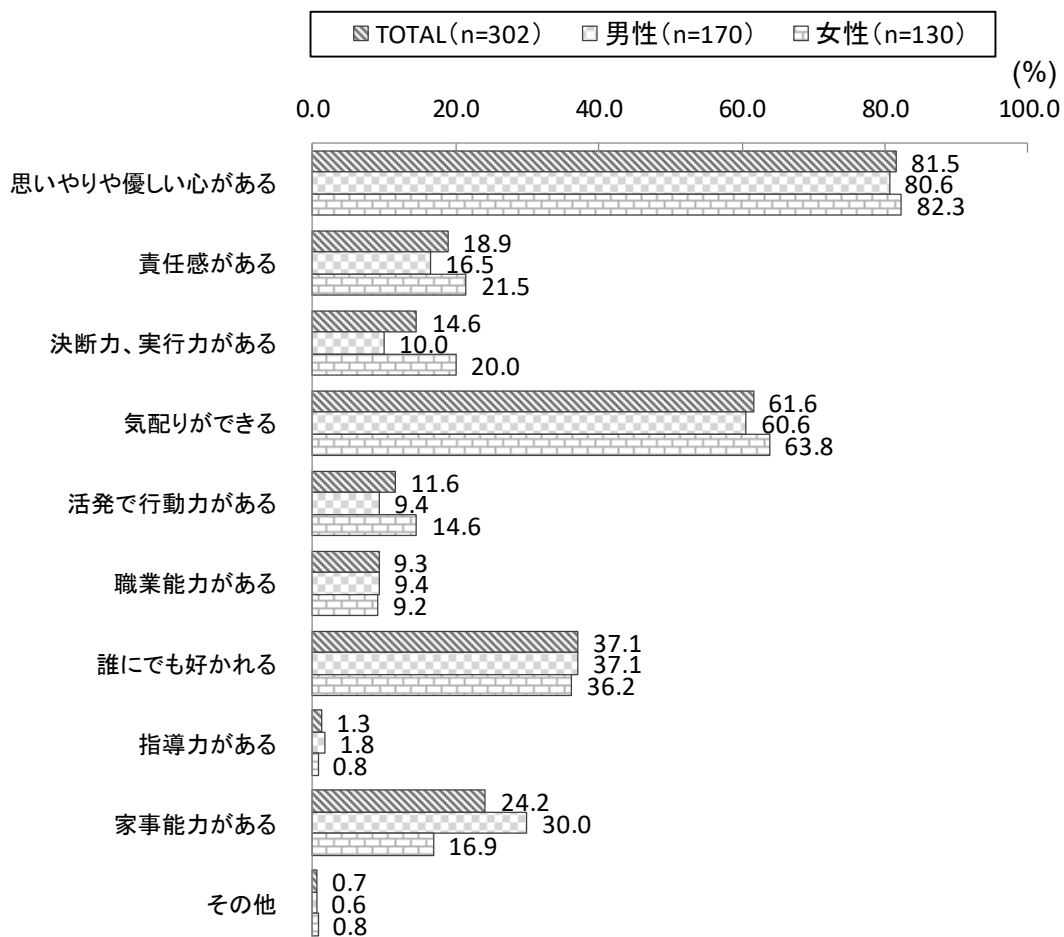
(1) 男の子の場合

男の子の場合は、「思いやりや優しい心がある」が 59.9%と最も高く、次いで「責任感がある」が 49.0%、「決断力、実行力がある」が 42.7%となっている。



## (2) 女の子の場合

女の子の場合は、「思いやりや優しい心がある」が 81.5%と最も高く、次いで「気配りができる」が 61.6%、「誰にでも好かれる」が 37.1%となっている。

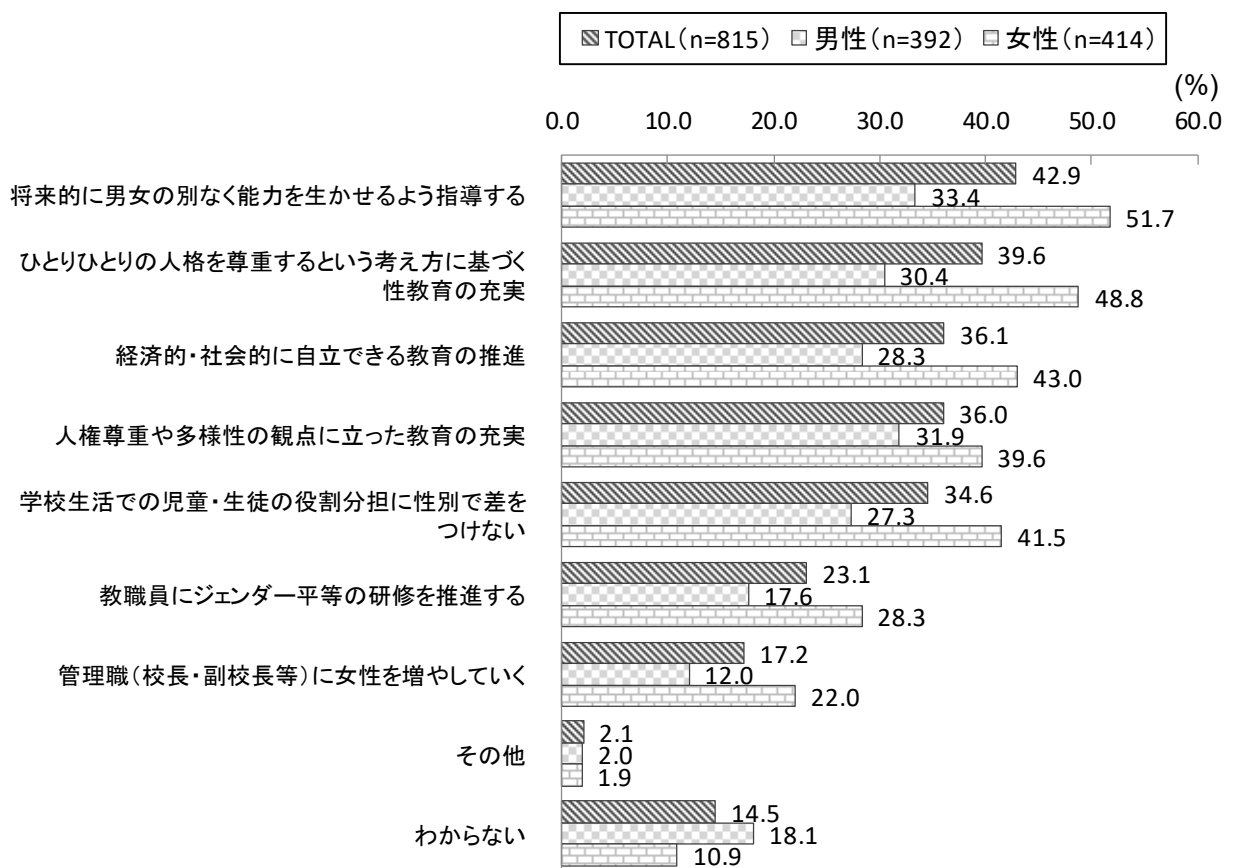


問6 ジェンダー平等の実現のために、学校教育の場で力を入れるべきことはどのようなことだと思いますか。(回答はいくつでも)

「将来的に男女の別なく能力を生かせるよう指導する」が 42.9%と最も高く、次いで「ひとりひとりの人格を尊重するという考え方に基づく性教育の充実」が 39.6%、「経済的・社会的に自立できる教育の推進」が 36.1%となっている。

【性別】

性別で見ると、男女で差が大きい項目は、「ひとりひとりの人格を尊重するという考え方に基づく性教育の充実」、「将来的に男女の別なく能力を生かせるよう指導する」で、男性より女性で15ポイント以上高くなっている。



## 4 就労について

問7 あなたは「仕事」と「家庭（個人の生活を含む）」について、どのような状態が理想だと思いますか。また、現実はどうですか。（回答は1つずつ）

### 【全体】

理想では、「仕事」と「家庭（個人の生活を含む）」を両立が68.6%と最も高く、次いで「家庭（個人の生活を含む）」を優先が22.8%、「仕事」を優先が7.3%となっている。

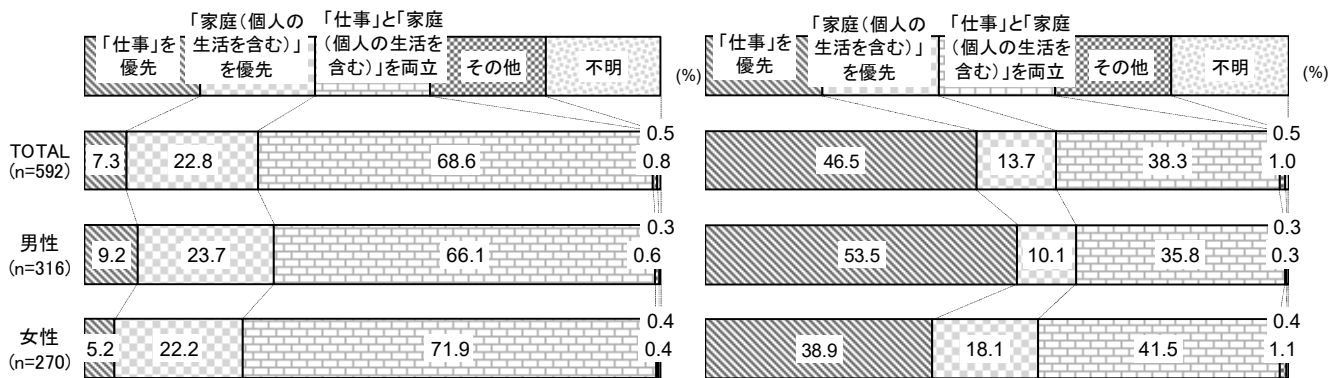
一方、現実では、「仕事」を優先が46.5%と最も高く、次いで「仕事」と「家庭（個人の生活を含む）」を両立が38.3%、「家庭（個人の生活を含む）」を優先が13.7%となっている。

### 【性別】

男女ともに理想では「仕事」と「家庭（個人の生活を含む）」を両立が男性66.1%、女性71.9%と最も高いが、現実では、男性は「仕事を優先」が53.5%と最も高く、女性は「仕事」と「家庭（個人の生活を含む）」を両立が41.5%と最も高い。両立については男女ともに、理想より現実の方が30ポイント以上低くなっており、理想と現実では差がある。

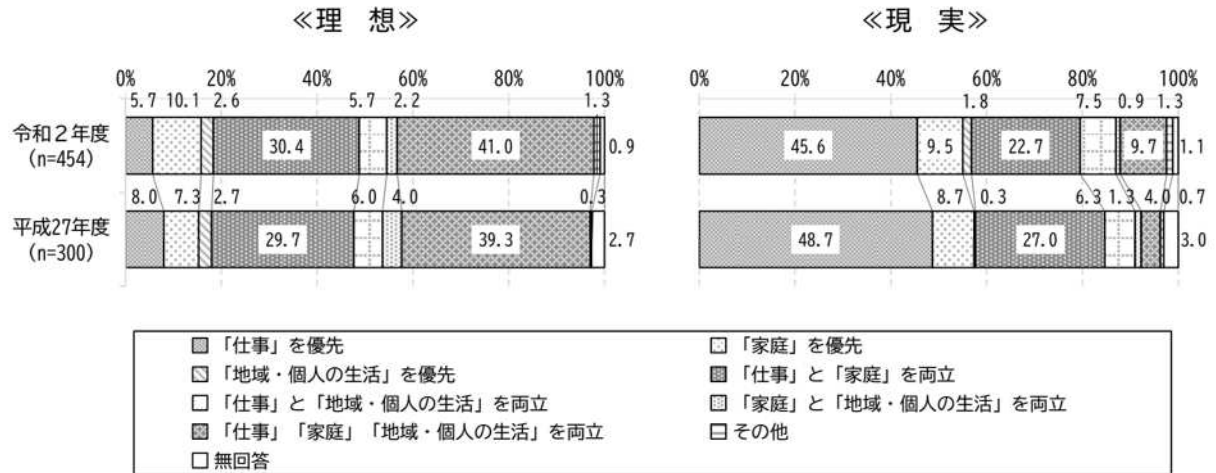
<理想>

<現実>



【参考】

あなたは「仕事」と「家庭」と「地域・個人の生活」について、どのような状態が理想だと思えますか。また、現実はどうですか。



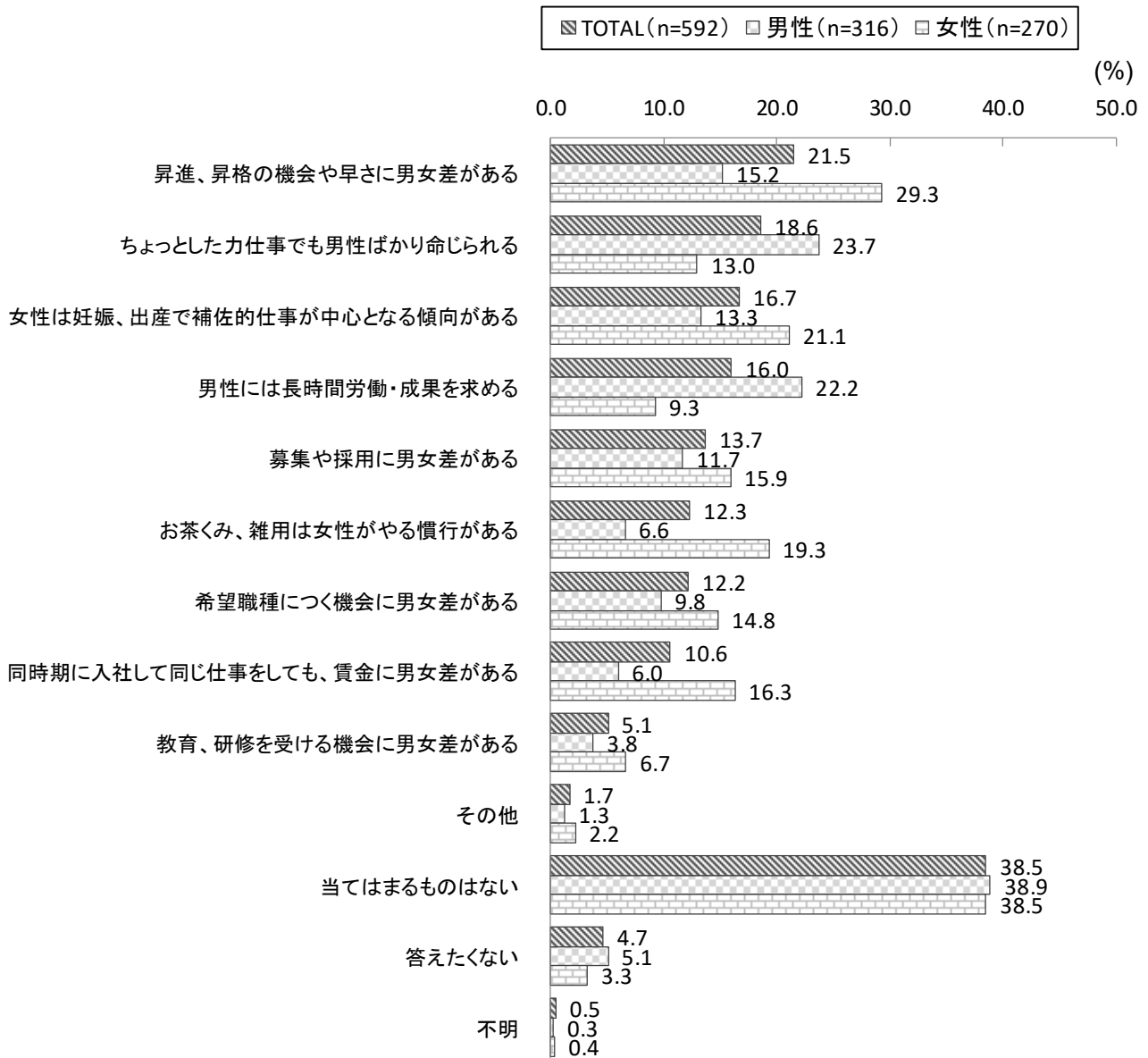
※今回調査との相違点：調査手法及び設問文・選択肢

問8 あなたの職場では、次のような男女差があると思いますか。(回答はいくつでも)

「昇進、昇格の機会や早さに男女差がある」が 21.5%と最も高く、次いで「ちょっとした力仕事でも男性ばかり命じられる」が 18.6%、「女性は妊娠、出産で補佐的仕事を中心となる傾向がある」が 16.7%となっている。

【性別】

「昇進、昇格の機会や早さに男女差がある」は男性より女性で高く、一方、「男性には長時間労働・成果を求める」は女性より男性で高くなっている。

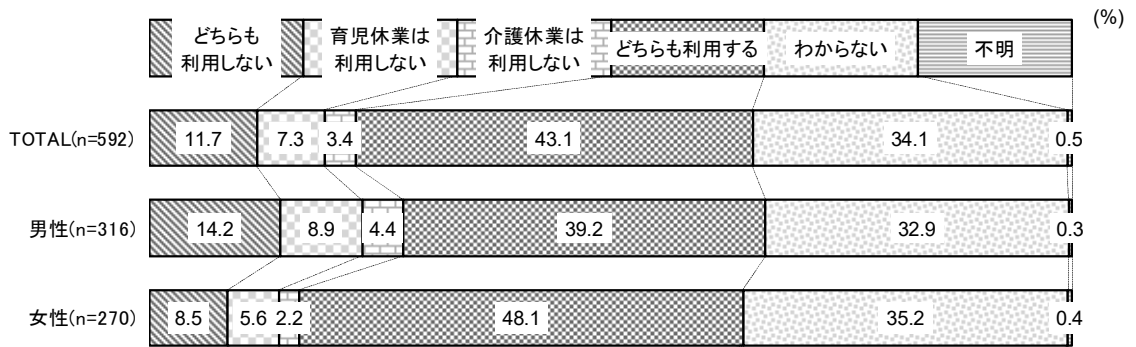


問9 法律では男性も女性も育児・介護休業を利用することができますが、制度を利用しますか。  
(回答は1つ)

「どちらも利用する」が43.1%と最も高い。次いで「わからない」が34.1%、「どちらも利用しない」が11.7%となっている。

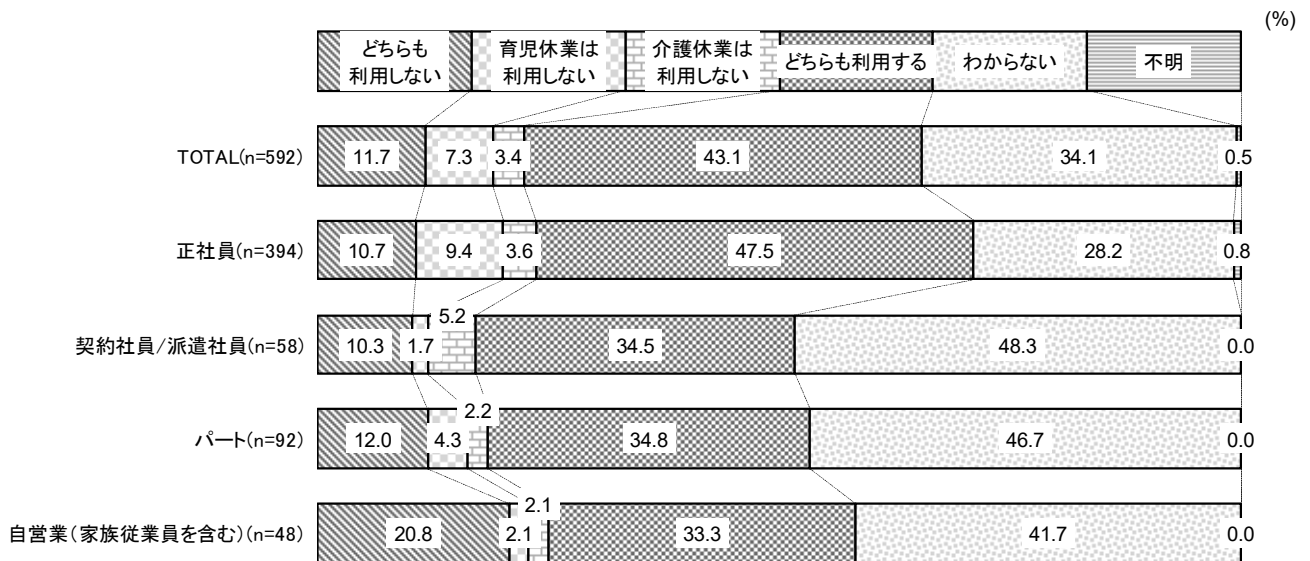
【性別】

男性では「どちらも利用しない」が女性より高い。



【職業別】

正社員では「どちらも利用する」が他の職業より高い。契約社員/派遣社員、パートでは、「わからない」が半数近くになっている。

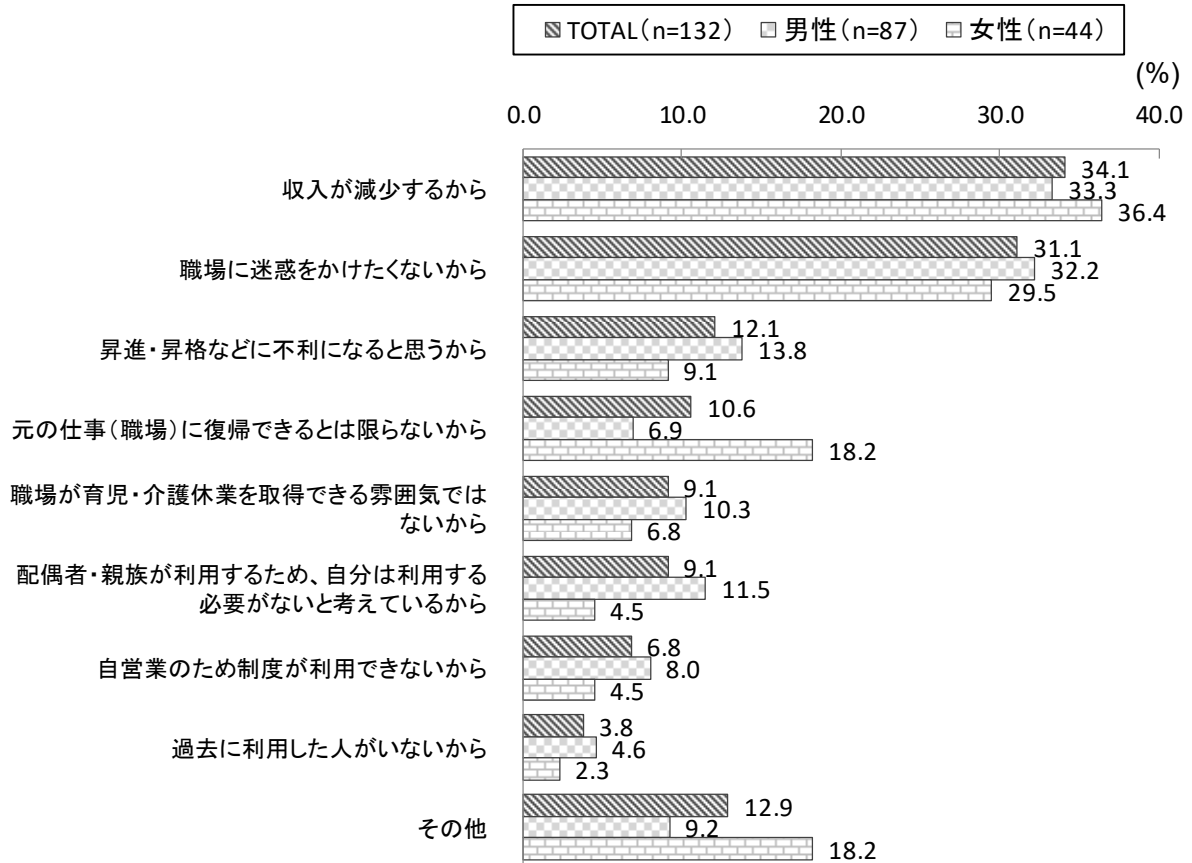


問9\_1 育児・介護休業制度を利用しない理由はなんですか。(回答は2つまで)

「収入が減少するから」が34.1%と最も高く、次いで「職場に迷惑をかけたくないから」が31.1%、「昇進・昇格などに不利になると思うから」が12.1%となっている。

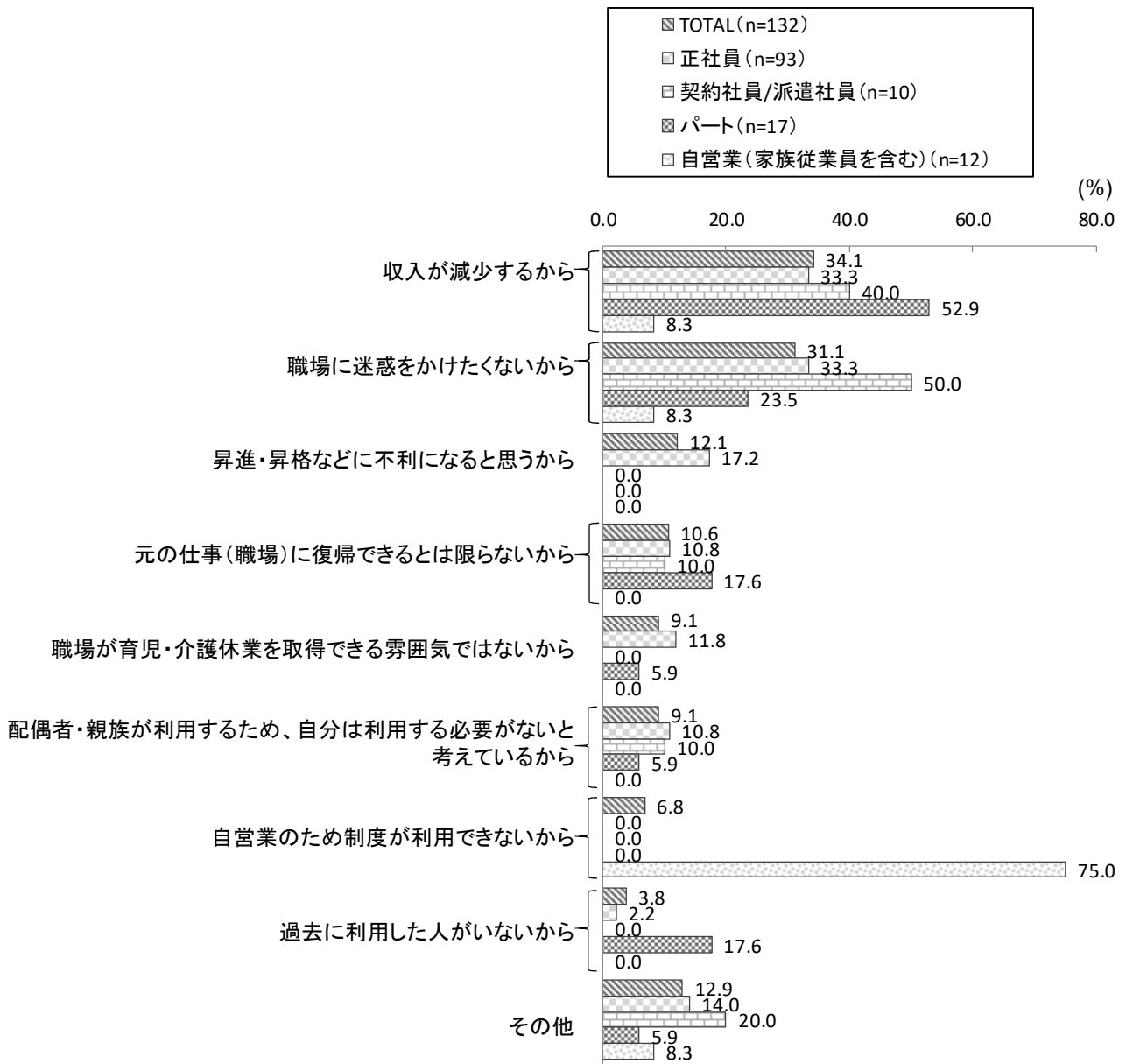
【性別】

女性では「元の仕事（職場）に復帰できるとは限らないから」が男性より10ポイント以上高い。



【職業別】

正社員では、「昇進・昇格などに不利になると思うから」が他の職業より高くなっている。

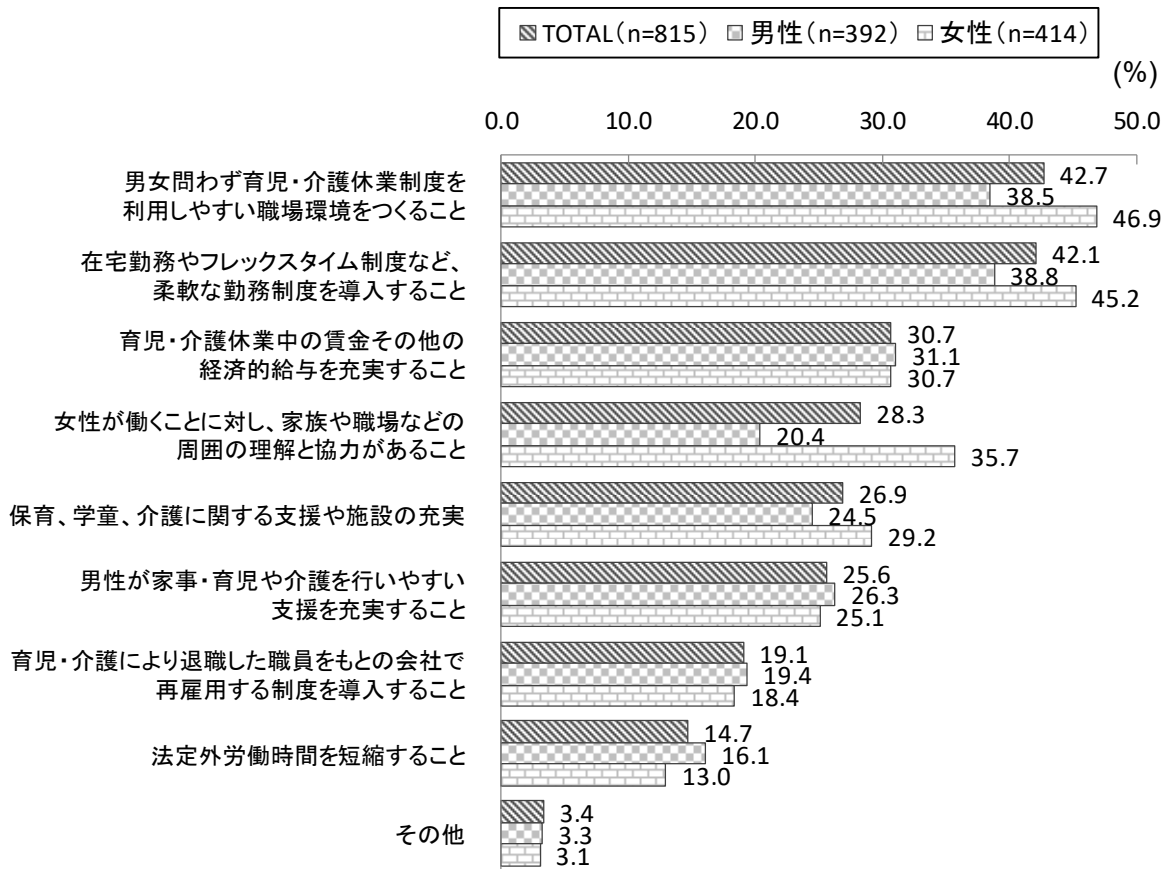


問 10 男女が共に「仕事」と「家庭（個人の生活を含む）」の両立をしていくためにはどのようなことが重要になるとお考えですか。（回答は3つまで）

「男女問わず育児・介護休業制度を利用しやすい職場環境をつくること」が 42.7%と最も高く、次いで「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること」が 42.1%、「育児・介護休業中の賃金その他の経済的給与を充実すること」が 30.7%となっている。

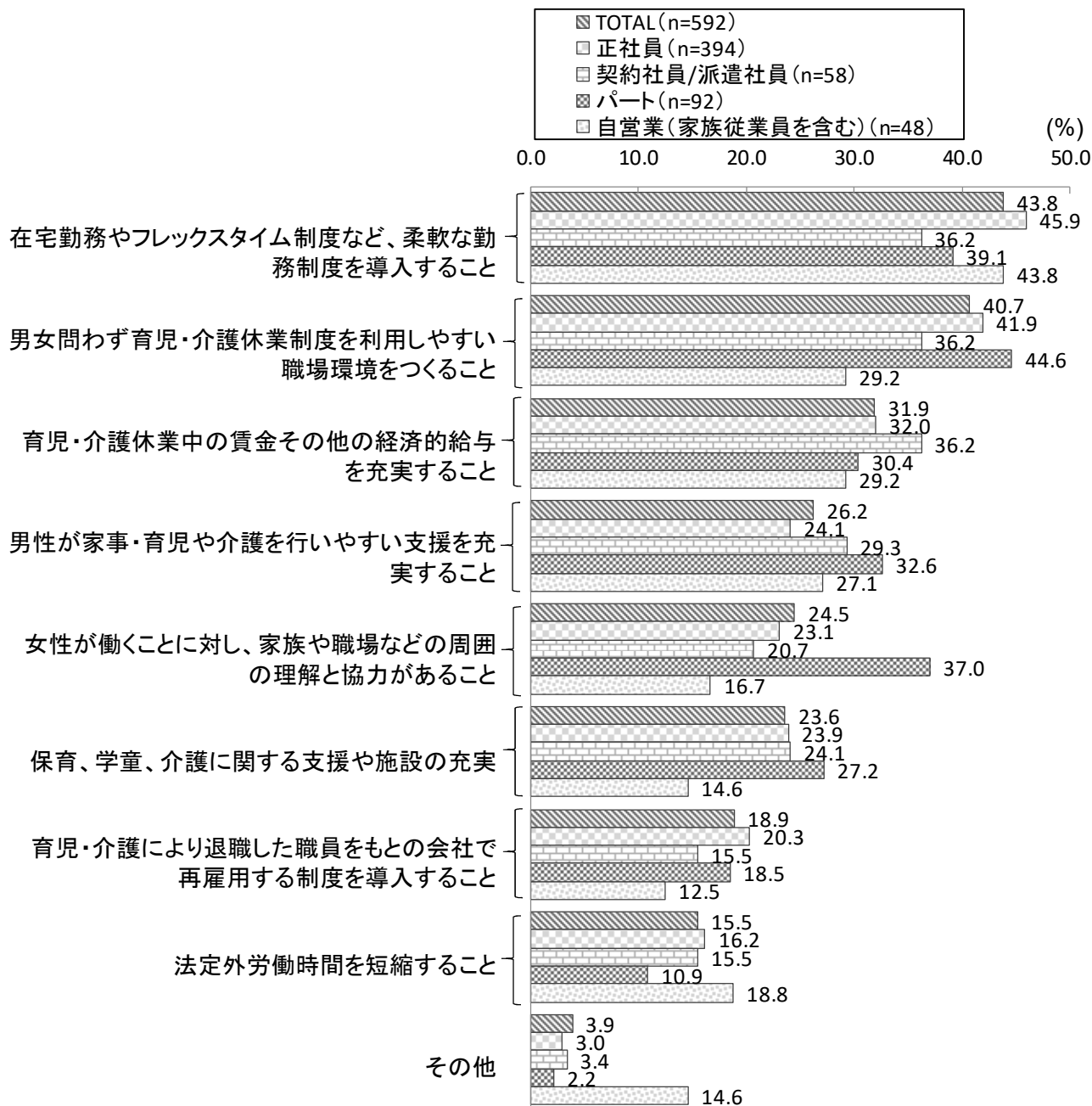
【性別】

「女性が働くことに対し、家族や職場などの周囲の理解と協力があること」は男性より女性で高く、10ポイント以上差がある。



【職業別】

パートでは、「女性が働くことに対し、家族や職場などの周囲の理解と協力があること」が他の職業より高い。

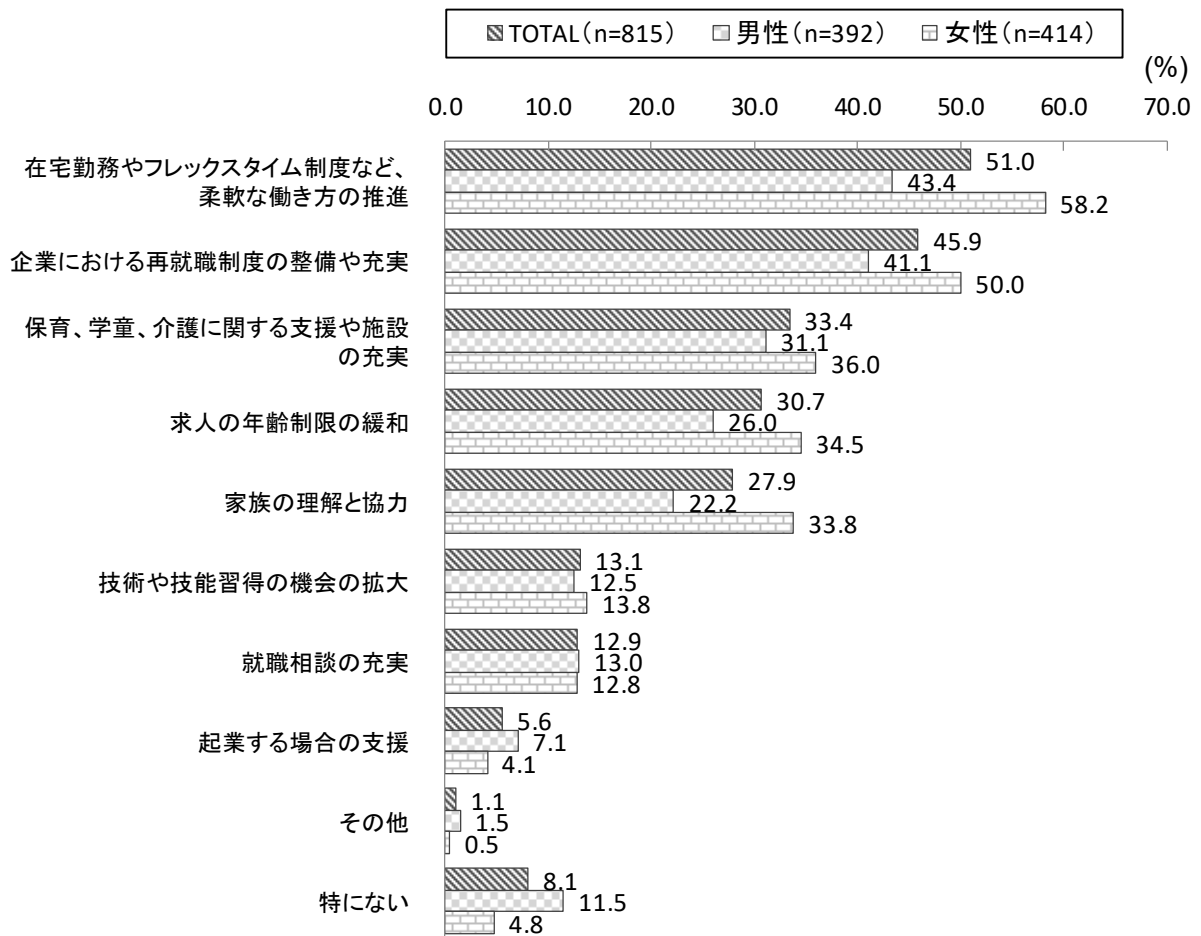


問 11 育児、介護などの理由により仕事を辞めた人が再就職するにあたり、どのようなことが必要だと思いますか。(回答は3つまで)

「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な働き方の推進」が 51.0%と最も高く、次いで「企業における再就職制度の整備や充実」が 45.9%、「保育、学童、介護に関する支援や施設の充実」が 33.4%となっている。

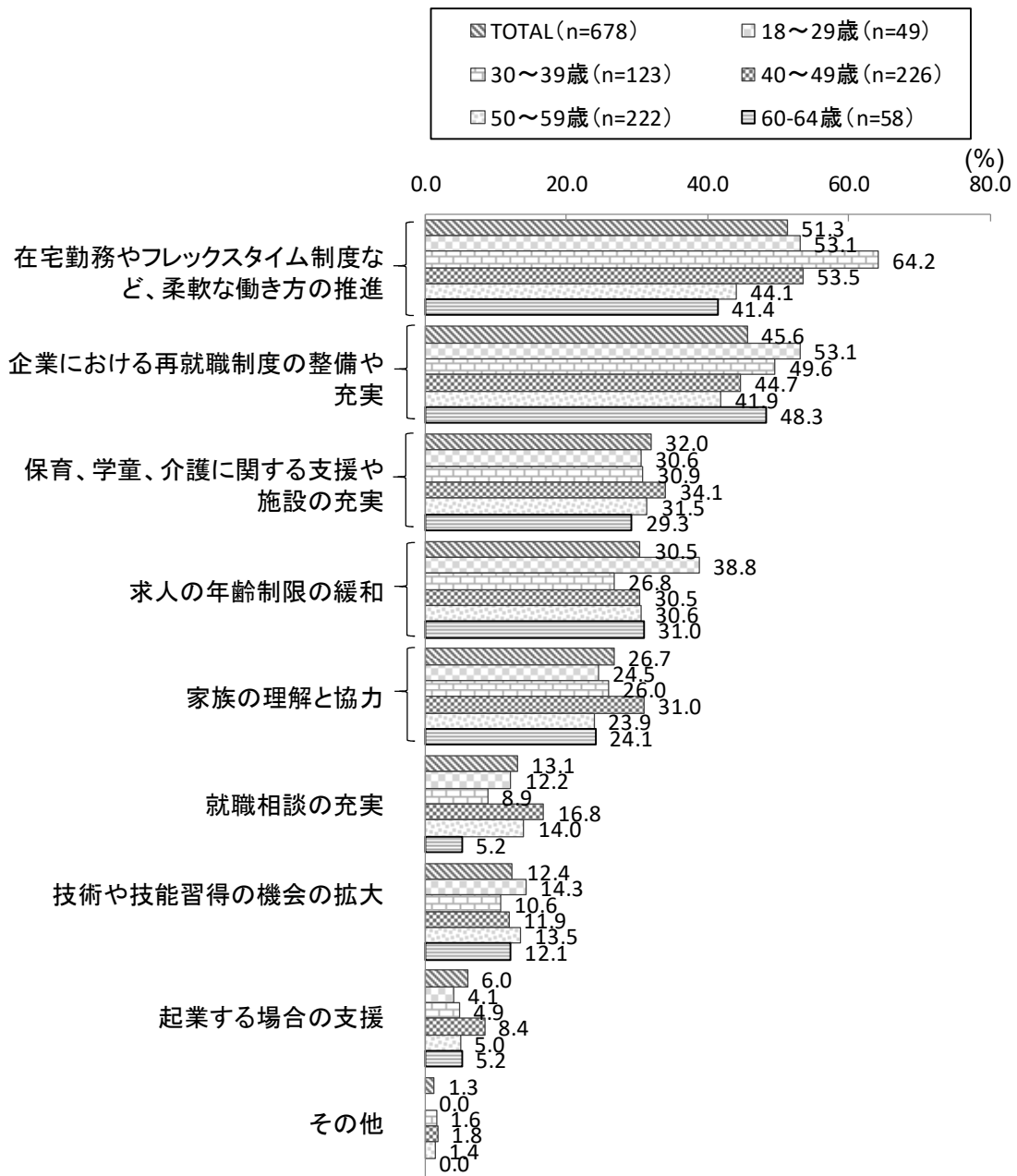
【性別】

「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な働き方の推進」、「家族の理解と協力」で男性より女性で高く、10ポイント以上差がある。



【年代別】 ※18～64歳で再集計

30代では「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な働き方の推進」が他の年代より高い。



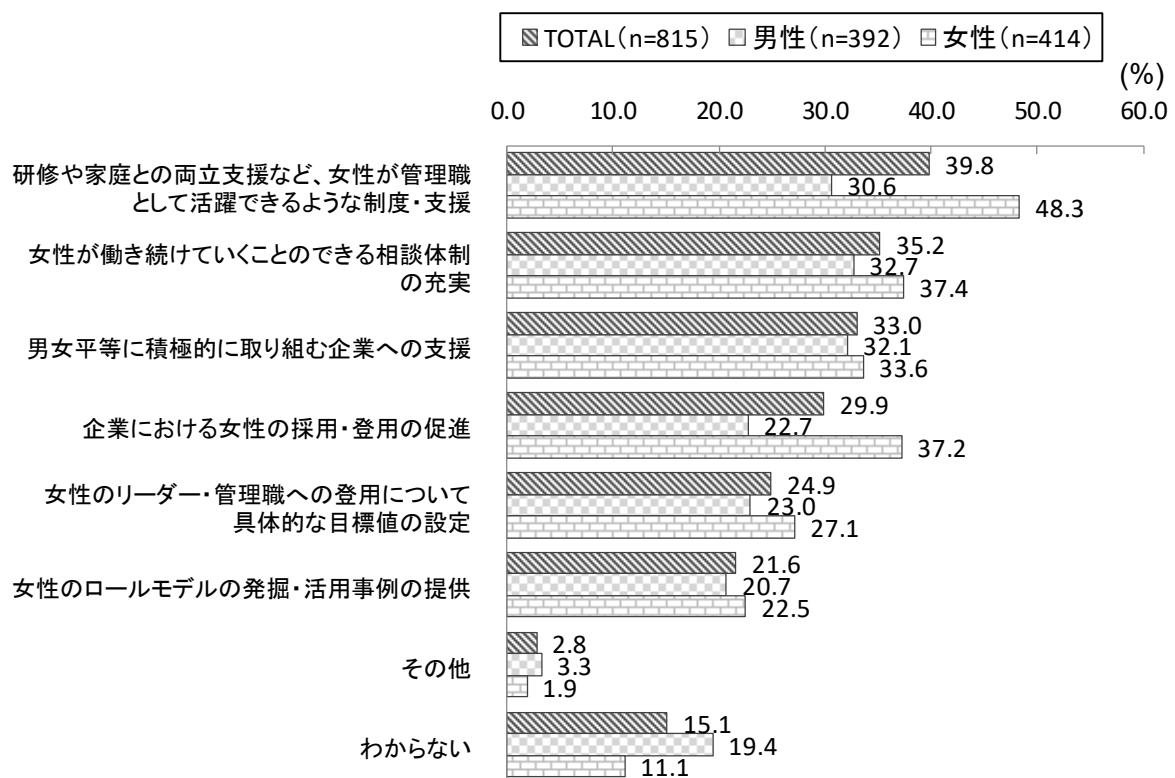
## 5 あらゆる分野における女性の活躍推進について

問12 女性が職場において活躍するために、特にどのような取組が必要だと思いますか。  
(回答は3つまで)

「研修や家庭との両立支援など、女性が管理職として活躍できるような制度・支援」が39.8%と最も高く、次いで「女性が働き続けていくことのできる相談体制の充実」が35.2%、「男女平等に積極的に取り組む企業への支援」が33.0%となっている。

### 【性別】

「研修や家庭との両立支援など、女性が管理職として活躍できるような制度・支援」、「企業における女性の採用・登用の促進」では男性より女性で高く、10ポイント以上の差がある。

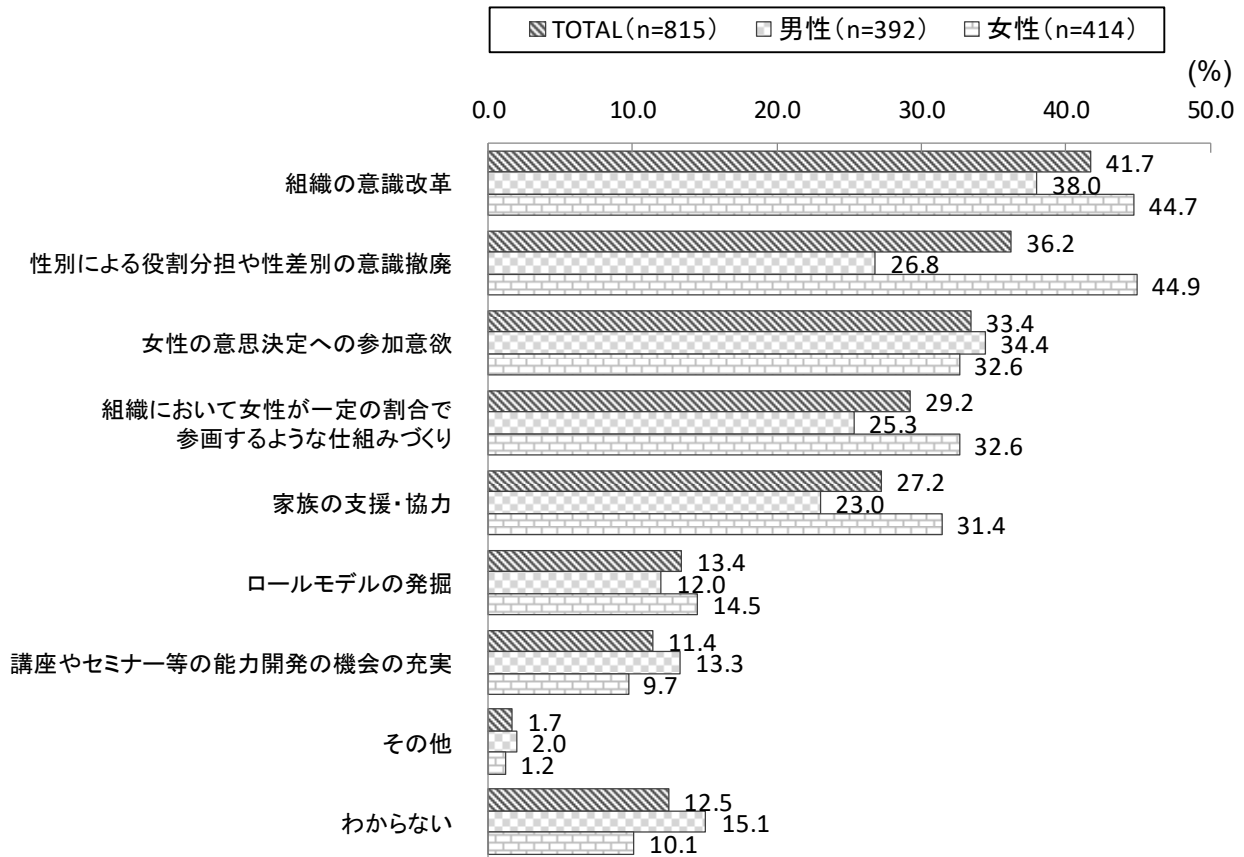


問 13 様々な分野において、女性が組織の意思決定に参画するためには何が重要だと思いますか。  
(回答は3つまで)

「組織の意識改革」が最も高く、41.7%。次いで「性別による役割分担や性差別の意識撤廃」が36.2%、「女性の意思決定への参加意欲」が33.4%となっている。

【性別】

「性別による役割分担や性差別の意識撤廃」、「家族の支援・協力」は特に男性より女性で高くなっている。



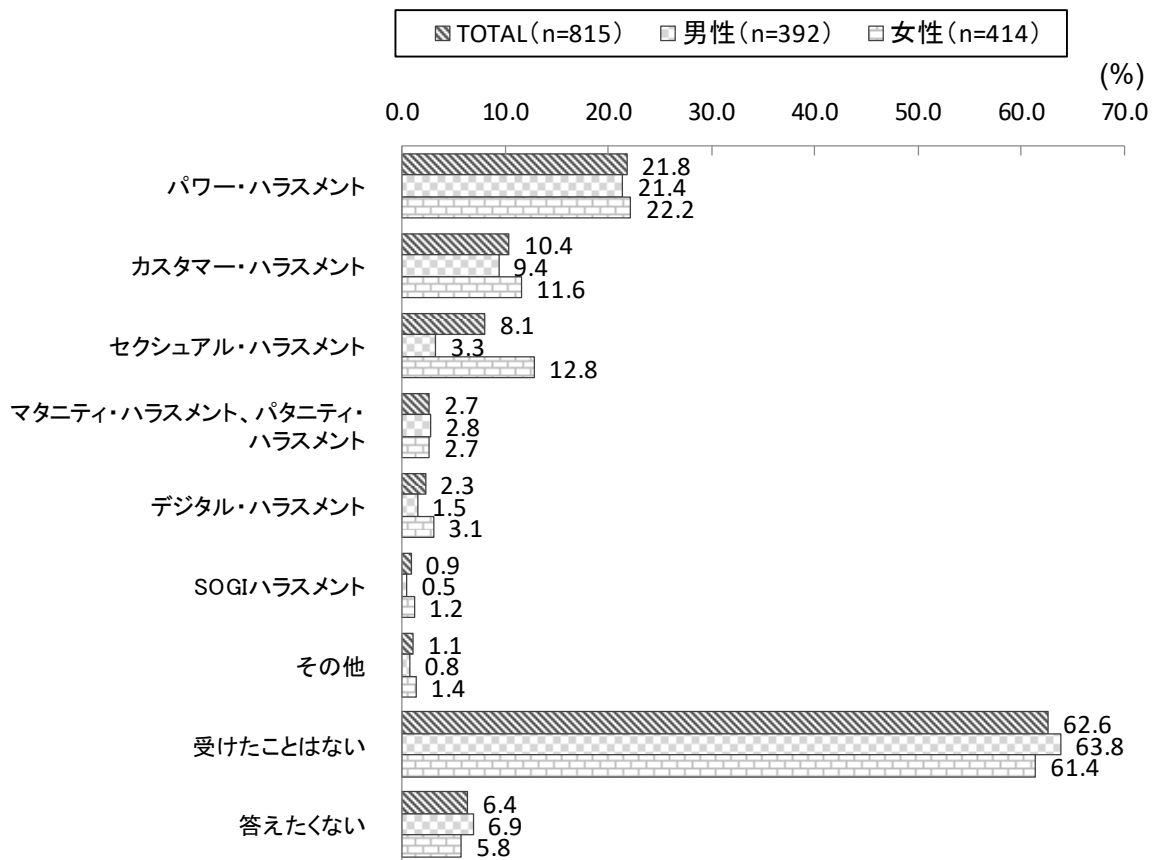
## 6 人権について

問 14 あなたは、過去5年間に何らかのハラスメント（嫌がらせ、いじめ等）を受けたことがありますか。（回答はいくつでも）

「パワー・ハラスメント」が 21.8%と最も高く、次いで「カスタマー・ハラスメント」が 10.4%、「セクシュアル・ハラスメント」が 8.1%となっている。

### 【性別】

「セクシュアル・ハラスメント」は男女で差が大きく、男性より女性が高くなっている。



【性年代別】

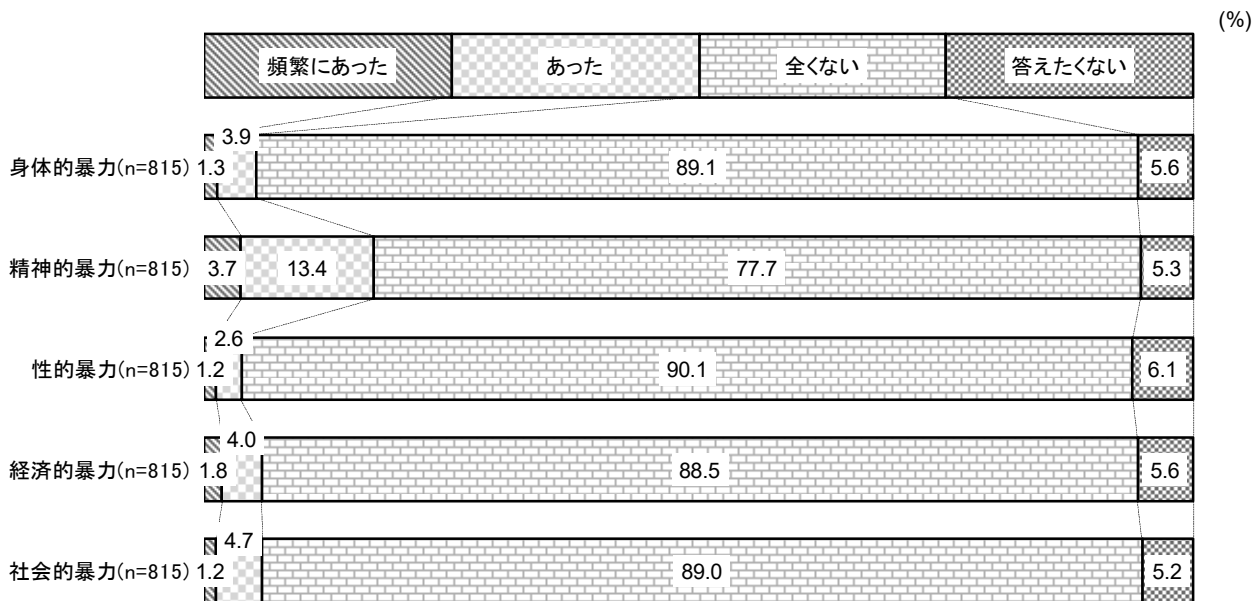
女性 40 代では「受けたことがない」が他の性年代より低くなっている。

	n=	パワー・ハラスメント	カスタマー・ハラスメント	セクシュアル・ハラスメント	マタニティ・ハラスメント、パタニティ・ハラスメント	デジタル・ハラスメント	SOGIハラスメント	その他	受けたことはない	答えたくない	(%)
TOTAL	815	21.8	10.4	8.1	2.7	2.3	0.9	1.1	62.6	6.4	
男性18-29歳	20	20.0	20.0	15.0	10.0	5.0	5.0	0.0	45.0	10.0	
女性18-29歳	29	3.4	10.3	13.8	0.0	0.0	0.0	0.0	69.0	10.3	
男性30-39歳	51	25.5	9.8	3.9	3.9	2.0	0.0	0.0	54.9	7.8	
女性30-39歳	70	24.3	15.7	20.0	4.3	1.4	0.0	2.9	51.4	8.6	
男性40-49歳	113	26.5	15.0	3.5	4.4	3.5	0.9	0.0	60.2	4.4	
女性40-49歳	110	34.5	15.5	16.4	5.5	6.4	3.6	1.8	49.1	6.4	
男性50-59歳	111	19.8	6.3	1.8	0.9	0.0	0.0	2.7	63.1	10.8	
女性50-59歳	108	20.4	10.2	13.0	1.9	1.9	0.9	0.0	62.0	6.5	
男性60-69歳	53	22.6	5.7	3.8	1.9	0.0	0.0	0.0	66.0	7.5	
女性60-69歳	53	15.1	7.5	3.8	0.0	3.8	0.0	1.9	77.4	1.9	
男性70歳以上	44	6.8	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	90.9	0.0	
女性70歳以上	44	13.6	4.5	2.3	0.0	2.3	0.0	2.3	81.8	0.0	
その他/回答しない	9	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	11.1	

問 15 あなたは現在または以前の配偶者（事実婚・パートナー）や交際相手から、過去 1 年間に次にあげるような暴力（DV）を一方的に受けた経験はありますか。（回答は1つずつ）

「頻繁にあった」「あった」を合わせた『あった』計で見ると、「精神的暴力」が 17.1%と最も高く、次いで「経済的暴力」、「社会的暴力」がともに 5.9%（48 人）、「身体的暴力」が 5.3%（43 人）、「性的暴力」が 3.8%となっている。

※回答者数を基数として算出しているため、個々の回答の比率（%）を足しあげた値は、四捨五入の関係で一致しない場合がある。

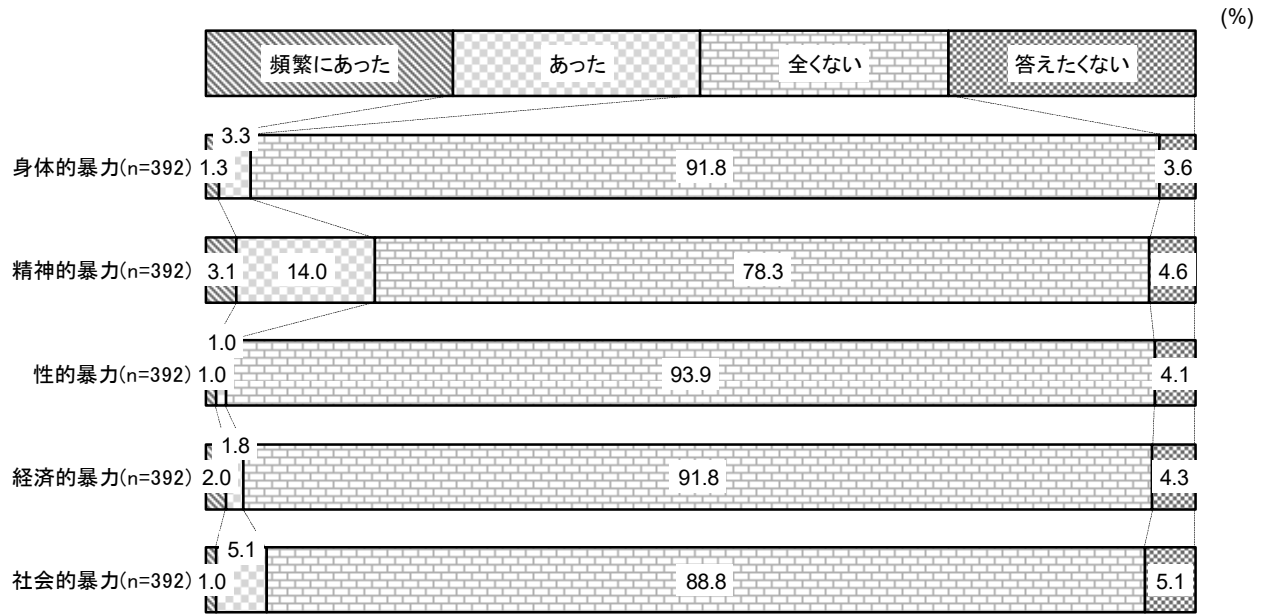


身体的暴力	なぐる、蹴る、突き飛ばす、首を絞める、物を投げ付ける、タバコを押し付けるなど
精神的暴力	怒鳴る、無視する、脅迫する、なぐるふりをする、侮辱的なことを言うなど
性的暴力	性行為を強要する、見たくないのにポルノビデオを見せる、避妊に協力しない、中絶を強要するなど
経済的暴力	生活費を渡さない、貯金を勝手に使う、外で働くことを妨害するなど
社会的暴力	交友関係や電話・メール・郵便の内容を監視する、外出や親族・友人との付き合いを制限するなど

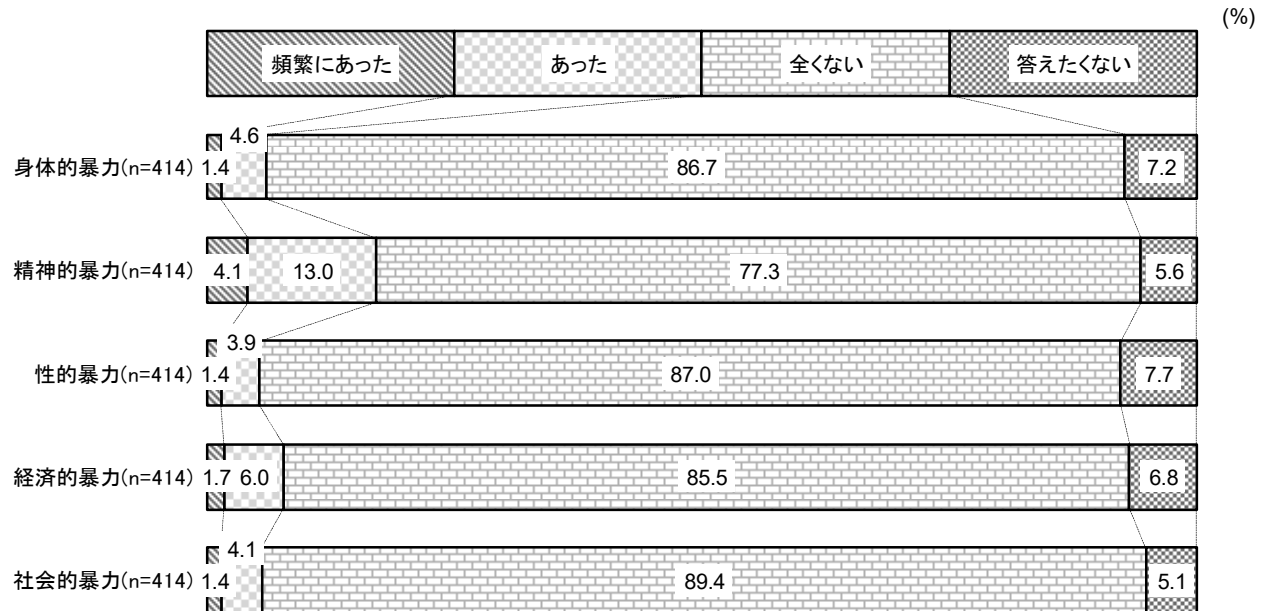
【性別】

「頻繁にあった」「あった」を合わせた『あった』計でみると、「経済的暴力」、「性的暴力」で男性より女性のほうが高くなっている。

<男性>



<女性>

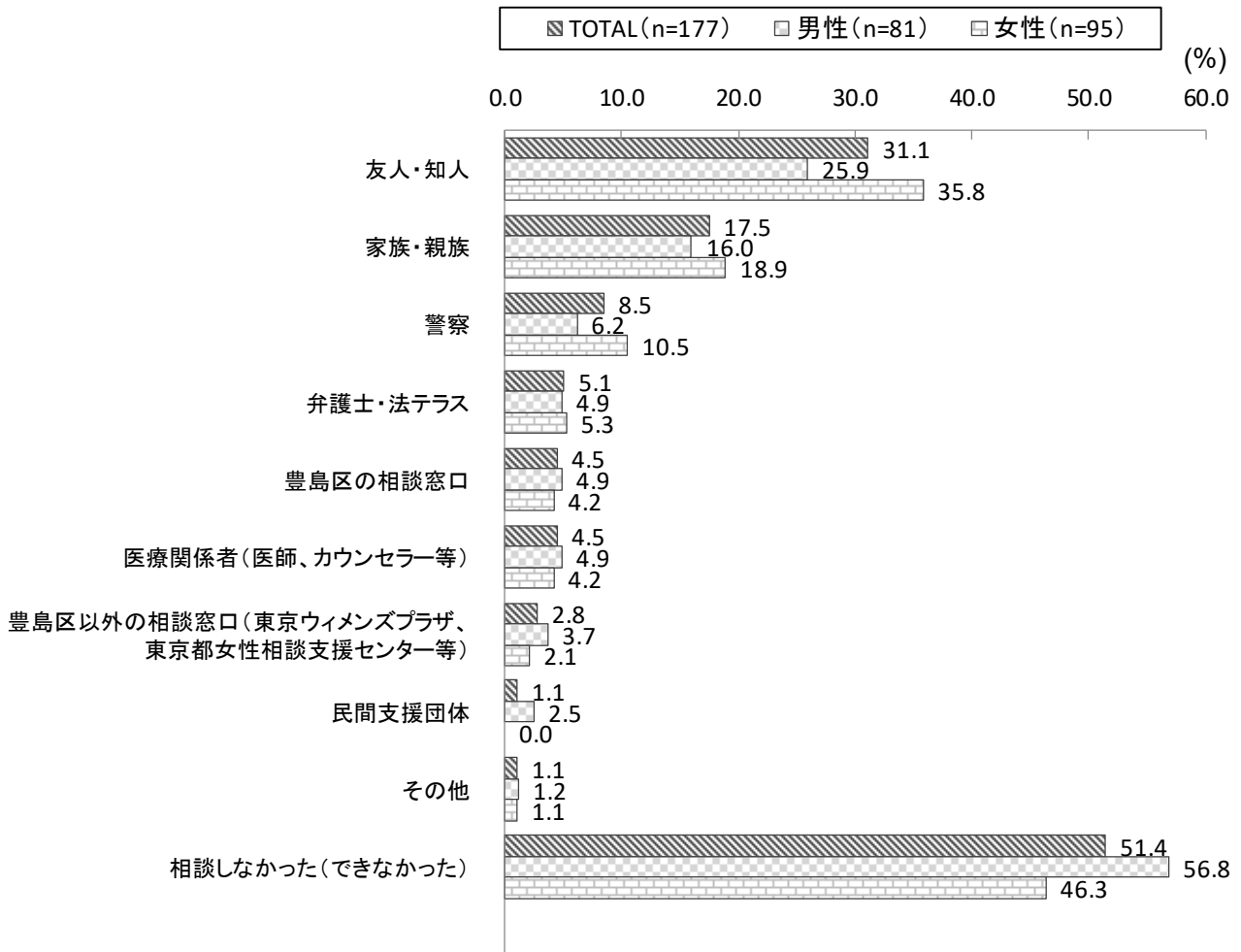


問 15\_1 あなたはこれまでに、前問であげたような行為について、誰かに相談しましたか。  
(回答はいくつでも)

「友人・知人」が最も高く、31.1%。次いで「家族・親族」が17.5%、「警察」が8.5%となっている。

【性別】

性別で差はみられない。

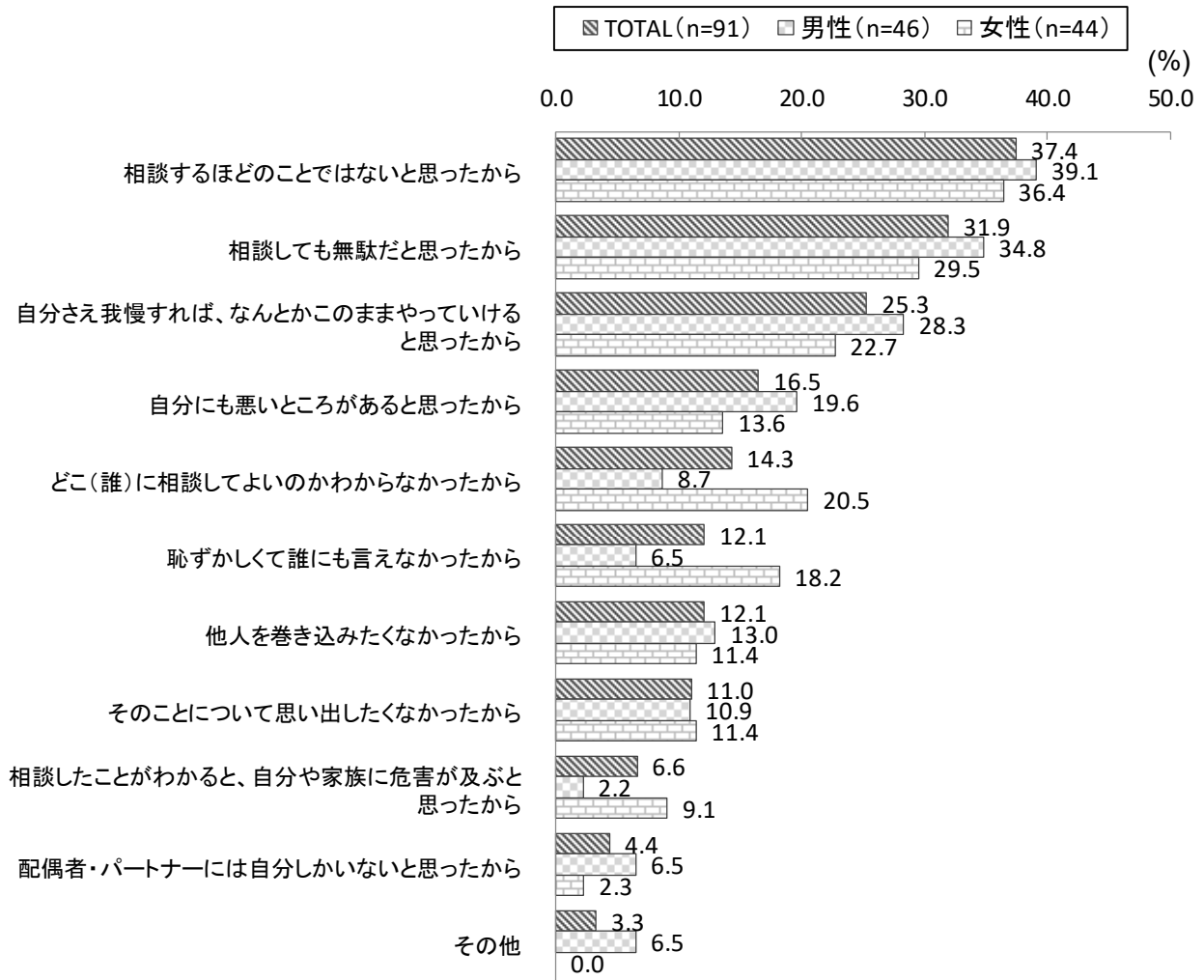


問 15\_2 相談しなかった理由はなんですか。(回答はいくつでも)

「相談するほどのことではないと思ったから」が 37.4%と最も高く、次いで「相談しても無駄だと思ったから」が 31.9%、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が 25.3%となっている。

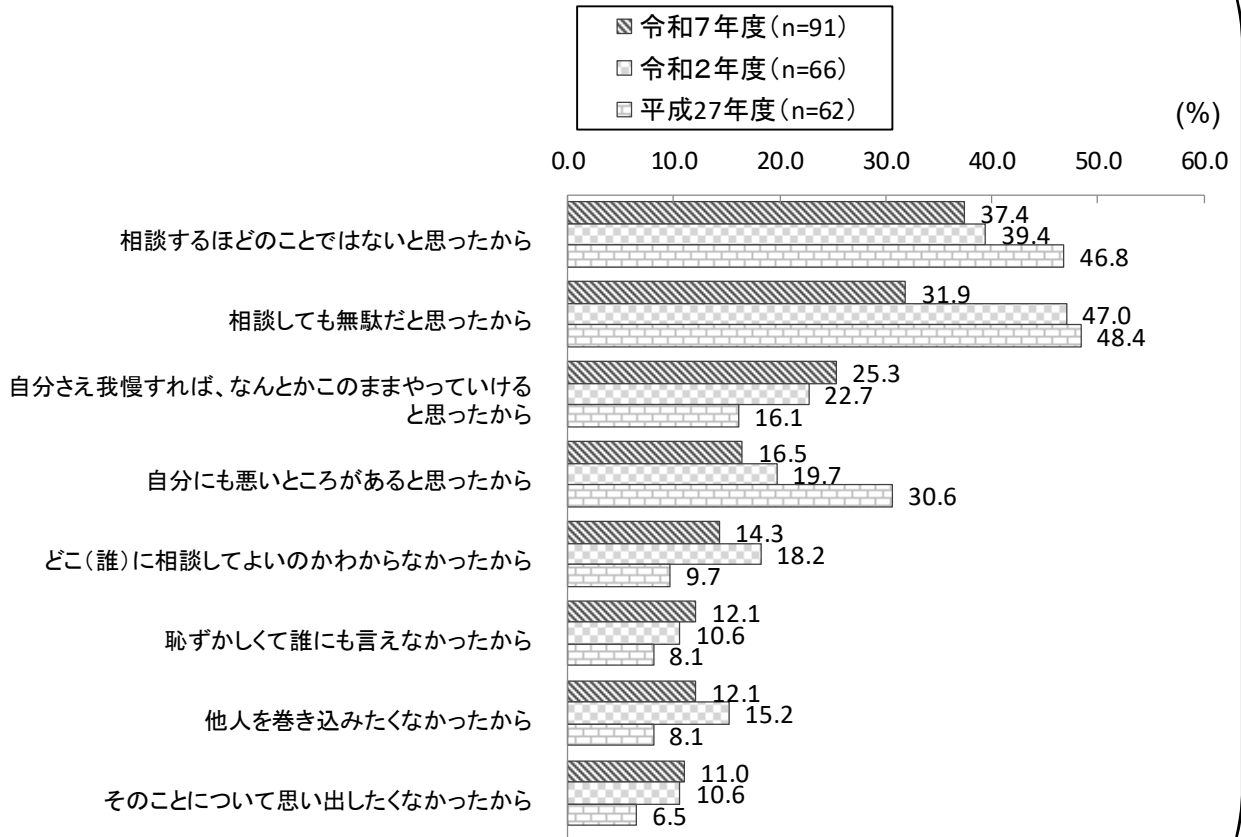
【性別】

性別で差はみられない。



【参考】

相談しなかった理由はなんですか。



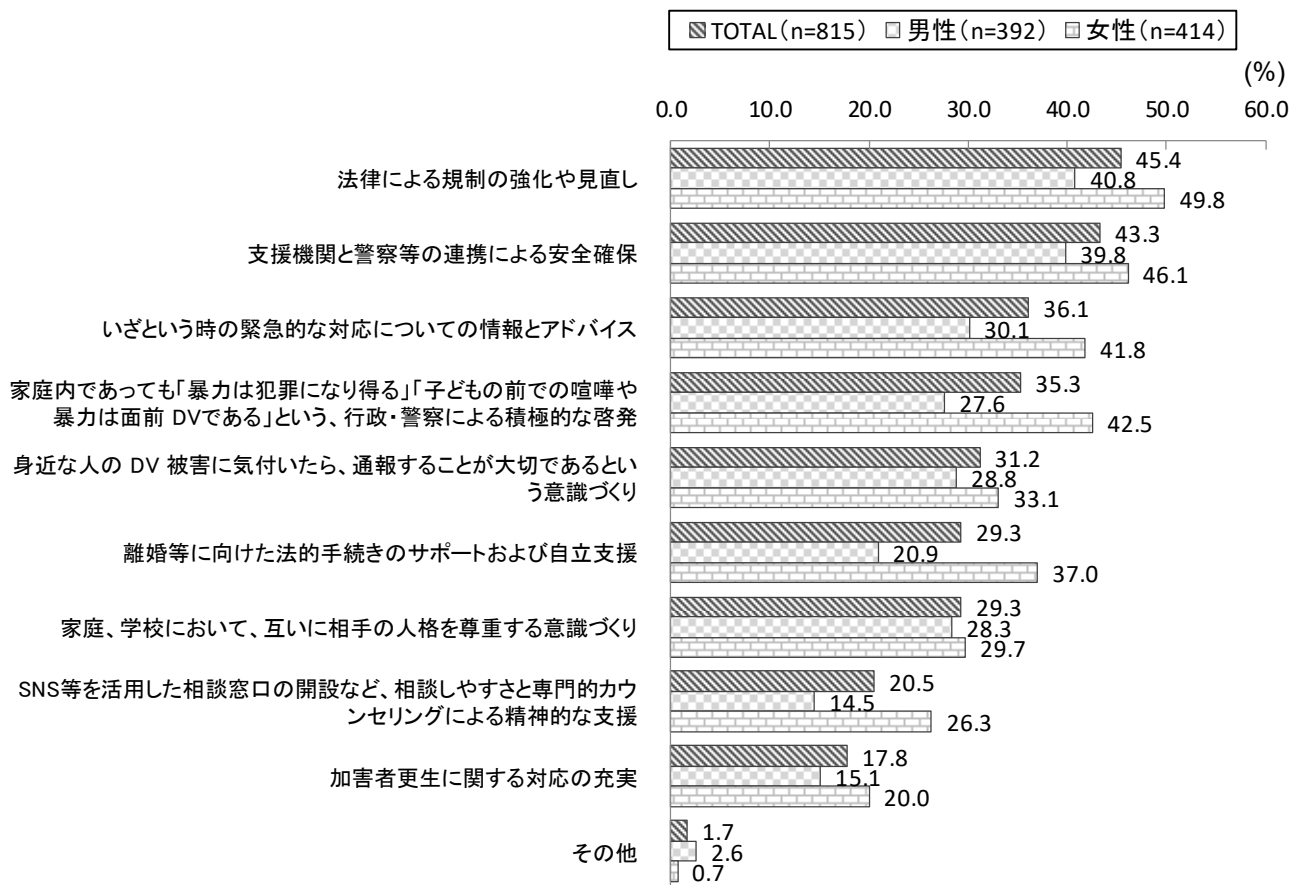
※今回調査との相違点：調査手法及び設問文・選択肢  
 ※共通する選択肢のみ抜き出している。

問 16 支援機関によるDVへの対応として、どのようなことが大切だと思いますか。  
(回答はいくつでも)

「法律による規制の強化や見直し」が 45.4%と最も高く、次いで「支援機関と警察等の連携による安全確保」が 43.3%、「いざという時の緊急的な対応についての情報とアドバイス」が 36.1%となっている。

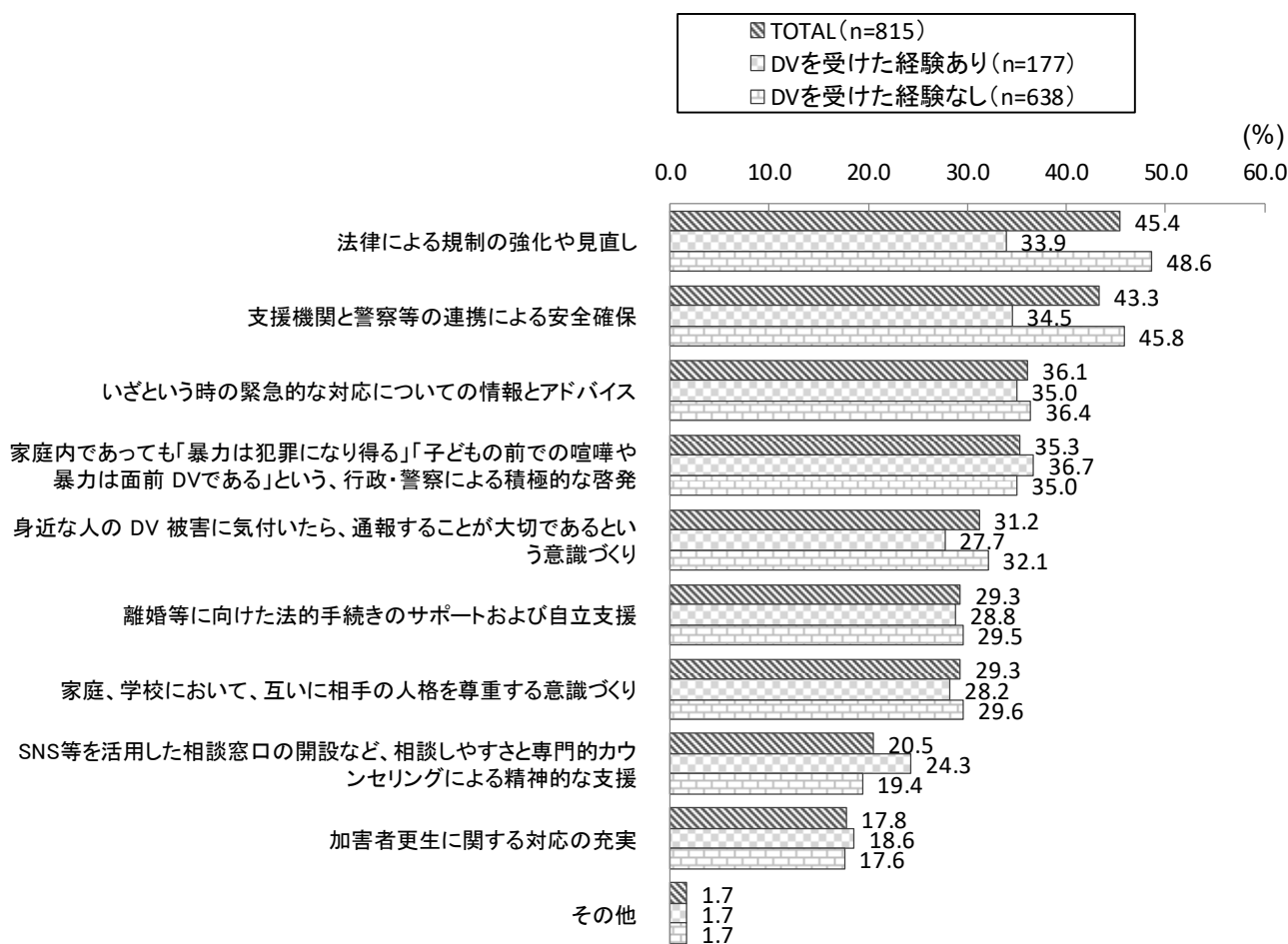
【性別】

「離婚等に向けた法的手続きのサポートおよび自立支援」「家庭内であっても「暴力は犯罪になり得る」、「子どもの前での喧嘩や暴力は面前 DV である」という、行政・警察による積極的な啓発」は特に男性より女性で高くなっている。



【DVを受けた経験の有無別】

DVを受けた経験のある人では、「法律による規制の強化や見直し」、「支援機関と警察等の連携による安全確保」で経験のない人より低くなっている。

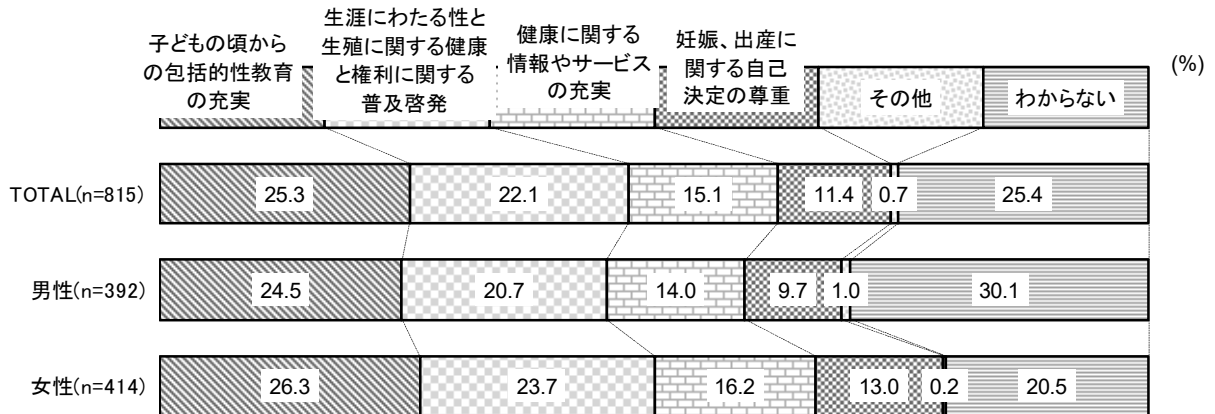


問 17 生涯にわたる性と生殖に関する健康と権利（セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ）という考えがありますが、どのようなことが最も重要だと思いますか。（回答は1つ）

「子どもの頃からの包括的性教育の充実」が 25.3%、次いで「生涯にわたる性と生殖に関する健康と権利に関する普及啓発」が 22.1%となっている。一方、「わからない」も 25.4%と高い。

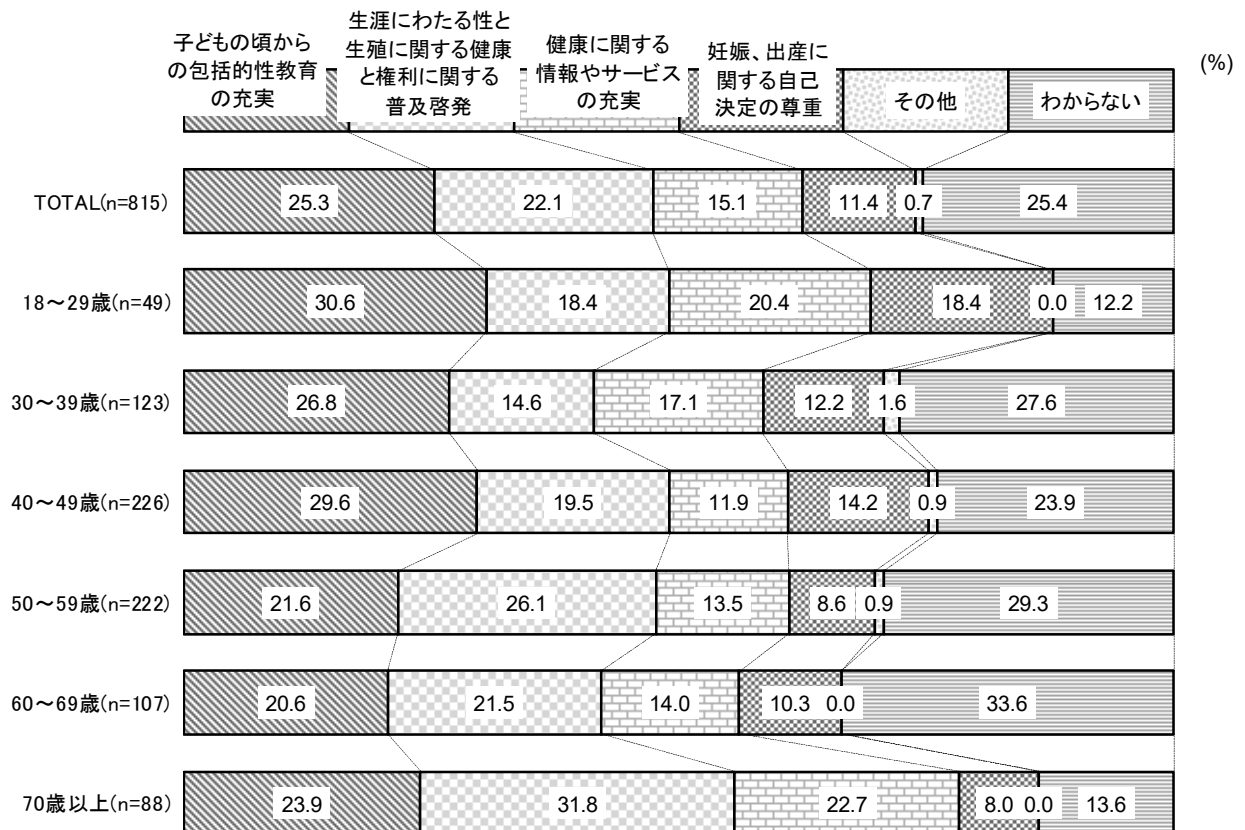
【性別】

男性では、「わからない」が最も高く、女性と 10 ポイント近い差がある。



【年代別】

70歳以上では「生涯にわたる性と生殖に関する健康と権利に関する普及啓発」が 31.8%と他の年代より高い。



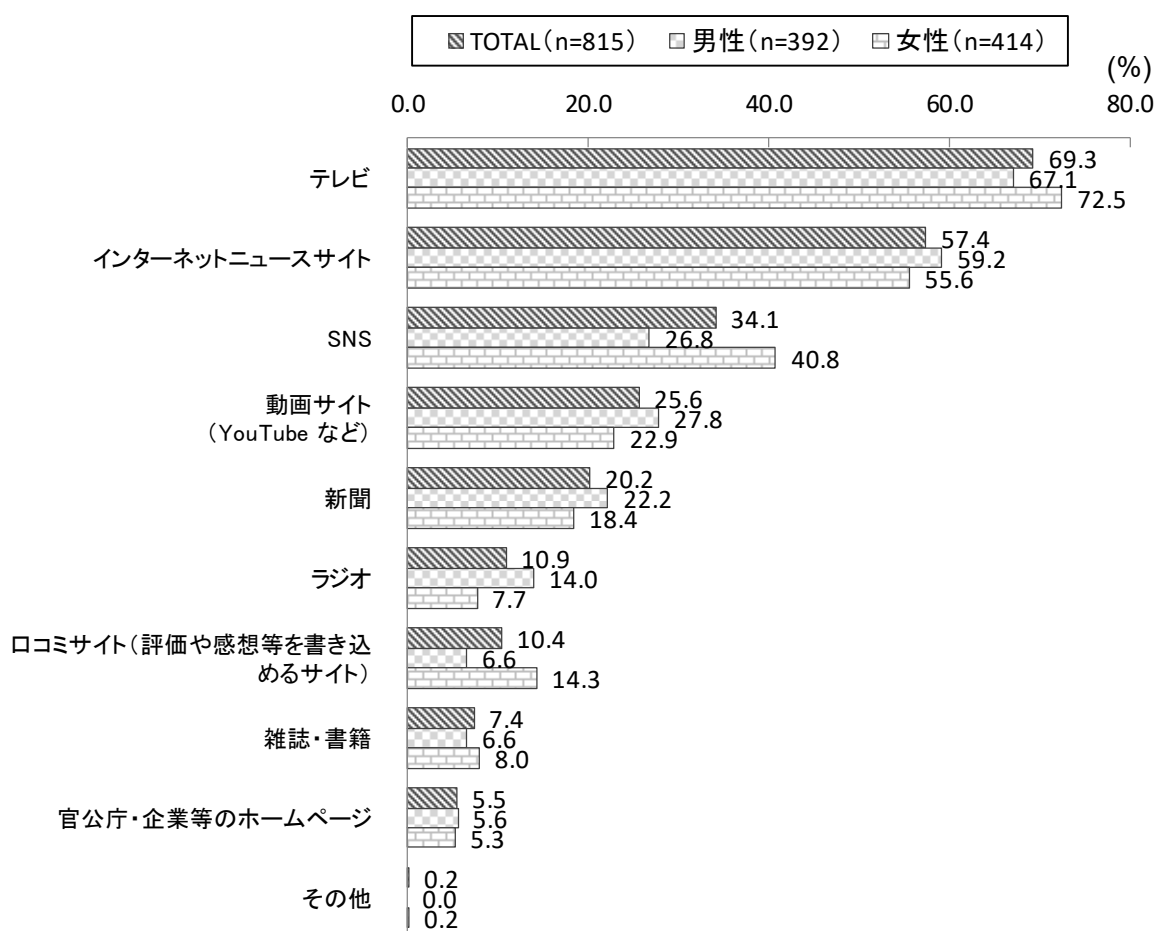
## 7 メディア・リテラシーについて

問 18 あなたは日頃どのメディアから情報収集していますか。(回答は3つまで)

「テレビ」が最も高く、69.3%。次いで「インターネットニュースサイト」が 57.4%、「SNS」が 34.1%となっている。

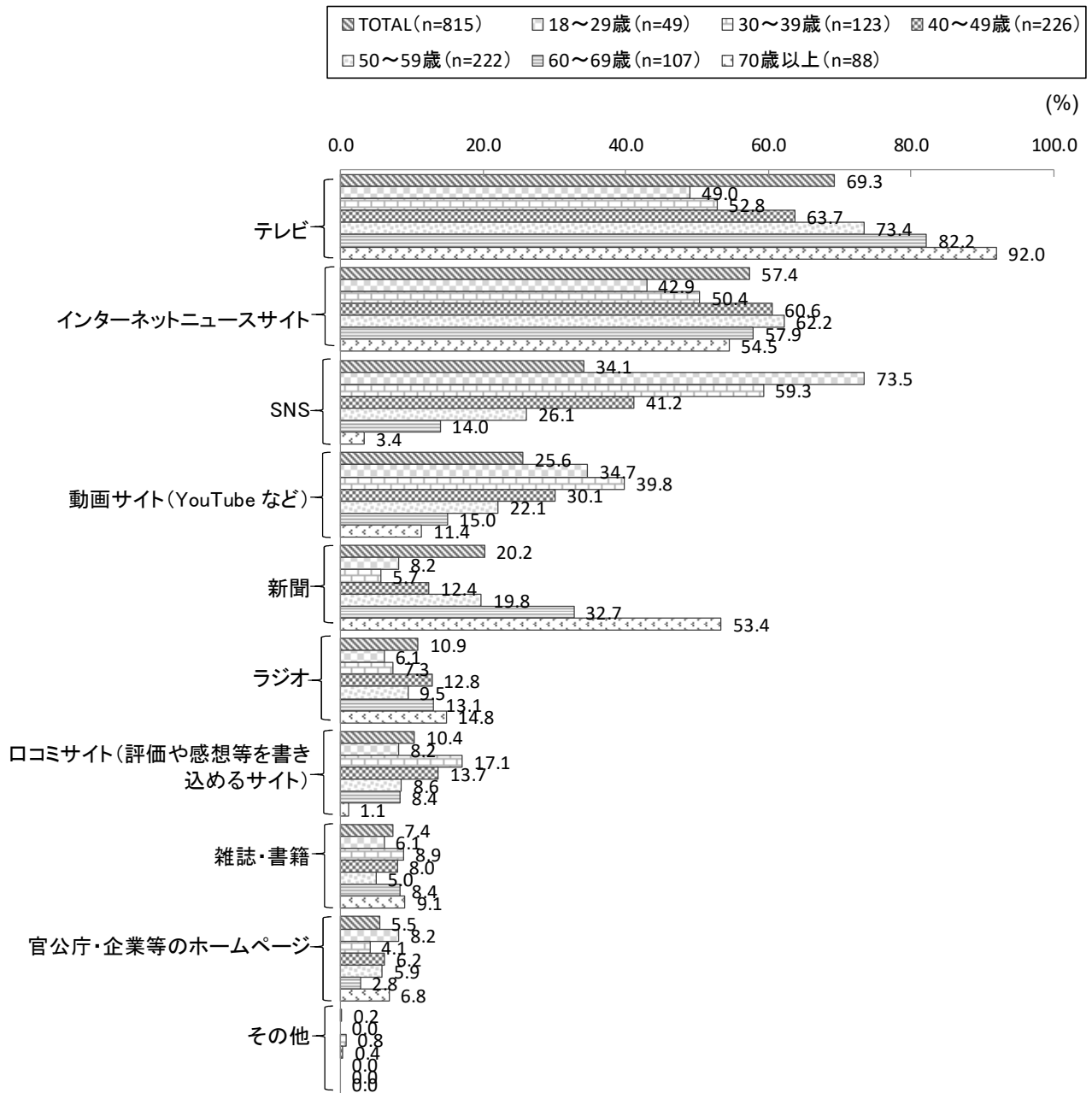
【性別】

「SNS」、「口コミサイト」は女性が男性より高く、一方、「ラジオ」は男性が女性より高い。



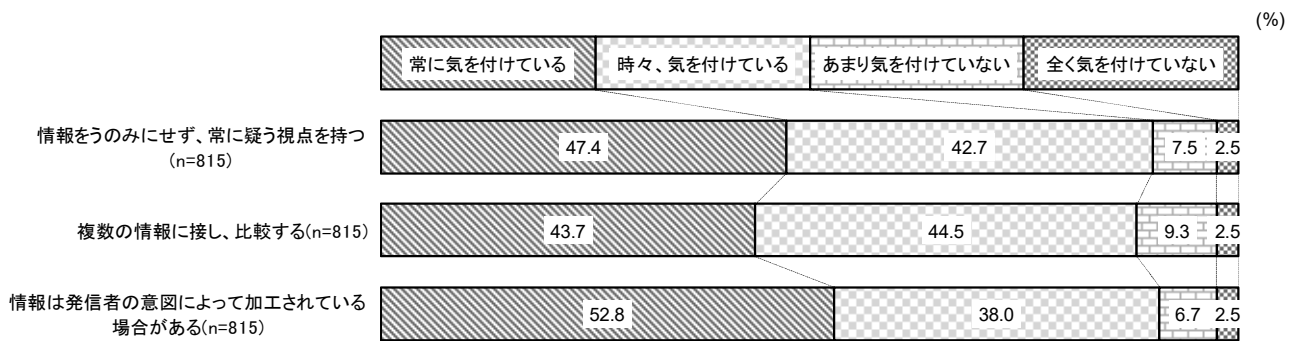
【年代別】

「テレビ」、「新聞」は年齢層とともに高く、一方、「SNS」は年齢層が低いほど高くなっている。



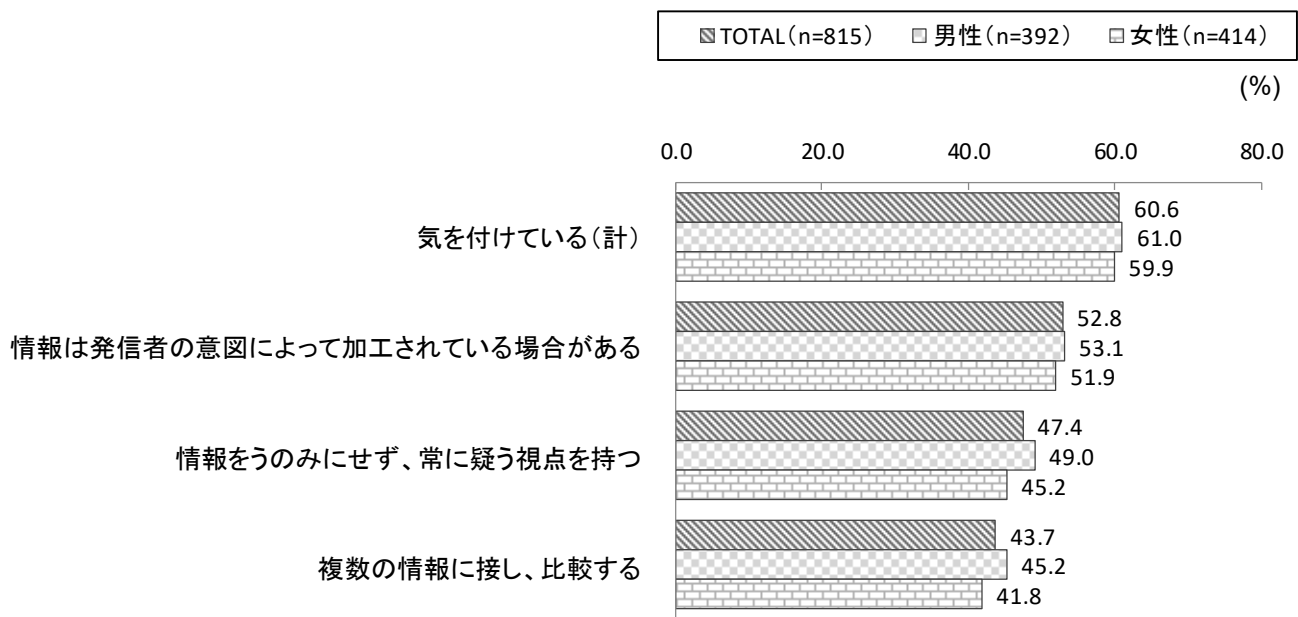
問 19 あなたは社会情勢について情報を得る際、どのようなことに気を付けていますか。次について、それぞれ選んでください。(回答は1つずつ)

「常に気を付けている」人の割合は、「情報は発信者の意図によって加工されている場合がある」で 52.8%、次いで「情報をうのみにせず、常に疑う視点を持つ」で 47.4%、「複数の情報に接し、比較する」で 43.7%となっている。



【性別】

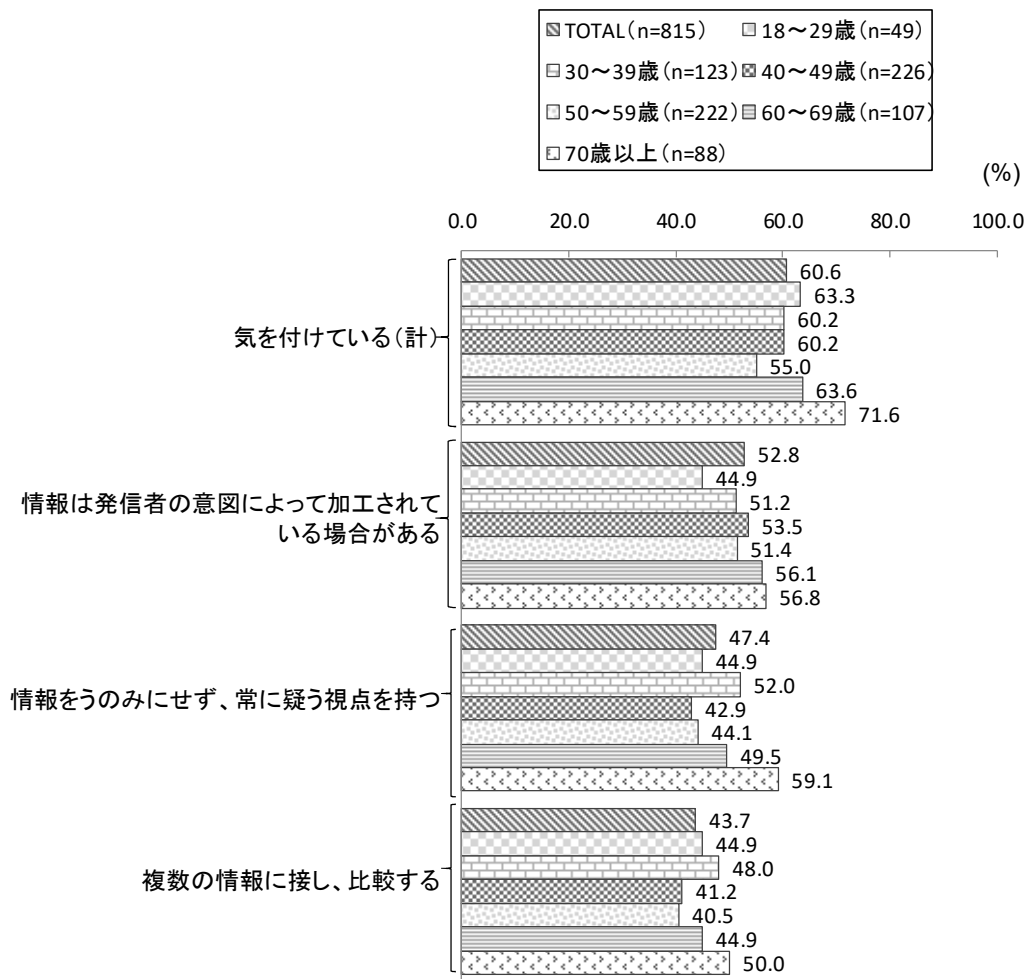
性別で差はみられない。



※「気を付けている(計)」は、3項目のいずれかを「常に気を付けている」「時々、気を付けている」の合計

【年代別】

70歳以上では、「情報をうのみにせず、常に疑う視点を持つ」が59.1%と他の年代より高い。



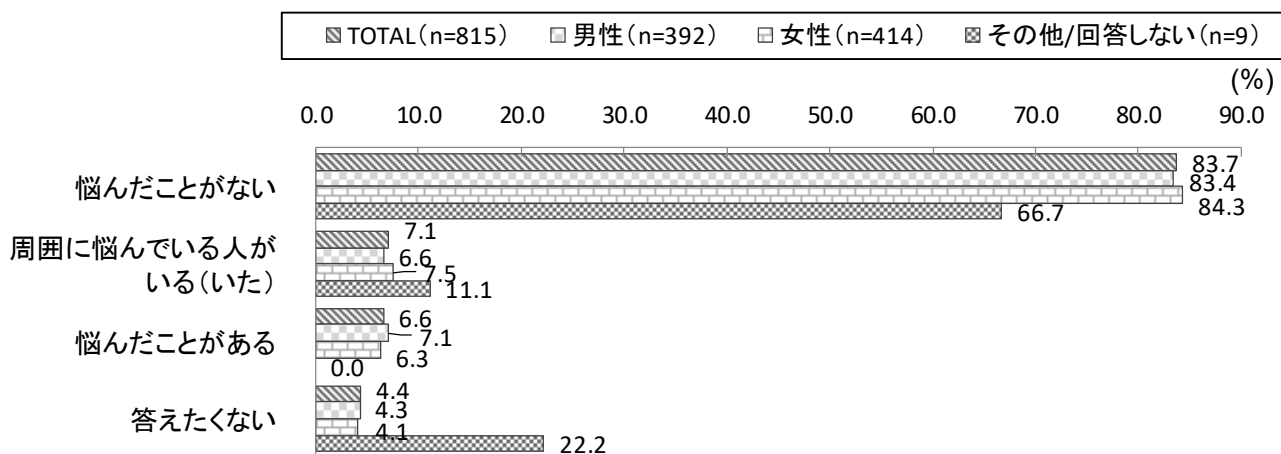
## 8 多様な性自認・性的指向の人々について

問 20 あなたは、今までに自分の性自認・性的指向（自分の性別や恋愛対象等）について悩んだことがありますか。または、周囲の人で悩んでいる人はいましたか。（回答はいくつでも※ただし、「悩んだことがある」と「悩んだことはない」は同時に選択できない。）

「悩んだことがない」が83.7%と最も高い。「周囲に悩んでいる人がいる（いた）」は7.1%、「悩んだことがある」は6.6%となっている。

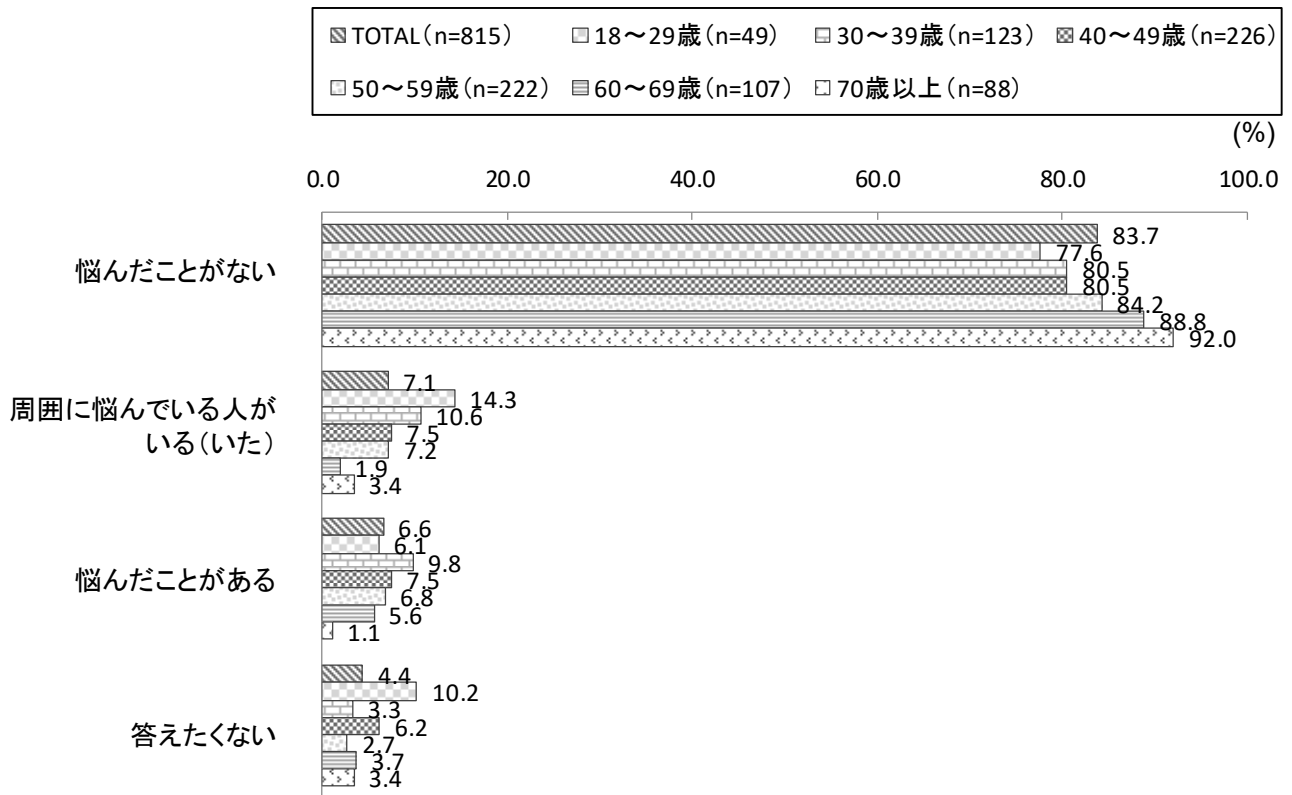
### 【性別】

性別で差はみられない。



【年代別】

「悩んだことがない」は70代以上で9割以上と高い。20代以下では、「周囲に悩んでいる人がいる(いた)」が14.3%と他の年代より高い。

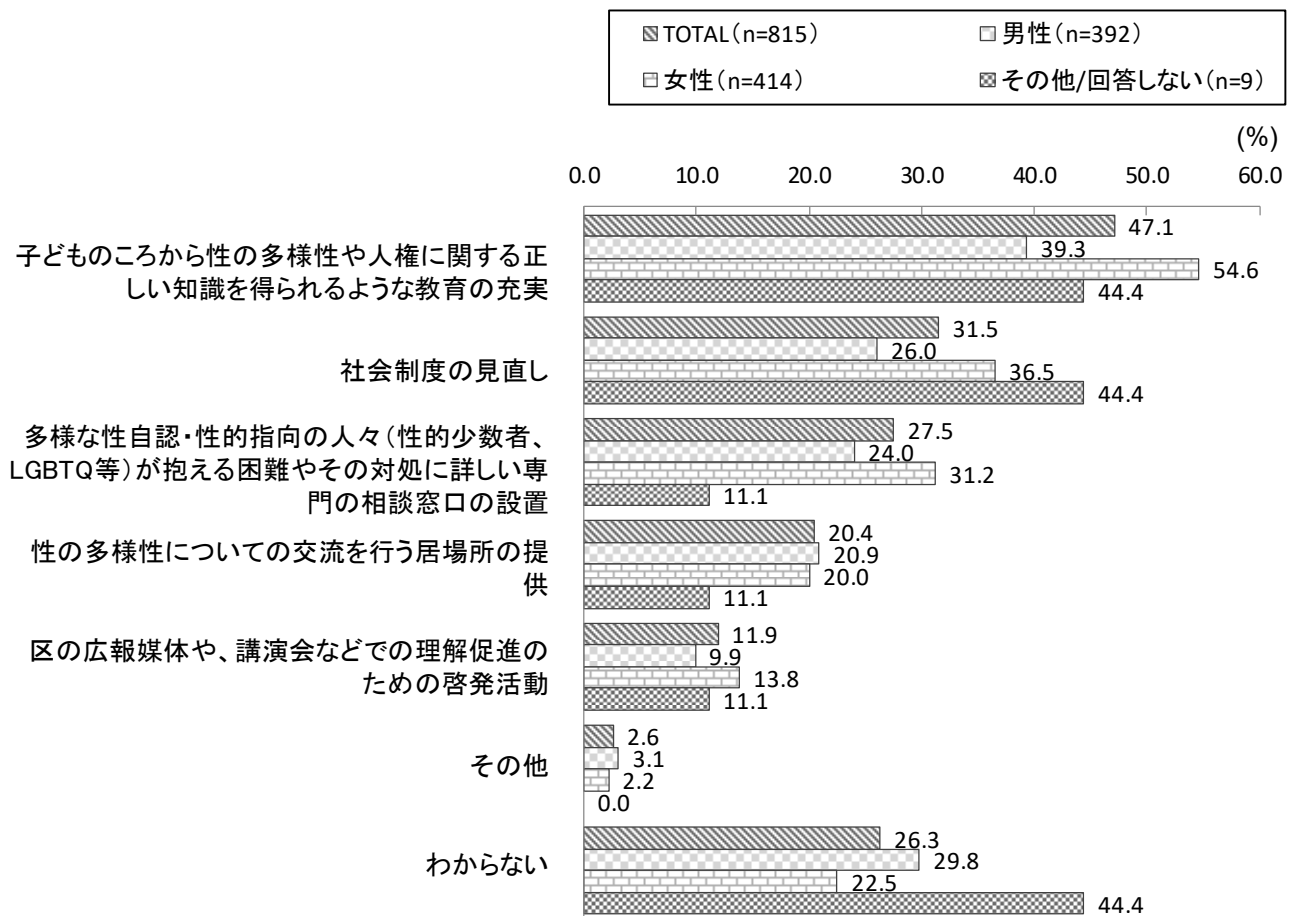


問 21 多様な性自認・性的指向の人々（性的少数者、LGBTQ等）が暮らしやすい社会をつくるために、どのような取組が必要だと思いますか。（回答はいくつでも）

「子どものころから性の多様性や人権に関する正しい知識を得られるような教育の充実」が最も高く、47.1%。次いで「社会制度の見直し」が31.5%、「多様な性自認・性的指向の人々（性的少数者、LGBTQ等）が抱える困難やその対処に詳しい専門の相談窓口の設置」が27.5%となっている。

【性別】

「子どものころから性の多様性や人権に関する正しい知識を得られるような教育の充実」、「社会制度の見直し」で、男性より女性の方が10ポイント以上高くなっている。



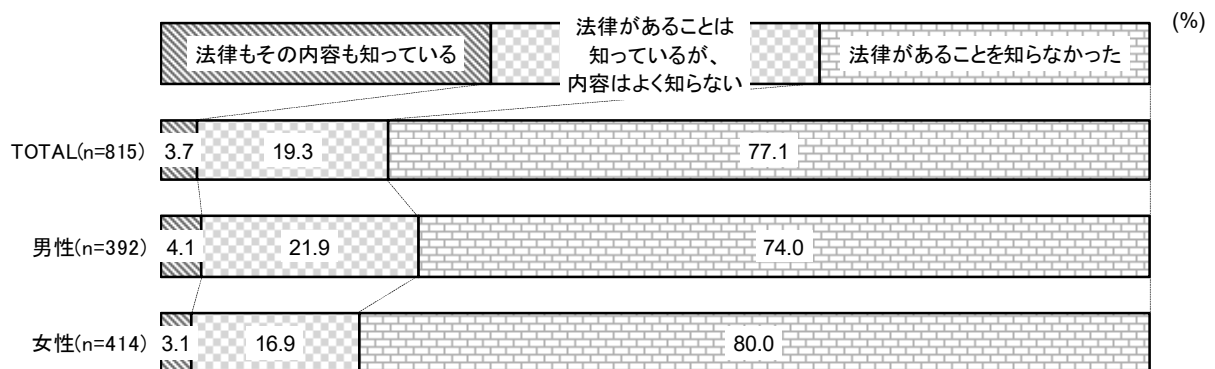
## 9 困難な問題を抱える女性への支援について

問 22 令和6年4月に施行された「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」について知っていますか。(回答は1つ)

「法律があることを知らなかった」が77.1%と最も高く、次いで「法律があることは知っているが、内容はよく知らない」が19.3%、「法律もその内容も知っている」が3.7%となっている。

### 【性別】

「法律があることを知らなかった」は男性より女性が高くなっている。

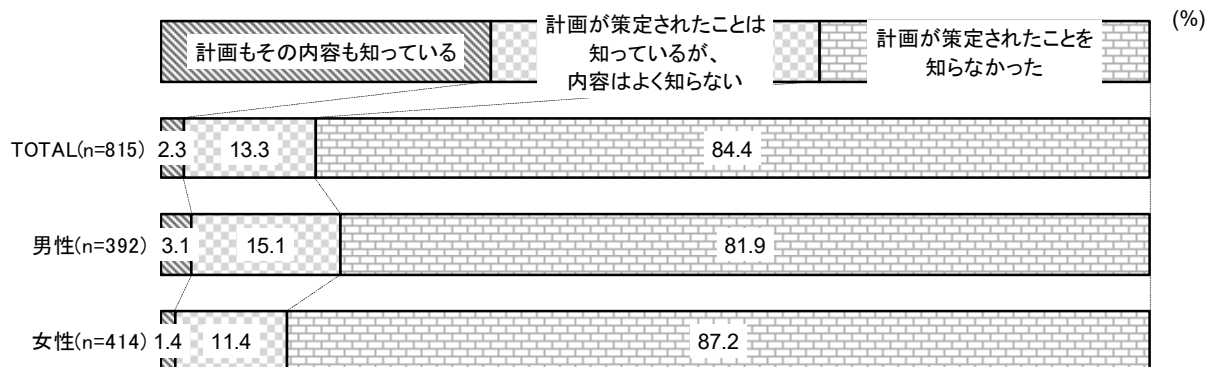


問 23 豊島区は令和7年3月に「第1次豊島区困難女性支援基本計画」を策定しましたが、そのことを知っていますか。(回答は1つ)

「計画が策定されたことを知らなかった」が84.4%と最も高く、次いで「計画が策定されたことは知っているが、内容はよく知らない」が13.3%、「計画もその内容も知っている」が2.3%となっている。

### 【性別】

「計画が策定されたことを知らなかった」は男性より女性が高くなっている。

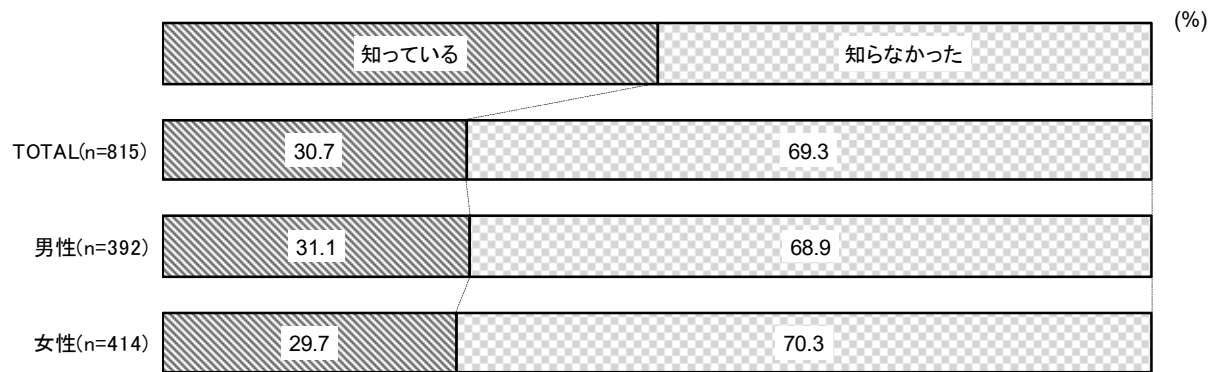


問 24 困難な問題や生きづらさを抱えた際に公的な機関や民間支援団体に相談できることを知っていますか。(回答は1つ)

「知らなかった」が69.3%、「知っている」が30.7%となっている。

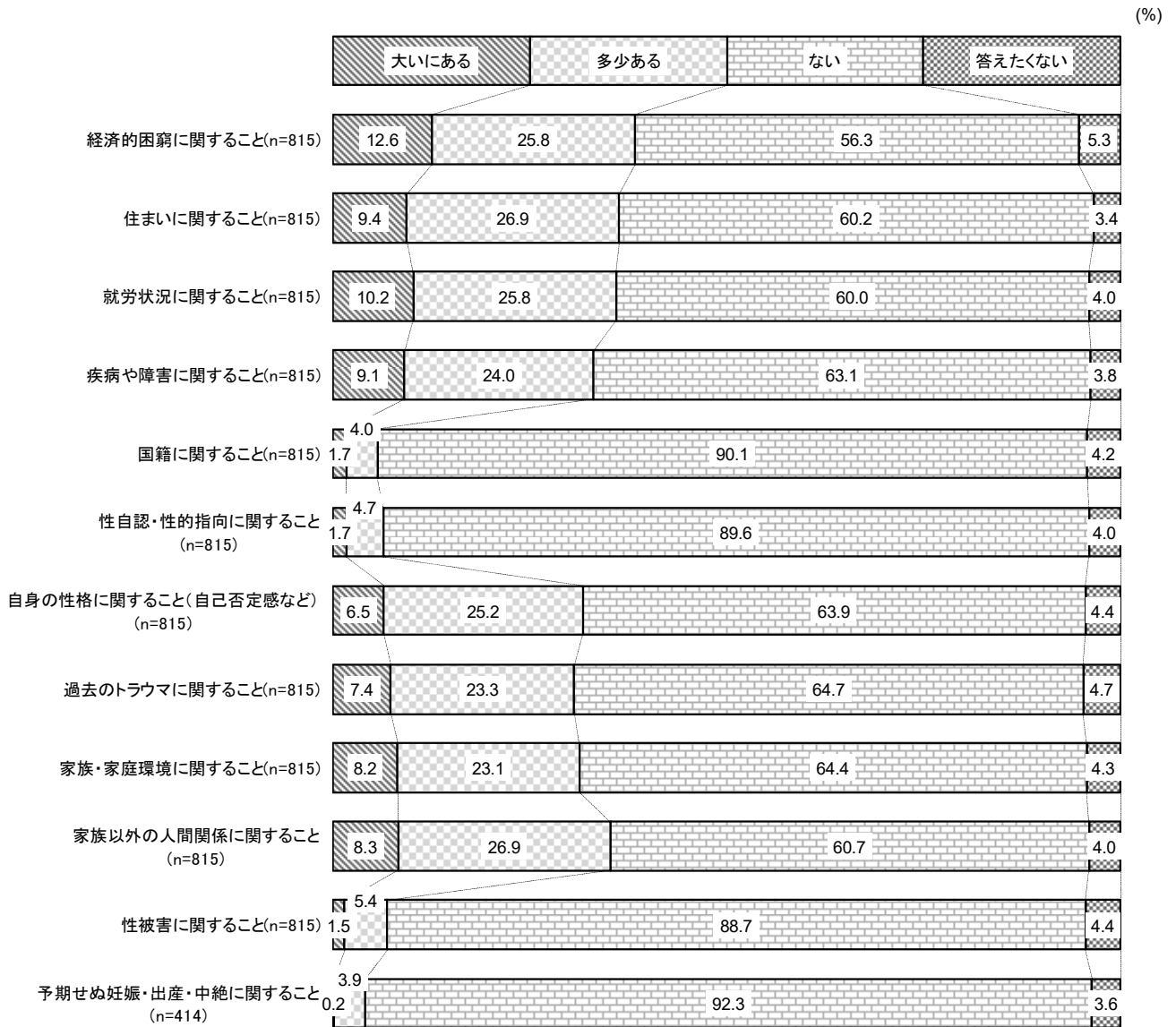
【性別】

性別で差はみられない。



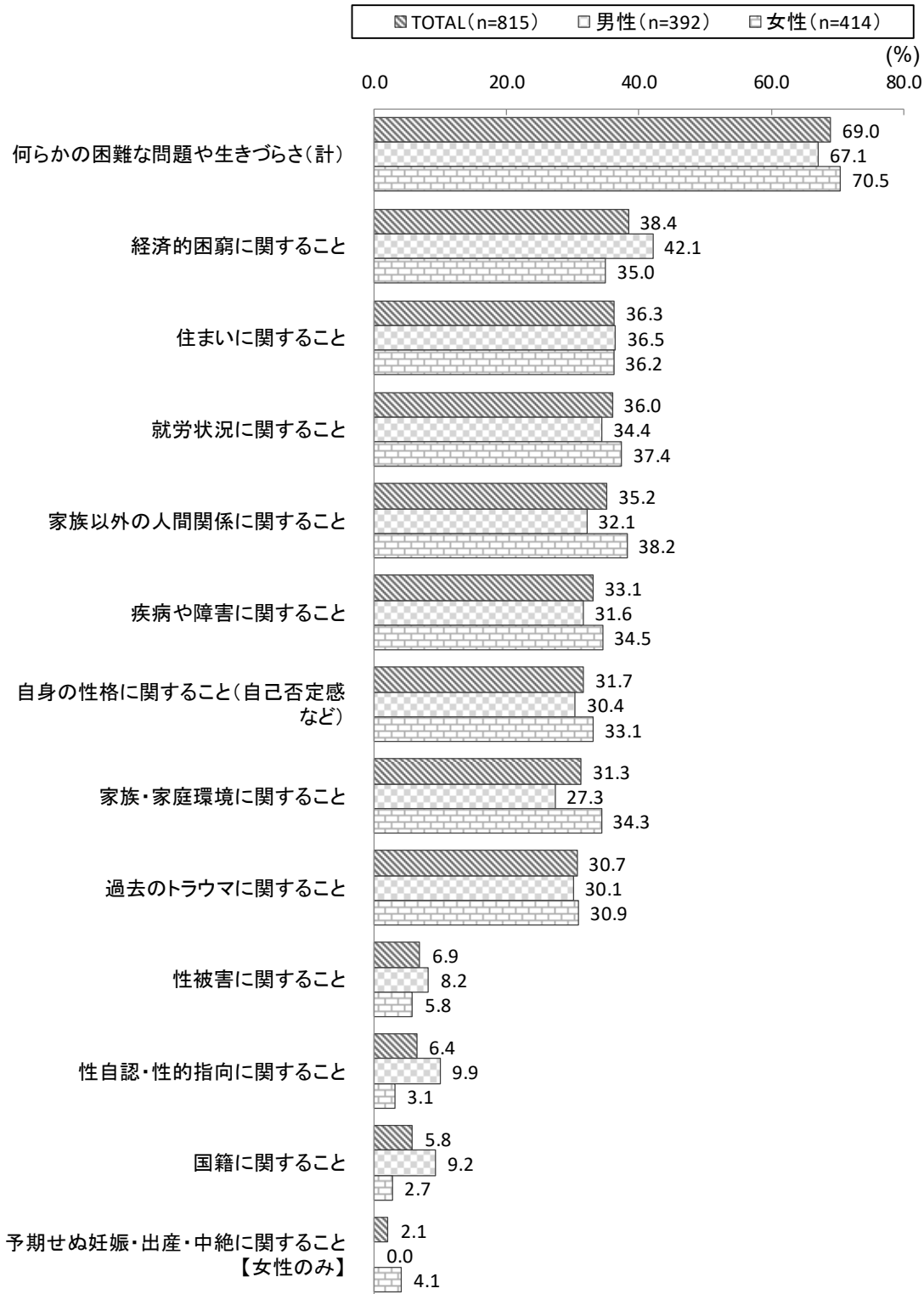
問 25 あなたは直近1年以内に、以下のことについて、困難な問題や生きづらさを抱えたことがありましたか。次について、それぞれ選んでください。(回答は1つずつ)

困難な問題や生きづらさについて、「大いにある」と「多少ある」を合わせた『ある』割合は、「経済的困窮に関すること」が38.4%と最も高く、次いで「住まいに関すること」が36.3%、「就労状況に関すること」が36.0%となっている。



【性別】

「経済的困窮に関すること」、「国籍に関すること」、「性自認・性的指向に関すること」は女性より男性で高く、「家族・家庭環境に関すること」は男性より女性で高い。

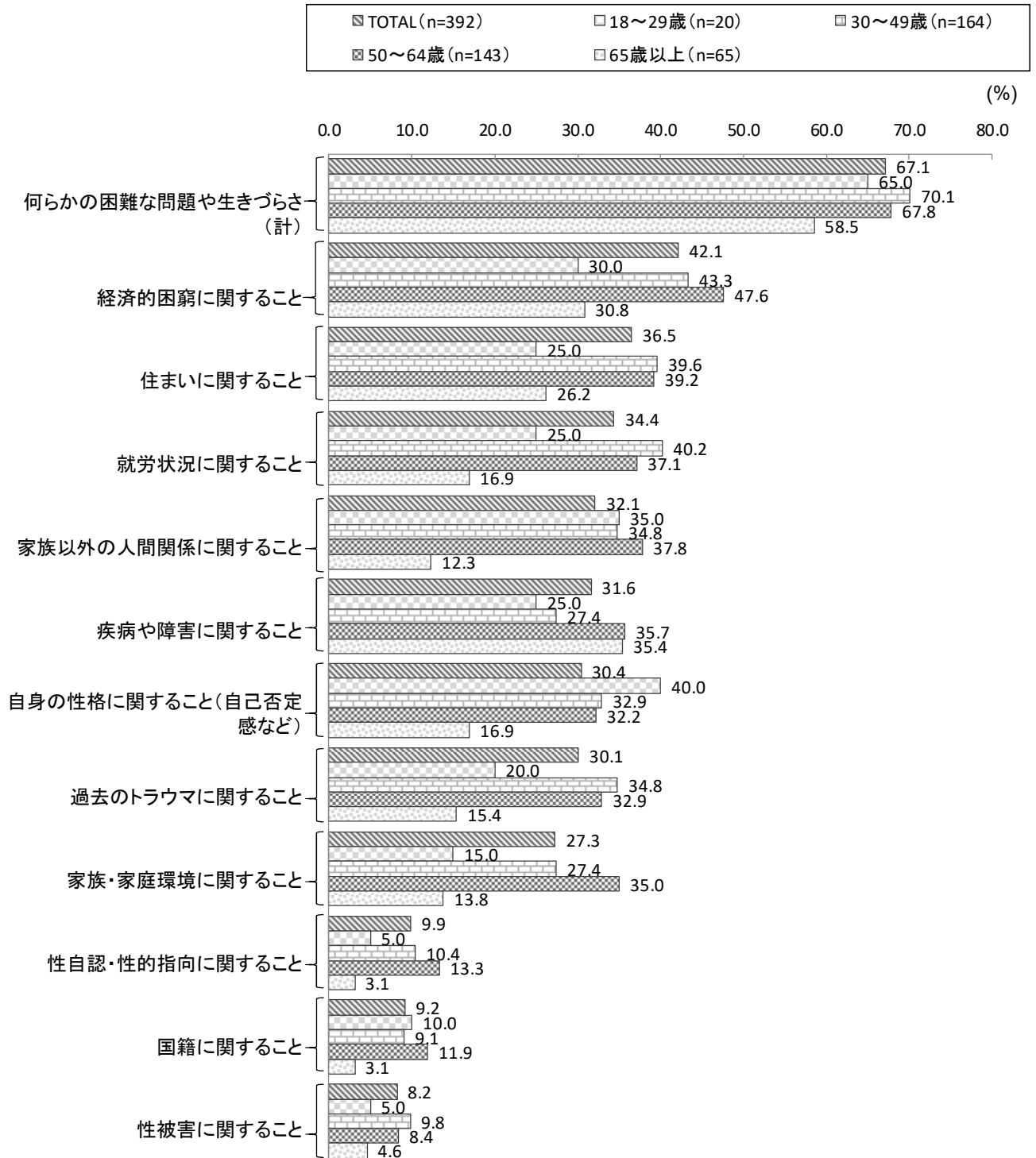


※「何らかの困難な問題や生きづらさ(計)」は、11項目(女性12項目)のいずれかを「大いにある」「多少ある」の合計

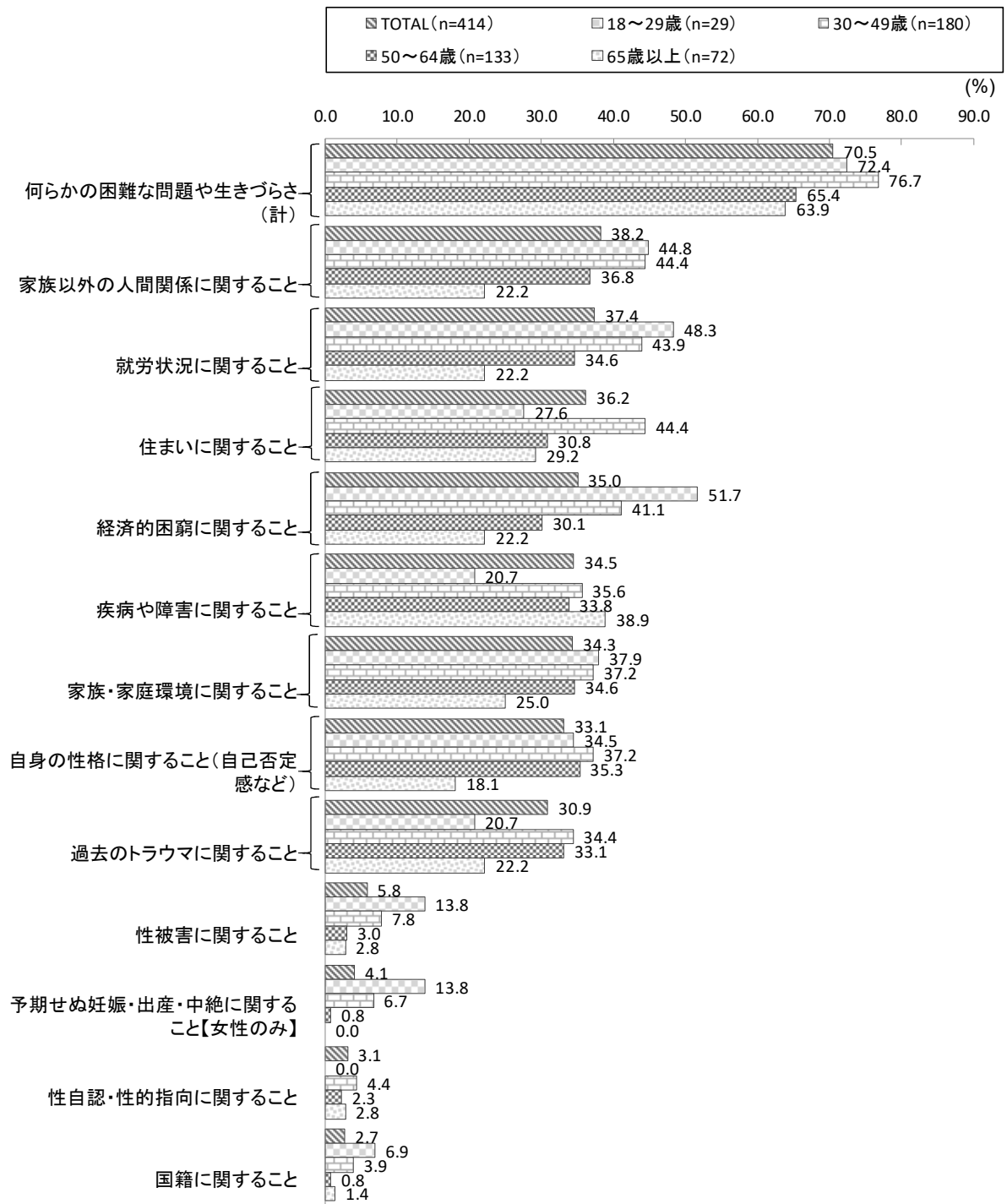
【性年代別】

男女ともに 65 歳以上では、「疾病や障害に関すること」が最も高くなっている。

<男性>



<女性>



問 25\_1 あなたはこれまでに、前問であげたような悩みについて、誰かに相談しましたか。  
(回答はいくつでも)

悩みについて、誰にも「相談していない」割合がおおむね半数以上となっている。

	n=	家族・親 族	友人・知 人	警察	豊島区 の相談 窓口	豊島区 以外の 相談窓 口	弁護士・ 法テラス	医療関 係者(医 師、カウ ンセラー 等)	民間支 援団体	その他 の相談 先	相談して いない
経済的困窮に関する事	313	25.6	14.4	0.3	6.4	1.0	3.5	2.6	1.3	0.6	61.0
住まいに関する事	296	25.3	12.5	2.7	6.4	2.0	2.7	1.0	1.4	1.7	57.4
就労状況に関する事	293	25.3	23.5	0.3	4.8	0.7	0.3	2.0	2.0	1.0	58.0
疾病や障害に関する事	270	29.6	13.7	0.0	4.4	0.7	1.1	21.5	0.7	0.7	48.5
国籍に関する事	47	17.0	14.9	4.3	6.4	0.0	4.3	0.0	6.4	0.0	57.4
性自認・性的指向に関する事	52	13.5	13.5	1.9	1.9	0.0	5.8	0.0	7.7	0.0	61.5
自身の性格に関する事 (自己否定感など)	258	15.5	15.9	1.2	1.9	1.2	1.2	7.8	0.8	0.4	68.2
過去のトラウマに関する事	250	16.4	18.8	1.6	1.6	1.6	0.8	5.6	0.8	0.4	66.8
家族・家庭環境に関する事	255	19.2	20.4	1.6	3.1	1.2	2.4	4.7	0.8	0.0	61.2
家族以外の人間関係に関する事	287	19.2	26.1	2.1	1.0	0.7	1.7	4.9	0.7	0.3	57.1
性被害に関する事	56	10.7	7.1	5.4	12.5	0.0	7.1	1.8	1.8	0.0	62.5
予期せぬ妊娠・出産・中絶に関する事	17	5.9	23.5	0.0	0.0	0.0	0.0	11.8	0.0	0.0	64.7

【性別】

男性では、「性被害に関する事」で「豊島区の相談窓口」が最も高い。

<男性>

	n=	家族・親 族	友人・知 人	警察	豊島区 の相談 窓口	豊島区 以外の 相談窓 口	弁護士・ 法テラス	医療関 係者(医 師、カウ ンセラー 等)	民間支 援団体	その他 の相談 先	相談して いない
経済的困窮に関する事	165	22.4	13.3	0.6	5.5	0.6	3.0	0.6	1.2	0.6	61.2
住まいに関する事	143	21.7	10.5	3.5	5.6	2.1	2.8	1.4	0.7	1.4	58.7
就労状況に関する事	135	23.0	17.0	0.7	5.9	0.7	0.0	0.7	2.2	0.0	63.7
疾病や障害に関する事	124	27.4	10.5	0.0	5.6	1.6	2.4	17.7	0.8	0.0	50.0
国籍に関する事	36	22.2	16.7	5.6	8.3	0.0	5.6	0.0	8.3	0.0	47.2
性自認・性的指向に関する事	39	17.9	12.8	2.6	2.6	0.0	7.7	0.0	5.1	0.0	56.4
自身の性格に関する事 (自己否定感など)	119	13.4	10.9	2.5	2.5	2.5	2.5	3.4	1.7	0.0	73.1
過去のトラウマに関する事	118	15.3	16.9	3.4	1.7	2.5	0.8	4.2	0.8	0.0	68.6
家族・家庭環境に関する事	107	15.9	14.0	2.8	2.8	2.8	4.7	2.8	0.9	0.0	65.4
家族以外の人間関係に関する事	126	15.9	14.3	2.4	2.4	1.6	2.4	2.4	0.8	0.0	68.3
性被害に関する事	32	15.6	3.1	6.3	18.8	0.0	12.5	0.0	3.1	0.0	53.1

<女性>

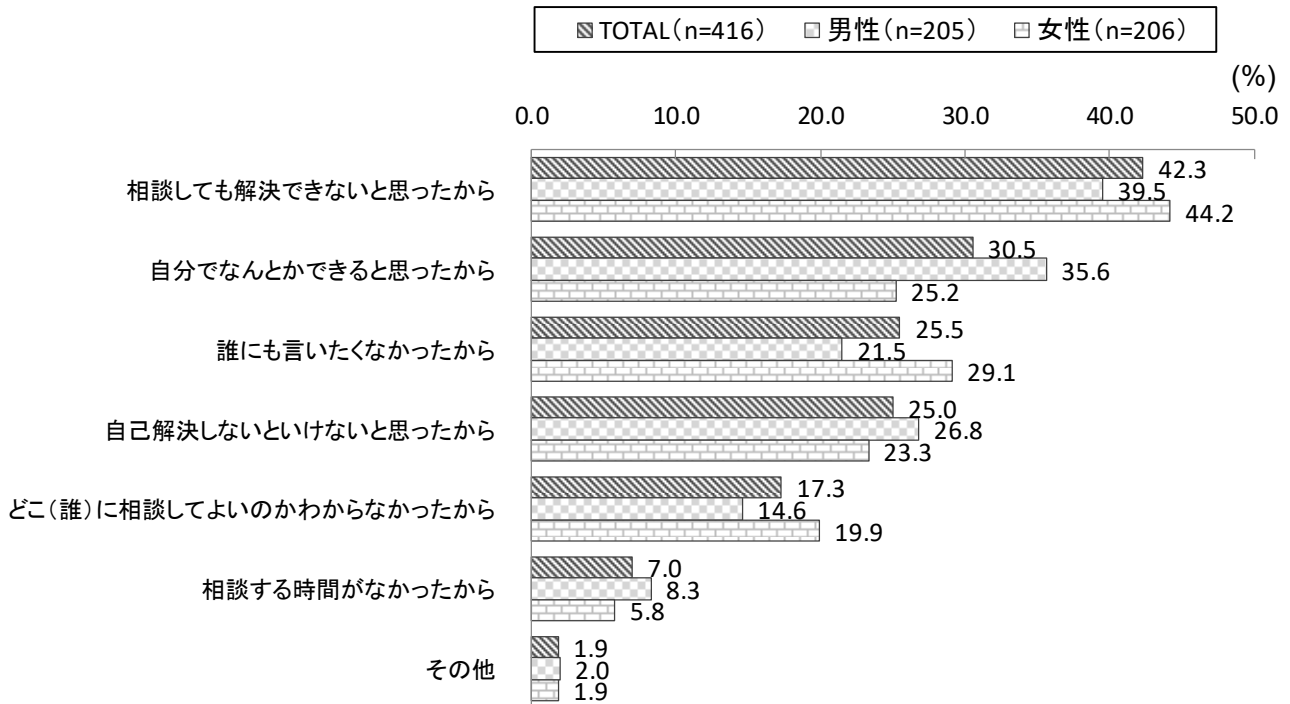
	n=	家族・親 族	友人・知 人	警察	豊島区 の相談 窓口	豊島区 以外の 相談窓 口	弁護士・ 法テラス	医療関 係者(医 師、カウ ンセラー 等)	民間支 援団体	その他 の相談 先	相談して いない
経済的困窮に関する事	145	29.7	15.9	0.0	7.6	1.4	4.1	4.8	1.4	0.7	60.0
住まいに関する事	150	29.3	14.7	2.0	7.3	2.0	2.7	0.7	2.0	2.0	55.3
就労状況に関する事	155	27.1	29.0	0.0	3.9	0.6	0.6	3.2	1.9	1.9	52.9
疾病や障害に関する事	143	30.8	16.8	0.0	3.5	0.0	0.0	24.5	0.7	1.4	47.6
国籍に関する事	11	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	90.9
性自認・性的指向に関する事	13	0.0	15.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.4	0.0	76.9
自身の性格に関する事 (自己否定感など)	137	16.8	20.4	0.0	1.5	0.0	0.0	10.9	0.0	0.7	64.2
過去のトラウマに関する事	128	17.2	21.1	0.0	1.6	0.8	0.8	6.3	0.8	0.8	64.8
家族・家庭環境に関する事	142	21.1	26.1	0.7	3.5	0.0	0.7	6.3	0.7	0.0	57.7
家族以外の人間関係に関する事	158	20.9	35.4	1.9	0.0	0.0	1.3	7.0	0.6	0.6	48.7
性被害に関する事	24	4.2	12.5	4.2	4.2	0.0	0.0	4.2	0.0	0.0	75.0
予期せぬ妊娠・出産・中絶に関する事	17	5.9	23.5	0.0	0.0	0.0	0.0	11.8	0.0	0.0	64.7

問 25\_2 相談しなかった理由はなんですか。(回答はいくつでも)

「相談しても解決できないと思ったから」が最も高く、42.3%。次いで「自分でなんとかできると思ったから」が30.5%、「誰にも言いたくなかったから」が25.5%となっている。

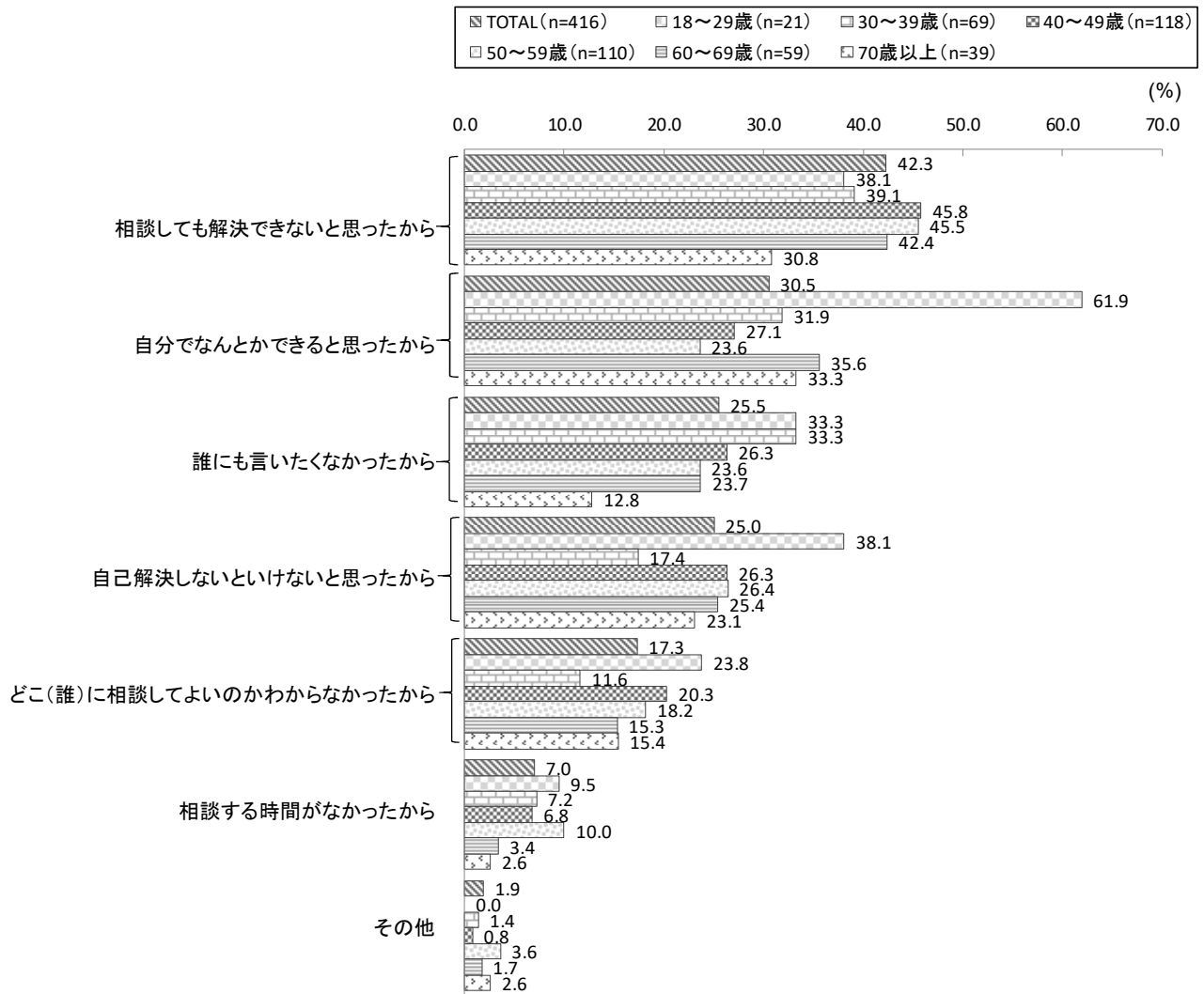
【性別】

性別で見ると、「自分でなんとかできると思ったから」が男性では女性より10ポイント以上高い。



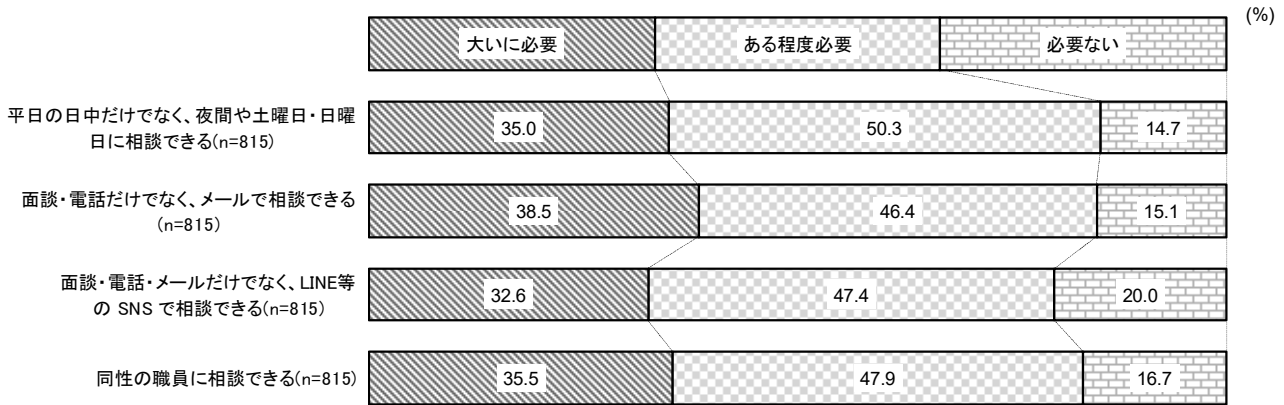
【年代別】

20代以下では、「自分でなんとかできると思ったから」が他の年代と比べて高い。



問 26 あなたが困難な問題を抱えた際に支援機関に相談するとしたら、次について、どの程度必要に思いますか。それぞれ選んでください。(回答は1つずつ)

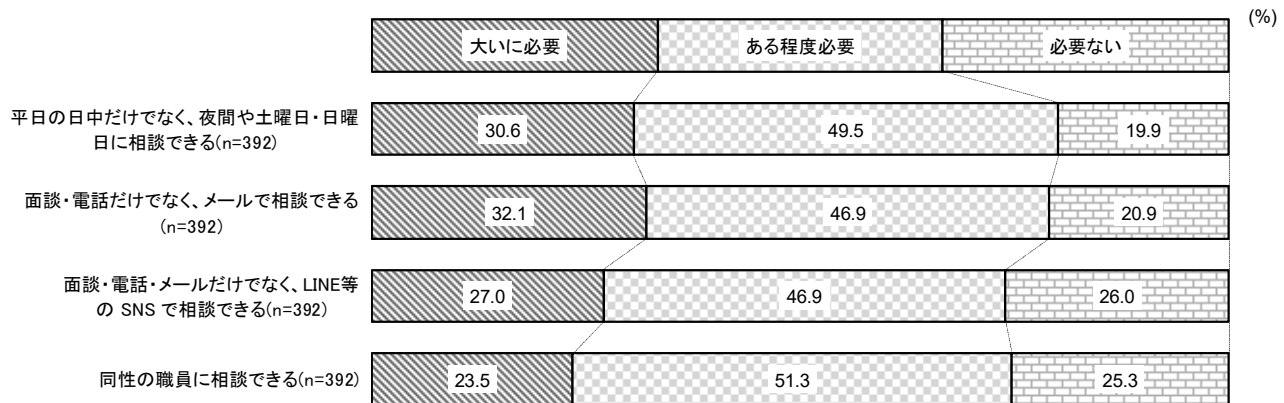
「大いに必要」と「ある程度必要」を合わせた『必要』の割合はいずれも8割以上と高い。  
 「平日の日中だけでなく、夜間や土曜日・日曜日に相談できる」は85.3%と最も高く、次いで「面談・電話だけでなく、メールで相談できる」が84.9%となっている。



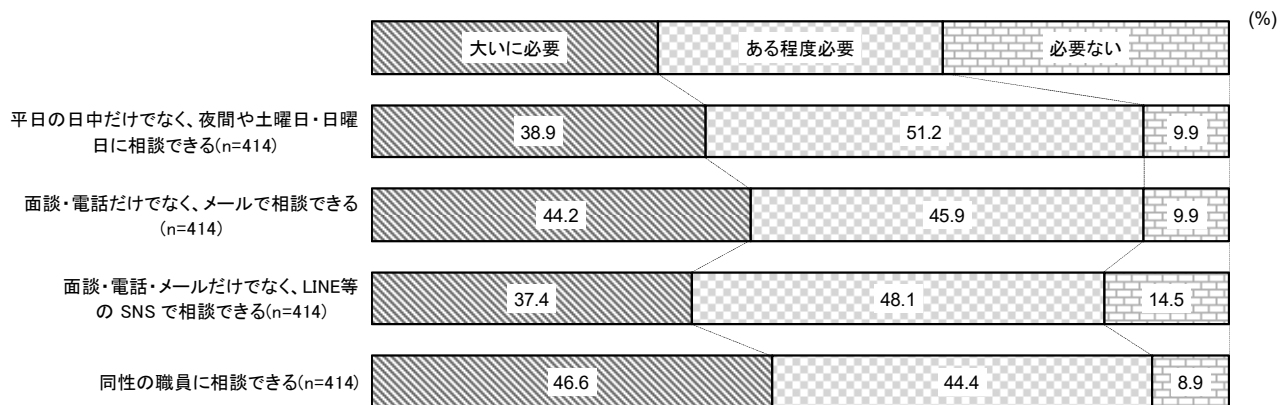
【性別】

女性では「同性の職員に相談できる」が男性より20ポイント以上高い。

<男性>



<女性>

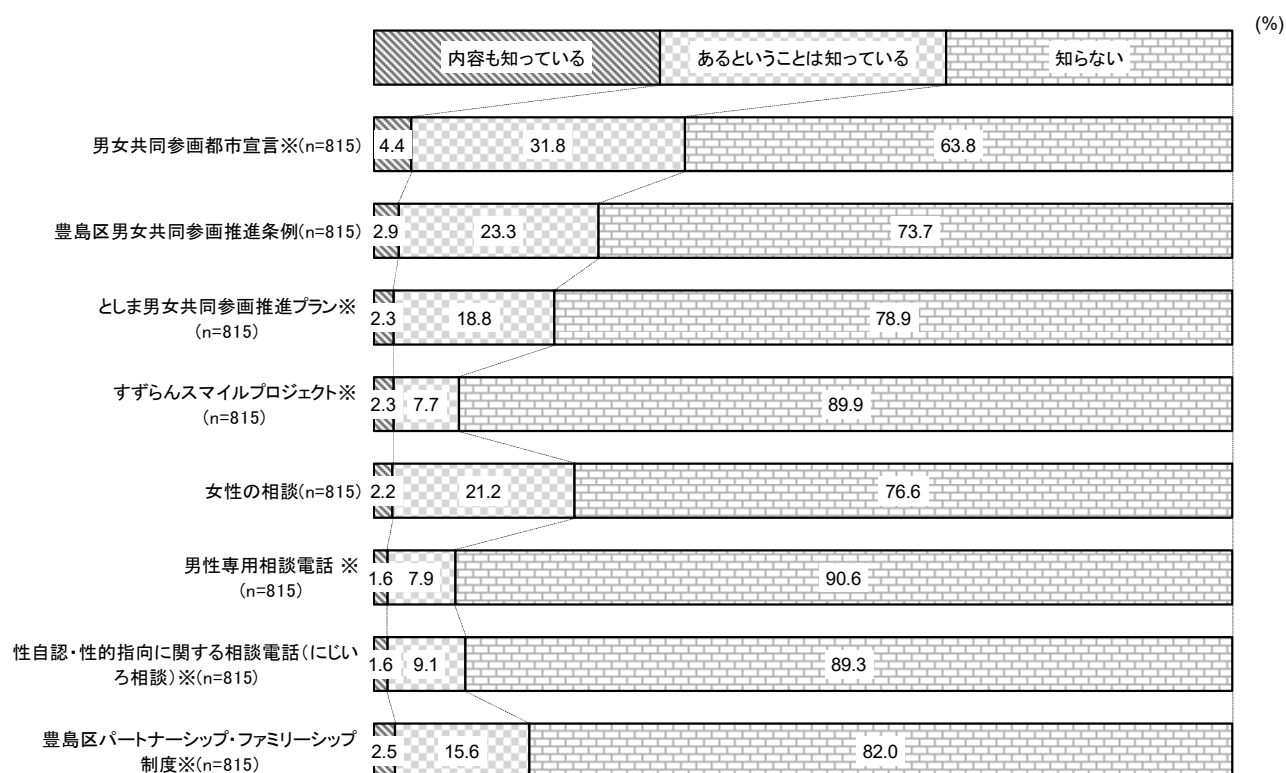


## 10 豊島区における取組について

問 27 あなたは、豊島区における次の取組を知っていますか。次について、それぞれ選んでください。  
(回答は1つずつ)

「内容も知っている」と「あるということは知っている」を合わせた認知度は、「男女共同参画都市宣言」が36.2%と最も高く、次いで「豊島区男女共同参画推進条例」が26.3%（214人）、「女性の相談」が23.4%となっている。

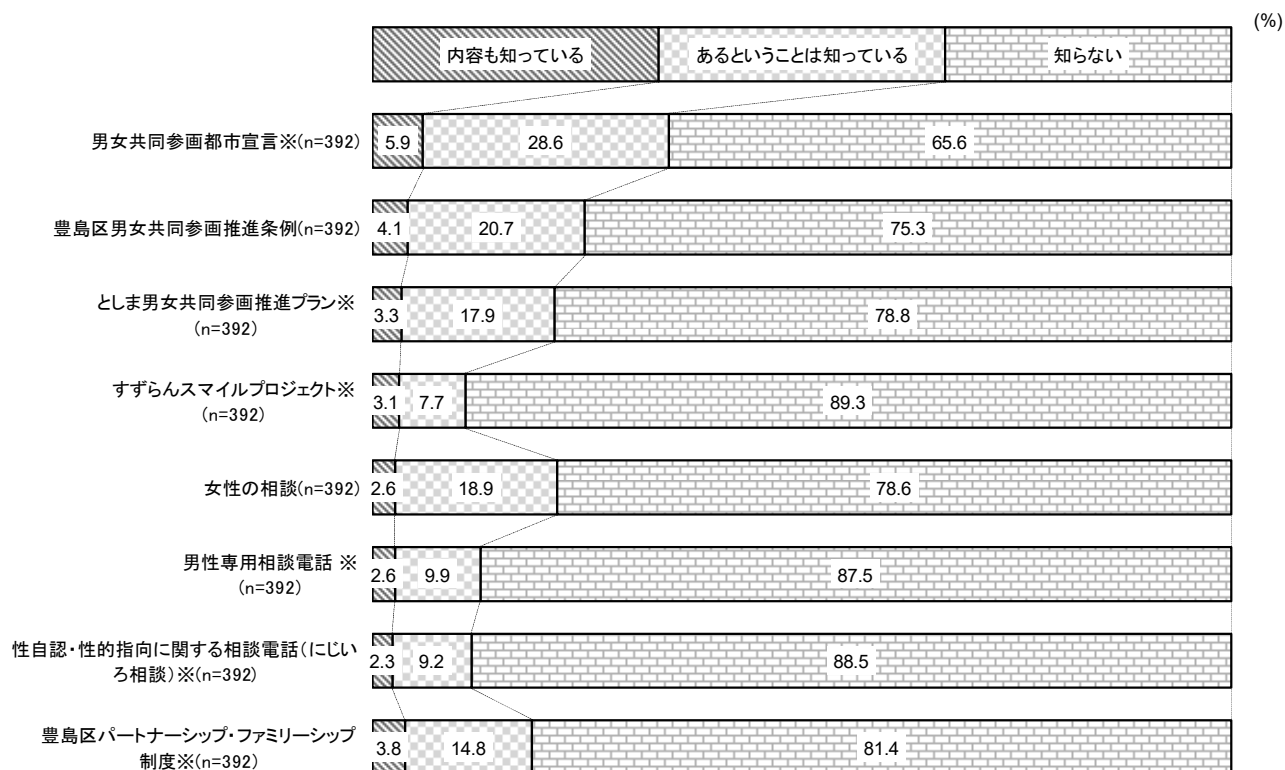
※回答者数を基数として算出しているため、個々の回答の比率（%）を足しあげた値は、四捨五入の関係で一致しない場合がある。



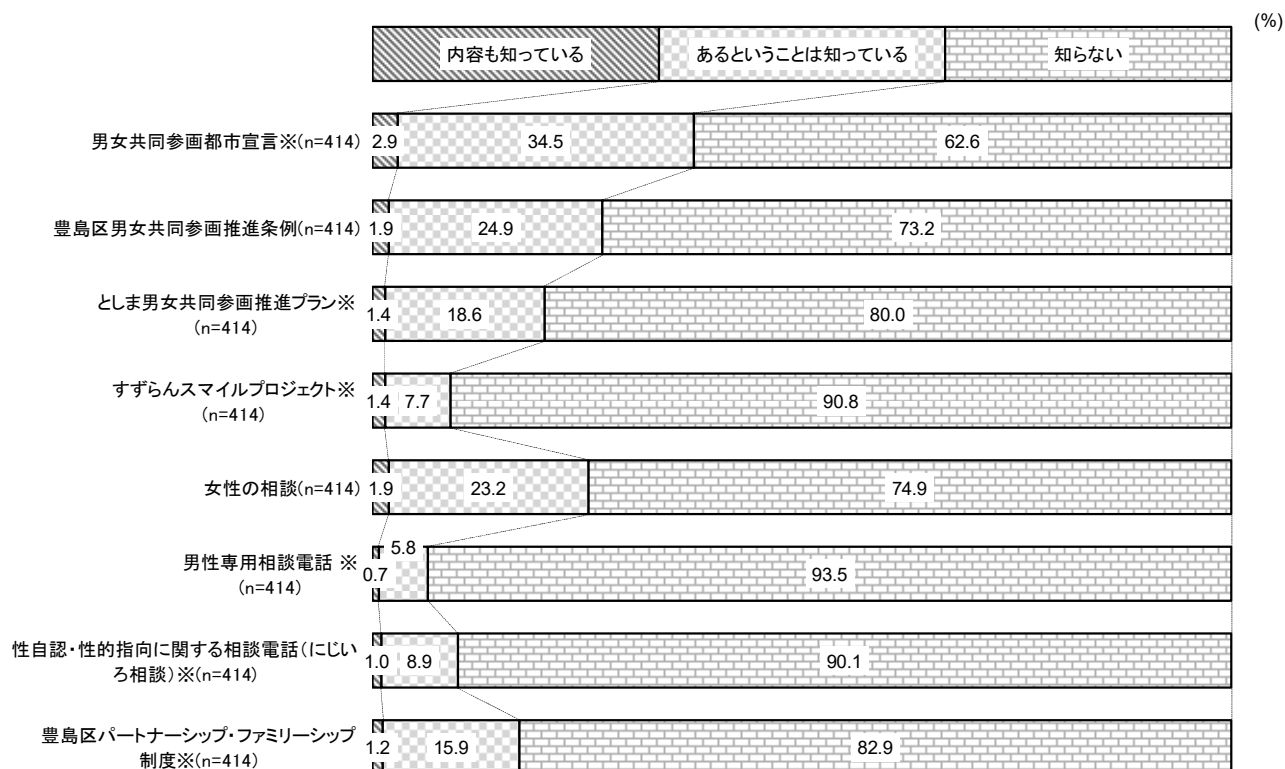
【性別】

「男性専用相談電話」の認知度は男女で差があり、女性より男性で高くなっている。

<男性>



<女性>

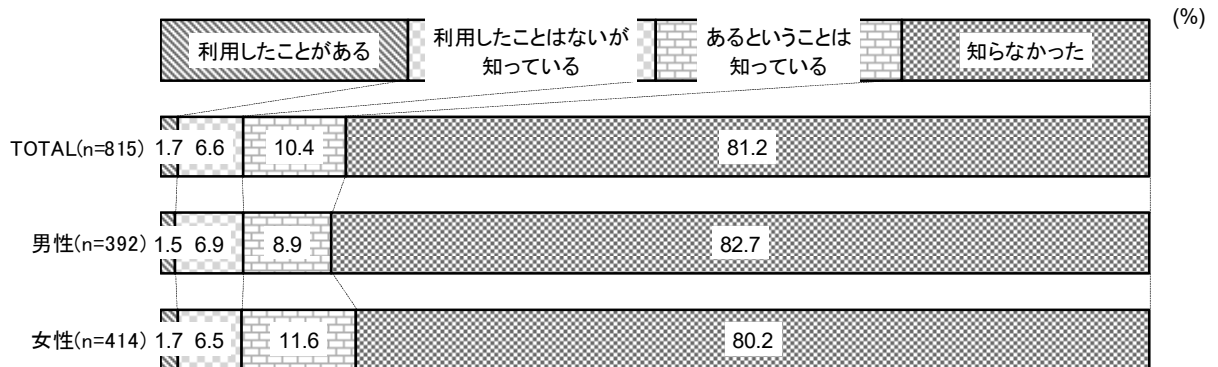


問 28 男女平等推進センター(エポック 10)は、ジェンダー平等の実現を目指す拠点として、交流や情報提供をしています。あなたはこのアンケートを受ける前から「エポック 10」を知っていましたか。(回答は1つ)

「知らなかった」が 81.2%と最も高く、次いで「あるということは知っている」が 10.4%、「利用したことはないが知っている」が 6.6%となっている。

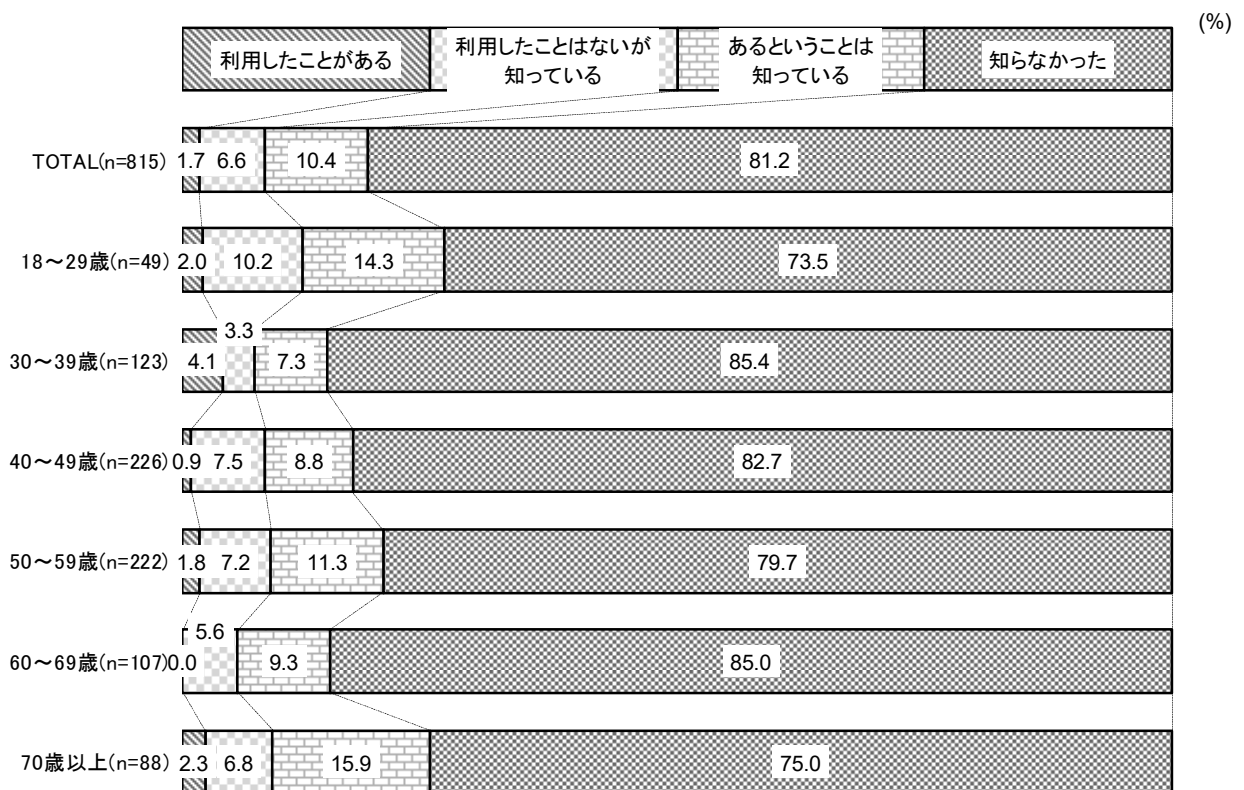
【性別】

性別で差はみられない。



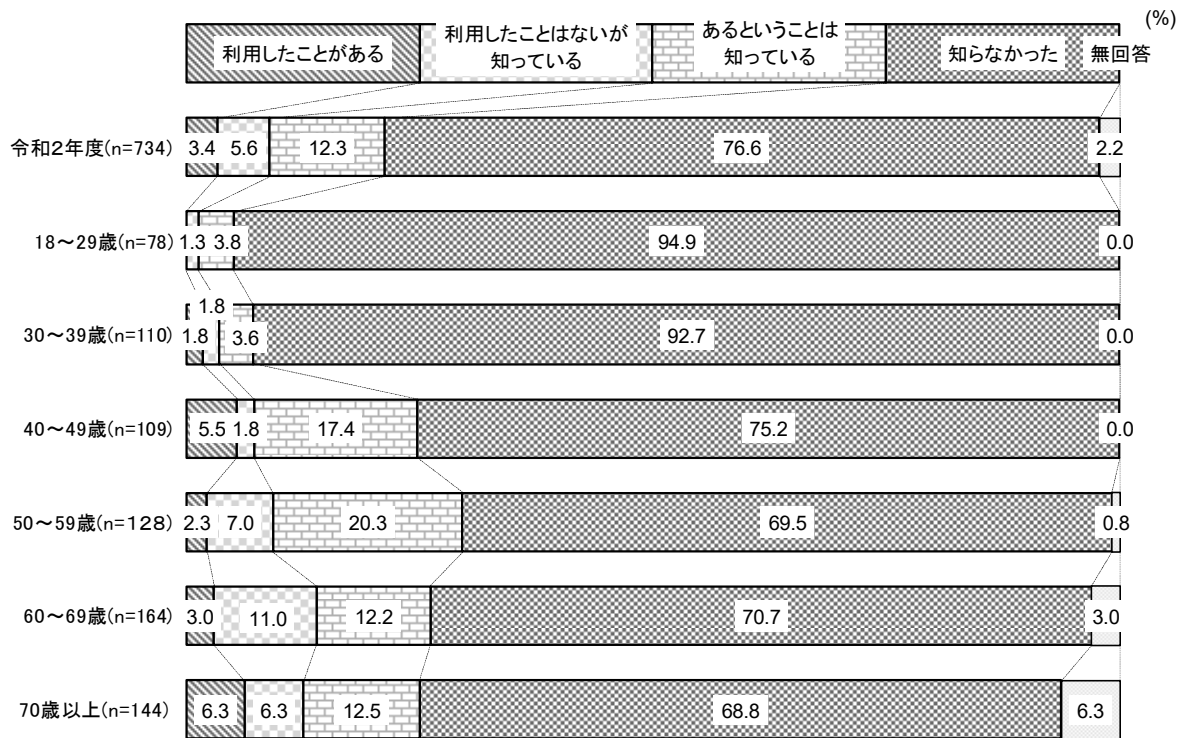
【年代別】

30代では「利用したことがある」が他の年代より高い。



【参考】

「男女平等推進センター(エポック 10)は、男女共同参画社会の実現を目指し、交流や情報提供をしています。あなたはこのアンケートを受ける前から「エポック 10」を知っていましたか。  
(令和2年度)



※今回調査との相違点：調査手法

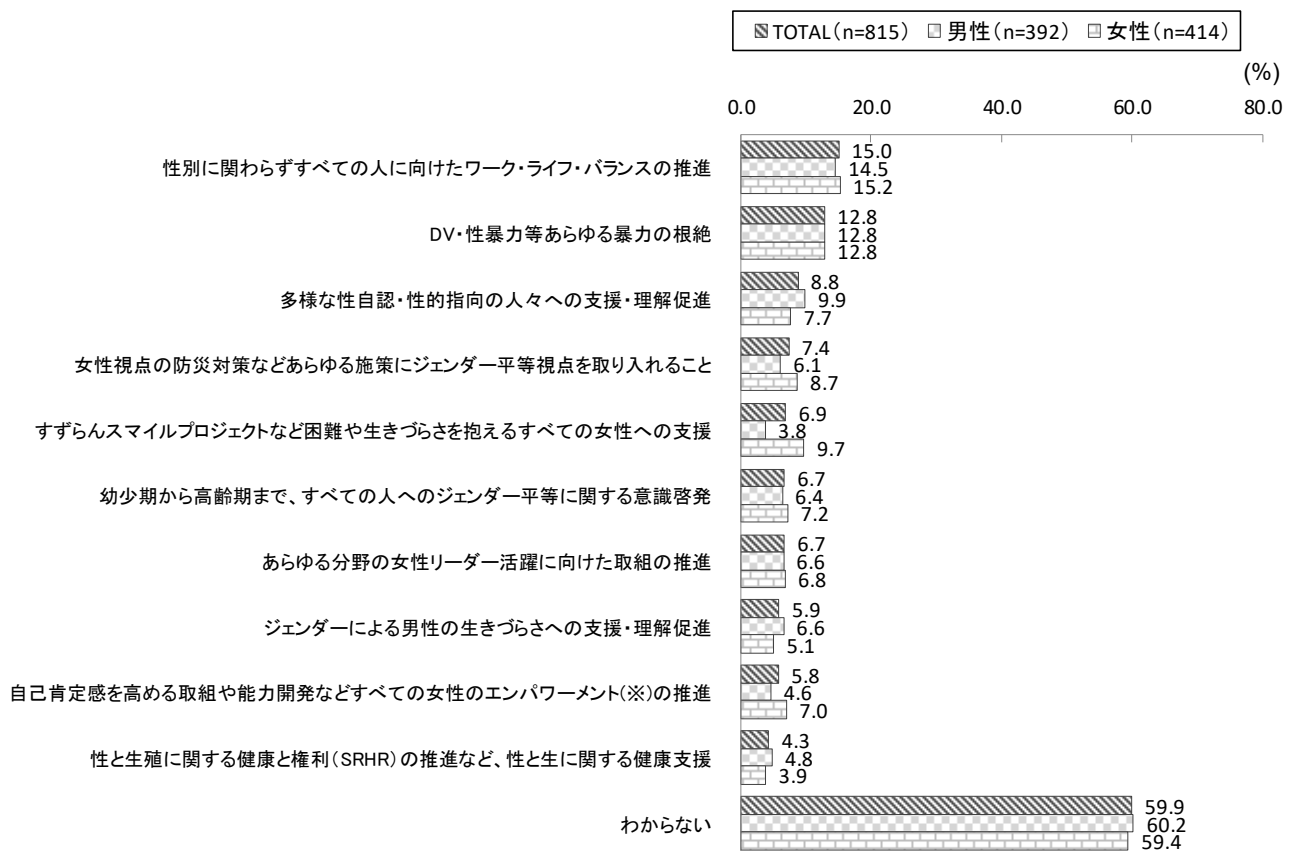
問 29 ジェンダー平等を推進するために、次について、あなたが「現在、区が力を入れていると思う取組」、「今後、特に力を入れてほしいと思う取組」はどれですか。それぞれ選んでください。  
 (回答は3つまで)

『現在、区が力を入れていると思う取組』

現在、区が力を入れていると思う取組では、「性別に関わらずすべての人に向けたワーク・ライフ・バランスの推進」が最も高く、15.0%。次いで「DV・性暴力等あらゆる暴力の根絶」12.8%、「多様な性自認・性的指向の人々への支援・理解促進」8.8%となっている。

【性別】

「すずらんスマイルプロジェクトなど困難や生きづらさを抱えるすべての女性への支援」では男性より女性で高くなっている。



【年代別】

70歳以上では「あらゆる分野の女性リーダー活躍に向けた取組の推進」が他の年代より高い。

	n=	性別に関わらずすべての人に向けたワーク・バランスの推進	DV・性等あらゆる暴力の根絶	多様な性自認・性的指向の人々への支援・理解促進	女性視点の防災対策などあらゆる施策にジェンダー平等視点を取り入れること	すずらんスマイルプロジェクトなど困難や生きづらさを抱えるすべての女性への支援	幼少期から高齢期まで、すべての人へのジェンダー平等に関する意識啓発	あらゆる分野の女性リーダー活躍に向けた取組の推進	ジェンダーによる男性の生きづらさへの支援・理解促進	自己肯定感を高める取組や能力開発などすべての女性のエンパワメント(※)の推進	性と生殖に関する健康と権利(SRHR)の推進など、性と生に関する健康支援	わからない	(%)
TOTAL	815	15.0	12.8	8.8	7.4	6.9	6.7	6.7	5.9	5.8	4.3	59.9	
18～29歳	49	8.2	4.1	2.0	4.1	8.2	0.0	6.1	4.1	6.1	6.1	73.5	
30～39歳	123	12.2	12.2	8.1	9.8	9.8	6.5	5.7	0.8	4.1	2.4	61.8	
40～49歳	226	16.4	12.4	8.4	8.0	7.5	9.3	7.1	8.8	8.4	4.9	55.8	
50～59歳	222	14.4	12.2	10.4	6.3	5.9	5.4	5.0	4.5	5.4	4.5	60.4	
60～69歳	107	14.0	13.1	8.4	5.6	5.6	4.7	3.7	8.4	0.9	2.8	67.3	
70歳以上	88	21.6	20.5	11.4	9.1	4.5	10.2	15.9	6.8	8.0	5.7	50.0	

※エンパワメント:その人が本来持つ力を発揮できるように支援し、環境を整えること。

また、個人の生活や環境を自分自身でコントロールする力を持つことができるとともに、

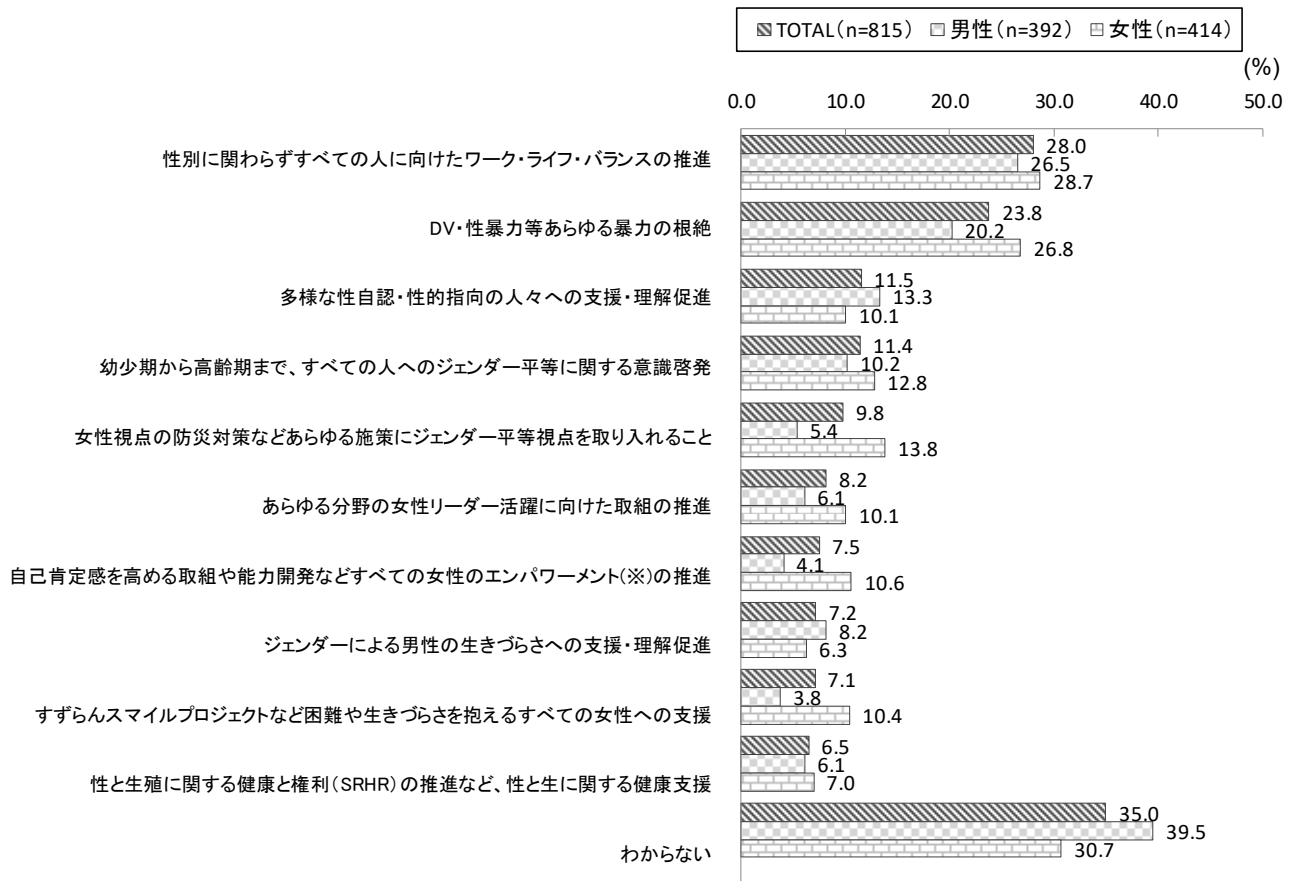
あらゆる段階の政治、経済、社会、その他の分野における意思決定の場に参画し、自律的な力を発揮すること。

『今後、特に力を入れてほしいと思う取組』

今後、特に力を入れてほしいと思う取組では、「性別に関わらずすべての人に向けたワーク・ライフ・バランスの推進」が最も高く、28.0%。次いで「DV・性暴力等あらゆる暴力の根絶」23.8%、「多様な性自認・性的指向の人々への支援・理解促進」11.5%となっている。

【性別】

「女性視点の防災対策などあらゆる施策にジェンダー平等視点を取り入れること」、「DV・性暴力等あらゆる暴力の根絶」で男女の差が大きく、男性より女性で高くなっている。



【年代別】

70 歳以上では「幼少期から高齢期まで、すべての人へのジェンダー平等に関する意識啓発」、「あらゆる分野の女性リーダー活躍に向けた取組の推進」が他の年代より高い。

	n=	性別に関わらずすべての人に向けたワークライフ・バランスの推進	DV・性暴力等あらゆる暴力の根絶	多様な性自認・性的指向の人々への支援・理解促進	幼少期から高齢期まで、すべての人へのジェンダー平等に関する意識啓発	女性視点の防災対策などあらゆる施策にジェンダー平等視点を取り入れること	あらゆる分野の女性リーダー活躍に向けた取組の推進	自己肯定感を高める取組や能力開発などすべての女性のエンパワメント(※)の推進	ジェンダーによる男性の生きづらさへの支援・理解促進	すずらんスマイルプロジェクトなど困難や生きづらさを抱えるすべての女性への支援	性と生殖に関する健康と権利 (SRHR) の推進など、性と生に関する健康支援	わからない	(%)
TOTAL	815	28.0	23.8	11.5	11.4	9.8	8.2	7.5	7.2	7.1	6.5	35.0	
18～29歳	49	26.5	26.5	8.2	10.2	18.4	4.1	12.2	16.3	4.1	14.3	28.6	
30～39歳	123	24.4	22.8	10.6	7.3	13.0	6.5	7.3	2.4	8.1	5.7	44.7	
40～49歳	226	30.5	25.2	10.2	11.1	8.4	9.3	8.8	8.0	6.6	7.5	30.5	
50～59歳	222	29.3	25.7	12.2	12.6	7.7	7.2	5.4	8.1	6.3	5.9	33.8	
60～69歳	107	22.4	22.4	11.2	7.5	8.4	4.7	8.4	5.6	8.4	4.7	44.9	
70歳以上	88	30.7	17.0	17.0	20.5	11.4	17.0	5.7	6.8	9.1	4.5	27.3	

※エンパワメント: その人が本来持つ力を発揮できるように支援し、環境を整えること。

また、個人の生活や環境を自分自身でコントロールする力を持つことができるとともに、

あらゆる段階の政治、経済、社会、その他の分野における意思決定の場に参画し、自律的な力を発揮すること。

## 第5章 自由回答・「その他」の回答

【集計中のため、最終報告時に追加】

第6章 調査票

あなたご自身やご家族のことについて				
F 1__あなたは現在豊島区に住んでいますか。(回答は1つ) 1 はい 2 いいえ (調査終了)				
F 2__あなたが自認する性別を選んでください。(回答は1つ) 1 男性 2 女性 3 その他 4 回答しない				
F 3__あなたの年齢をお答えください。 ( ) 歳				
F 4__あなたの現在の職業は、どれですか(2つ以上当てはまる方は主な職業についてのみお答えください)。(回答は1つ) 1 正社員 2 契約社員 3 派遣社員 4 パート 5 自営業(家族従業員を含む) 6 専業主婦・主夫 7 学生 8 無職 9 その他(具体的に: )				
F 5__あなたの世帯構成は、どれですか。(回答は1つ) 1 単身者 2 夫婦のみ 3 親と子 4 三世代 5 その他(具体的に: )				
F 6__ F 5で「3親と子」「4三世代」「5その他」と回答した方におたずねします。 同居者に未成年者(満18歳未満の者)がいらっしゃる場合、一番下の方は次のどれにあたりますか。(回答は1つ) 1 乳幼児 2 小学生(3年生以下) 3 小学生(4年生以上) 4 中学生 5 高校生・専修学校生 6 その他 7 未成年者はいない				
F 7__次について、あなた自身にどのくらいあてはまりますか。それぞれ選んでください。 (回答は1つずつ)				
	そう 思う	ど ち ら か と い え ば そ う 思 う	ど ち ら か と い え ば そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い
(1)自分自身に満足している	1	2	3	4
(2)自分には長所があると感じている	1	2	3	4
(3)今の自分が好きだ	1	2	3	4

## ジェンダー平等意識について

問1 下記の分野では、男女平等がどの程度実現されていると思いますか。それぞれ選んでください。  
(回答は1つずつ)

	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	男女平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない
(1)家庭の中で	1	2	3	4	5	6
(2)職場の中で	1	2	3	4	5	6
(3)学校教育の場で	1	2	3	4	5	6
(4)政治の場で	1	2	3	4	5	6
(5)制度や法律の上で	1	2	3	4	5	6
(6)社会通念・慣習・しきたりで	1	2	3	4	5	6
(7)地域活動の場で	1	2	3	4	5	6
(8)社会全体として	1	2	3	4	5	6

問2 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはどのように思いますか。(回答は1つ)

- 1 そのとおりだと思う    2 どちらかといえばそう思う    3 どちらともいえない  
4 どちらかといえばそう思わない    5 まったくそう思わない

問3 無意識の思い込み（アンコンシャスバイアス）という言葉を知ったことがありますか。(回答は1つ)

- 1 聞いたことがあり、意味を理解している  
2 聞いたことはあるが、意味は知らない（知らなかった）  
3 聞いたことはない

問3-1 問3で「聞いたことがあり、意味を理解している」と回答した方におたずねします。無意識の思い込み（アンコンシャスバイアス）が自分や他人の行動に影響を与えたと感じたことがありますか（回答は1つ）

- 1 自分の行動に影響を与えたと感じたことがある  
2 他人の行動に影響を与えたと感じたことがある  
3 自分や他人の行動に影響を与えたと感じたことがある  
4 感じたことはない

問3-2 問3-1で「1自分の行動に影響を与えたと感じたことがある」「2他人の行動に影響を与えたと感じたことがある」「3自分や他人の行動に影響を与えたと感じたことがある」と回答した方におたずねします。無意識の思い込み（アンコンシャスバイアス）はどのような環境・場面に影響を与えていると思いますか。(回答はいくつでも)

- 1 家庭（家事・育児・介護等）  
2 職場（採用・人事・業務分担等）  
3 学校（進路指導、生徒会活動等）  
4 地域活動（自治会やPTA活動等）  
5 メディアや広告の表現  
6 自分や他人の行動や考え方に対する判断  
7 その他（具体的に： ）  
8 わからない

### 家庭生活について

問4\_\_あなたはご結婚されていますか。(回答は1つ)

- 1 結婚している(事実婚を含む)
- 2 同性パートナーがいる
- 3 結婚していない(離別、死別)
- 4 結婚していない(未婚)

問4-1\_\_問4で「1 結婚している(事実婚を含む)」と回答した方におたずねします。

現在、あなたは、家事などの分担はどのようにしていますか。次について、それぞれ選んでください。(回答は1つずつ)

	主に夫の担当	夫のどちらかといえ ば	夫と妻と同程度	妻のどちらかといえ ば	主に妻の担当	その他 どちらでもない、
(1)家庭における最終的な決定	1	2	3	4	5	6
(2)家事(買い物、食事の支度、食事の後片付け、掃除、洗濯、ゴミ出し等)	1	2	3	4	5	6
(3)育児	1	2	3	4	5	6
(4)介護	1	2	3	4	5	6
(5)地域活動(自治会やPTA活動等)	1	2	3	4	5	6

### 子どもの教育について

問5\_\_あなたに男女両方のお子さんがいると仮定して、お答えください。あなたは、どのようにお子さんを育てたいですか。(回答は1つ)

- 1 性別関係なく同じように育てたい
- 2 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てたい
- 3 状況によって男女を区別して育てたい
- 4 わからない

問5-1\_\_問5で「2 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てたい」「3 状況によって男女を区別して育てたい」と回答した方におたずねします。

お子さんをどのように育てたいですか。男の子、女の子の場合それぞれについて、お答えください。(回答はそれぞれ3つまで)

**【男の子の場合】**

- 1 活発で行動力がある
- 2 責任感がある
- 3 誰にでも好かれる
- 4 職業能力がある
- 5 決断力、実行力がある
- 6 思いやりや優しい心がある
- 7 気配りができる
- 8 指導力がある
- 9 家事能力がある
- 10 その他(具体的に: )

**【女の子の場合】**

- 1 活発で行動力がある
- 2 責任感がある
- 3 誰にでも好かれる
- 4 職業能力がある
- 5 決断力、実行力がある
- 6 思いやりや優しい心がある
- 7 気配りができる
- 8 指導力がある
- 9 家事能力がある
- 10 その他(具体的に: )

問6\_\_ジェンダー平等の実現のために、学校教育の場で力を入れるべきことはどのようなことだと思いますか。(回答はいくつでも)

- 1 人権尊重や多様性の観点に立った教育の充実
- 2 将来的に男女の別なく能力を生かせるよう指導する
- 3 経済的・社会的に自立できる教育の推進
- 4 ひとりひとりの人格を尊重するという考え方に基づく性教育の充実
- 5 学校生活での児童・生徒の役割分担に性別で差をつけない
- 6 教職員にジェンダー平等の研修を推進する
- 7 管理職(校長・副校長等)に女性を増やしていく
- 8 その他(具体的に: )
- 9 わからない

### 就労について

問7\_\_F4で「1～5(就労している)」と回答した方におたずねします。

あなたは「仕事」と「家庭(個人の生活を含む)」について、どのような状態が理想だと思いますか。また、現実はどうですか。(回答は1つずつ)

#### 【理想】

- 1 「仕事」を優先
- 2 「家庭(個人の生活を含む)」を優先
- 3 「仕事」と「家庭(個人の生活を含む)」を両立
- 4 その他(具体的に: )

#### 【現実】

- 1 「仕事」を優先
- 2 「家庭(個人の生活を含む)」を優先
- 3 「仕事」と「家庭(個人の生活を含む)」を両立
- 4 その他(具体的に: )

問8\_\_F4で「1～5(就労している)」と回答した方におたずねします。

あなたの職場では、次のような男女差があると思いますか。(回答はいくつでも)

- 1 募集や採用に男女差がある
- 2 同時期に入社して同じ仕事をして、賃金に男女差がある
- 3 昇進、昇格の機会や早さに男女差がある
- 4 男性には長時間労働・成果を求める
- 5 希望職種につく機会に男女差がある
- 6 教育、研修を受ける機会に男女差がある
- 7 お茶くみ、雑用は女性がやる慣行がある
- 8 ちょっとした力仕事でも男性ばかり命じられる
- 9 女性は妊娠、出産で補佐的仕事を中心となる傾向がある
- 10 その他(具体的に: )
- 11 当てはまるものはない
- 12 答えたくない

<p>問9__F4で「1～5（就労している）」と回答した方におたずねします。  あなたが当事者になったと仮定して、お答えください。法律では男性も女性も育児・介護休業を利用することができますが、制度を利用しますか。（回答は1つ）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 どちらも利用しない</li> <li>2 育児休業は利用しない</li> <li>3 介護休業は利用しない</li> <li>4 どちらも利用する</li> <li>5 わからない</li> </ol>
<p>問9-1__問9で「1～3利用しない」と回答した方におたずねします。  育児・介護休業制度を利用しない理由はなんですか。（回答は2つまで）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 職場に迷惑をかけたくないから</li> <li>2 職場が育児・介護休業を取得できる雰囲気ではないから</li> <li>3 過去に利用した人がいないから</li> <li>4 元の仕事（職場）に復帰できるとは限らないから</li> <li>5 昇進・昇格などに不利になると思うから</li> <li>6 収入が減少するから</li> <li>7 配偶者・親族が利用するため、自分は利用する必要がないと考えているから</li> <li>8 自営業のため制度が利用できないから ※F4で「5自営業」と回答した方のみ</li> <li>9 その他（具体的に： ）</li> </ol>
<p>問10__男女が共に「仕事」と「家庭（個人の生活を含む）」の両立をしていくためにはどのようなことが重要になるとお考えですか。（回答は3つまで）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 法定外労働時間を短縮すること</li> <li>2 男女問わず育児・介護休業制度を利用しやすい職場環境をつくること</li> <li>3 育児・介護により退職した職員をもとの会社で再雇用する制度を導入すること</li> <li>4 育児・介護休業中の賃金その他の経済的給与を充実すること</li> <li>5 保育、学童、介護に関する支援や施設の充実</li> <li>6 在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること</li> <li>7 女性が働くことに対し、家族や職場などの周囲の理解と協力があること</li> <li>8 男性が家事・育児や介護を行いやすい支援を充実すること</li> <li>9 その他（具体的に： ）</li> </ol>
<p>問11__育児、介護などの理由により仕事を辞めた人が再就職するにあたり、どのようなことが必要だとお考えですか。（回答は3つまで）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 保育、学童、介護に関する支援や施設の充実</li> <li>2 家族の理解と協力</li> <li>3 求人の年齢制限の緩和</li> <li>4 在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な働き方の推進</li> <li>5 技術や技能習得の機会の拡大</li> <li>6 就職相談の充実</li> <li>7 起業する場合の支援</li> <li>8 企業における再就職制度の整備や充実</li> <li>9 その他（具体的に： ）</li> <li>10 特にない</li> </ol>

## あらゆる分野における女性の活躍推進について

問 12 女性が職場において活躍するために、特にどのような取組みが必要だと思いますか。

(回答は3つまで)

- 1 企業における女性の採用・登用の促進
- 2 女性のリーダー・管理職への登用について具体的な目標値の設定
- 3 女性のロールモデルの発掘・活用事例の提供
- 4 女性が働き続けていくことのできる相談体制の充実
- 5 男女平等に積極的に取り組む企業への支援
- 6 研修や家庭との両立支援など、女性が管理職として活躍できるような制度・支援
- 7 その他(具体的に: )
- 8 わからない

問 13 様々な分野において、女性が組織の意思決定に参画するためには何が必要だと思いますか。

(回答は3つまで)

- 1 性別による役割分担や性差別の意識撤廃
- 2 講座やセミナー等の能力開発の機会の充実
- 3 組織の意識改革
- 4 ロールモデルの発掘
- 5 女性の意思決定への参加意欲
- 6 組織において女性が一定の割合で参画するような仕組みづくり
- 7 家族の支援・協力
- 8 その他(具体的に: )
- 9 わからない

## 人権について

問 14 あなたは、過去5年間に何らかのハラスメント(嫌がらせ、いじめ等)を受けたことがありますか。(回答はいくつでも)

- 1 セクシュアル・ハラスメント  
※相手の意に反する性的な言葉や行為により、不快や不安な状態に追い込むこと
- 2 マタニティ・ハラスメント、パタニティ・ハラスメント  
※妊娠や出産・育児休業等を理由に、精神的・身体的苦痛を与えること
- 3 SOG I ハラスメント  
※性自認や性的指向に関して行われる嫌がらせのこと
- 4 パワー・ハラスメント  
※組織での地位や人間関係等の優位性を背景に、精神的・身体的苦痛を与えること
- 5 カスタマー・ハラスメント  
※顧客等からの過度なクレームや就業環境に悪影響を及ぼす迷惑行為のこと
- 6 デジタル・ハラスメント  
※SNSなどでの誹謗中傷や、デジタル機器の取扱いなどに関わる嫌がらせのこと
- 7 その他(具体的に: )
- 8 受けたことはない
- 9 答えたくない

問 15\_\_あなたは現在または以前の配偶者（事実婚・パートナー）や交際相手から、過去1年間に次にあげるような暴力（DV）を一方的に受けた経験はありますか。（回答は1つずつ）

DV：どちらかから一方的に継続して振るわれる暴力で、その間には支配と従属の関係があるもの

	頻繁にあった	あった	全くない	答えたくない
(1)身体的暴力（なぐる、蹴る、突き飛ばす、首を絞める、物を投げ付ける、タバコを押し付けるなど）	1	2	3	4
(2)精神的暴力（怒鳴る、無視する、脅迫する、なぐるふりをする、侮辱的なことを言うなど）	1	2	3	4
(3)性的暴力（性行為を強要する、見たくないのにポルノビデオを見せる、避妊に協力しない、中絶を強要するなど）	1	2	3	4
(4)経済的暴力（生活費を渡さない、貯金を勝手に使う、外で働くことを妨害するなど）	1	2	3	4
(5)社会的暴力（交友関係や電話・メール・郵便の内容を監視する、外出や親族・友人との付き合いを制限するなど）	1	2	3	4

問 15-1\_\_問 15で「受けた経験がある」と回答した方におたずねします。

あなたはこれまでに、前問であげたような行為について、誰かに相談しましたか。

（回答はいくつでも）

- 1 家族・親族
- 2 友人・知人
- 3 警察
- 4 豊島区の相談窓口
- 5 豊島区以外の相談窓口（東京ウィメンズプラザ、東京都女性相談支援センター等）
- 6 弁護士・法テラス
- 7 医療関係者（医師、カウンセラー等）
- 8 民間支援団体
- 9 その他（具体的に： ）
- 10 相談しなかった（できなかった）

問 15-2\_\_問 15-1で「10 相談しなかった（できなかった）」と回答した方におたずねします。

相談しなかった理由はなんですか。（回答はいくつでも）

- 1 どこ（誰）に相談してよいのかわからなかったから
- 2 恥ずかしくて誰にも言えなかったから
- 3 相談しても無駄だと思ったから
- 4 相談したことがわかると、自分や家族に危害が及ぶと思ったから
- 5 自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから
- 6 他人を巻き込みたくなかったから
- 7 そのことについて思い出したくなかったから
- 8 自分にも悪いところがあると思ったから
- 9 配偶者・パートナーには自分しかいないと思ったから
- 10 相談するほどのことではないと思ったから
- 11 その他（具体的に： ）

問 16 支援機関によるDVへの対応として、どのようなことが大切だと思いますか。

(回答はいくつでも)

- 1 SNS等を活用した相談窓口の開設など、相談しやすさと専門的カウンセリングによる精神的な支援
- 2 いざという時の緊急的な対応についての情報とアドバイス
- 3 支援機関と警察等の連携による安全確保
- 4 離婚等に向けた法的手続きのサポートおよび自立支援
- 5 家庭内であっても「暴力は犯罪になり得る」「子どもの前での喧嘩や暴力は面前 DV である」という、行政・警察による積極的な啓発
- 6 身近な人のDV被害に気付いたら、通報することが大切であるという意識づくり
- 7 家庭、学校において、互いに相手の人格を尊重する意識づくり
- 8 加害者更生に関する対応の充実
- 9 法律による規制の強化や見直し
- 10 その他(具体的に: )

問 17 生涯にわたる性と生殖に関する健康と権利(セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ)という考えがありますが、どのようなことが最も重要だと思いますか。(回答は1つ)

※自分の体、性や生殖について、誰もが十分な情報を得られ、自分の望むものを選んで決められること。そのために必要な医療やケアを受けられること。心も体も健やかに、自分らしく充実した人生を生きるうえで欠かせない「基本的人権」のこと。

- 1 生涯にわたる性と生殖に関する健康と権利に関する普及啓発
- 2 健康に関する情報やサービスの充実
- 3 子どもの頃からの包括的性教育の充実
- 4 妊娠、出産に関する自己決定の尊重
- 5 その他(具体的に: )
- 6 わからない

### メディア・リテラシーについて

問 18\_あなたは日頃どのメディアから情報収集していますか。(回答は3つまで)

- 1 テレビ
- 2 ラジオ
- 3 新聞
- 4 雑誌・書籍
- 5 口コミサイト（評価や感想等を書き込めるサイト）
- 6 官公庁・企業等のホームページ
- 7 インターネットニュースサイト
- 8 SNS
- 9 動画サイト（YouTube など）
- 10 その他（具体的に：     ）

問 19\_あなたは社会情勢について情報を得る際、どのようなことに気を付けていますか。次について、それぞれ選んでください。(回答は1つずつ)

	常に気を付けている	時々、気を付けている	あまり気を付けていない	全く気を付けていない
(1) 情報をうのみにせず、常に疑う視点を持つ	1	2	3	4
(2) 複数の情報に接し、比較する	1	2	3	4
(3) 情報は発信者の意図によって加工されている場合がある	1	2	3	4

### 多様な性自認・性的指向の人々について

問 20\_あなたは、今までに自分の性自認・性的指向（自分の性別や恋愛対象等）について悩んだことがありますか。または、周囲の人で悩んでいる人はいましたか。

（回答はいくつでも※ただし、1と3は同時に選択できない。）

- 1 悩んだことがある
- 2 周囲に悩んでいる人がいる（いた）
- 3 悩んだことがない
- 4 答えたくない

問 21\_多様な性自認・性的指向の人々（性的少数者、LGBTQ等）が暮らしやすい社会をつくるために、どのような取り組みが必要だと思いますか。(回答はいくつでも)

- 1 社会制度の見直し
- 2 性の多様性についての交流を行う居場所の提供
- 3 子どものころから性の多様性や人権に関する正しい知識を得られるような教育の充実
- 4 多様な性自認・性的指向の人々（性的少数者、LGBTQ等）が抱える困難やその対処に詳しい専門の相談窓口の設置
- 5 区の広報媒体や、講演会などでの理解促進のための啓発活動
- 6 その他（具体的に：     ）
- 7 わからない

### 困難な問題を抱える女性への支援について

問 22 令和6年4月に施行された「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」について知っていますか。(回答は1つ)

- 1 法律もその内容も知っている
- 2 法律があることは知っているが、内容はよく知らない
- 3 法律があることを知らなかった

問 23 豊島区は令和7年3月に「第1次豊島区困難女性支援基本計画」を策定しましたが、そのことを知っていますか。(回答は1つ)

- 1 計画もその内容も知っている
- 2 計画が策定されたことは知っているが、内容はよく知らない
- 3 計画が策定されたことを知らなかった

問 24 困難な問題や生きづらさを抱えた際に公的な機関や民間支援団体に相談できることを知っていますか。(回答は1つ)

- 1 知っている
- 2 知らなかった

問 25 あなたは直近1年以内に、以下のことについて、困難な問題や生きづらさを抱えたことがありましたか。次について、それぞれ選んでください。(回答は1つずつ)

	大いにある	多少ある	ない	答えたくない
(1) 経済的困窮に関する事	1	2	3	4
(2) 住まいに関する事	1	2	3	4
(3) 就労状況に関する事	1	2	3	4
(4) 疾病や障害に関する事	1	2	3	4
(5) 国籍に関する事	1	2	3	4
(6) 性自認・性的指向に関する事	1	2	3	4
(7) 自身の性格に関する事(自己否定感など)	1	2	3	4
(8) 過去のトラウマに関する事	1	2	3	4
(9) 家族・家庭環境に関する事	1	2	3	4
(10) 家族以外の人間関係に関する事	1	2	3	4
(11) 性被害に関する事	1	2	3	4
(12) 予期せぬ妊娠・出産・中絶に関する事 ※F2で「女性」と回答した方のみ	1	2	3	4

問 25-1 前問で「大いにある、多少ある」と回答した方に該当項目をおたずねします。

あなたはこれまでに、前問であげたような悩みについて、誰かに相談しましたか。

(回答はいくつでも)

	家族・親族	友人・知人	警察	豊島区の相談窓口	豊島区以外の相談窓口	弁護士・法テラス	医療関係者（医師、カウンセラー等）	民間支援団体	その他の相談先（ ）	相談していない
(1) 経済的困窮に関する事	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
(2) 住まいに関する事	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
(3) 就労状況に関する事	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
(4) 疾病や障害に関する事	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
(5) 国籍に関する事	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
(6) 性自認・性的指向に関する事	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
(7) 自身の性格に関する事（自己否定感など）	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
(8) 過去のトラウマに関する事	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
(9) 家族・家庭環境に関する事	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
(10) 家族以外の人間関係に関する事	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
(11) 性被害に関する事	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
(12) 予期せぬ妊娠・出産・中絶に関する事 ※F2で「女性」と回答した方のみ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

問 25-2 問 25-1 で「相談していない」と回答した方におたずねします。

相談しなかった理由はなんですか。(回答はいくつでも)

- 1 どこ（誰）に相談してよいのかわからなかったから
- 2 相談する時間がなかったから
- 3 誰にも言いたくなかったから
- 4 自分でなんとかできると思ったから
- 5 相談しても解決できないと思ったから
- 6 自己解決しないといけないと思ったから
- 7 その他（具体的に： ）

問 26 あなたが困難な問題を抱えた際に支援機関に相談するとしたら、次について、どの程度必要に思っていますか。それぞれ選んでください。(回答は1つずつ)

	大いに必要	ある程度必要	必要ない
(1)平日の日中だけでなく、夜間や土曜日・日曜日に相談できる	1	2	3
(2)面談・電話だけでなく、メールで相談できる	1	2	3
(3)面談・電話・メールだけでなく、LINE等のSNSで相談できる	1	2	3
(4)同性の職員に相談できる	1	2	3

### 豊島区における取組について

問 27 あなたは、豊島区における次の取組を知っていますか。次について、それぞれ選んでください。(回答は1つずつ)

	内容も知っている	あるという事は知っている	知らない
(1)男女共同参画都市宣言 ※区民一人ひとりの人権が性別などの違いにかかわらず尊重され、その人らしく暮らしていけるまちを実現するために行った宣言	1	2	3
(2)豊島区男女共同参画推進条例	1	2	3
(3)としま男女共同参画推進プラン ※区民の男女共同参画意識のさらなる向上やDV(配偶者暴力)の根絶、女性の活躍に向けて取り組むべき施策・事業を総合的かつ体系的に推進するために策定した行動計画	1	2	3
(4)すずらんスマイルプロジェクト ※令和3年1月より開始した「なんとなく生きづらい」を「たしかな支援」につなげていく、若い世代の女性のための支援プロジェクト	1	2	3
(5)女性の相談	1	2	3
(6)男性専用相談電話※令和6年7月より開始	1	2	3
(7)性自認・性的指向に関する相談電話(にじいろ相談) ※令和6年7月より開始	1	2	3
(8)豊島区パートナーシップ・ファミリーシップ制度 ※一方又は双方が多様な性自認・性的指向である2人に対し、区が証明書を交付する制度。令和6年11月1日より、子・親まで含めた関係性を証明する「ファミリーシップ制度」を導入	1	2	3

問 28 男女平等推進センター(エポック 10)は、ジェンダー平等の実現を目指す拠点として、交流や情報提供をしています。あなたはこのアンケートを受ける前から「エポック 10」を知っていましたか。

(回答は1つ)

- 1 利用したことがある
- 2 利用したことはないが知っている
- 3 あるということは知っている
- 4 知らなかった

問 29 ジェンダー平等を推進するために、次について、あなたが「現在、区が力を入れていると思う取組」、「今後、特に力を入れてほしいと思う取組」はどれですか。それぞれ選んでください。

(回答は3つまで)

	幼少期から高齢期まで、すべての人へのジェンダー平等に関する意識啓発	女性視点の防災対策などあらゆる施策にジェンダー平等視点を取り入れること	自己肯定感を高める取組や能力開発などすべての女性のエンパワーメント(※)の推進	あらゆる分野の女性リーダー活躍に向けた取組の推進	性別に関わらずすべての人に向けたワーク・ライフ・バランスの推進	DV・性暴力等あらゆる暴力の根絶	性と生殖に関する健康と権利(SRRH)の推進など、性と生に関する健康支援	すずらんスマイルプロジェクトなど困難や生きづらさを抱えるすべての女性への支援	ジェンダーによる男性の生きづらさへの支援・理解促進	多様な性自認・性的指向の人々への支援・理解促進	わからない
(1)現在、区が力を入れていると思う取組	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
(2)今後、特に力を入れてほしいと思う取組	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11

※エンパワーメント：その人が本来持つ力を発揮できるように支援し、環境を整えること。  
また、個人の生活や環境を自分自身でコントロールする力を持つことができるとともに、あらゆる段階の政治、経済、社会、その他の分野における意思決定の場に参画し、自律的な力を発揮すること。

問 30 ジェンダー平等の実現について、ご意見・ご提案やご要望がありましたらご自由にお書きください。